

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

藤本修三氏追悼特集

Obituary: Fujimoto Shuzo

デビッド・ブリル

David Brill



折り図 Diagrams

八咫鳥

Yatagarasu,
a Japanese Mythical Raven

神谷哲史

Kamiya Satoshi

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

騎馬像

Equestrian statue

各務 均

Kakami Hitoshi

つまみおり Information

第22回折紙探偵団コンベンション参加受付開始

The 22nd Origami Tanteidan Convention Now Open for Registration

通巻 **157** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold


手前に折る
Fold paper
forwards


後ろへ折る
Fold paper
backwards


折り筋を
つける
Making a crease line


段折り
Pleat fold


裏返す
Turn paper over


引き出す
Pull out


図の見る
位置が変わる
Rotation


図が大きくなる
A magnified view

.....
見えない
ところ
A hidden line


押す、
押しつぶす
Push paper in


切る
Cut

「八咫鳥」(P.26)

作: 神谷哲史

Yatagarasu, a Japanese
Mythical Raven (P.26)

by Kamiya Satoshi

■神話に登場し、サッカー日本代表エンブレムの題材にもなっている3本足のカラス。足と翼の配置バランス・ポーズ付けを調整して、理想の完成形を目指してください。架空生物としての生命感を微細加工で表現したり、漫画的な決めポーズ・見得切りをイメージした仕上げにするのも良いでしょう。

(解説: 北條高史) Comments : Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **157**



Yatagarasu: Kamiya Satoshi

クローズアップ / Close-up

P.8 藤本修三氏追悼特集

Obituary: Fujimoto Shuzo

デビッド・ブリル

David Brill

折り図：やまぐち真

Diagrams: Yamaguchi Makoto

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 八咫鳥

Yatagarasu, a Japanese
Mythical Raven

神谷哲史

Kamiya Satoshi



P.38 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

騎馬像

Equestrian Statue

各務 均

Kakami Hitoshi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史

Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

吉野星

Yoshino Star

前川 淳

Maekawa Jun

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『本格折り紙』

"Genuine Origami"

菊田 創

Kikuta Hajime

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

作品展「立体折紙の世界」開催の裏舞台

Backstage of the Exhibition "World of 3D Origami"

三谷 純

Mitani Jun

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.36 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

笹沼勇人

Sasauma Hayato

P.37 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

第22回折紙探偵団コンベンション参加受付開始

The 22nd Origami Tanteidan Convention Now Open for
Registration

Modular Origami Quartette

ユニット 折り紙 カルテット 四重奏

前川淳

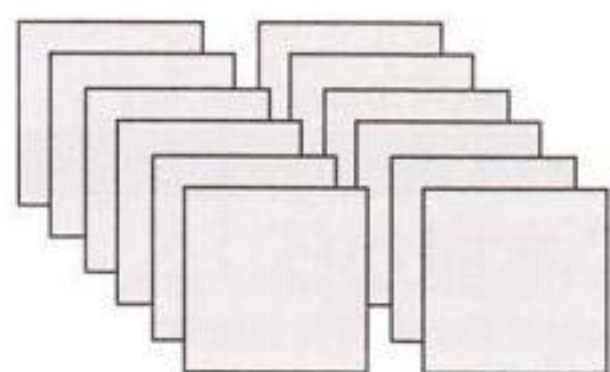
MAEKAWA Jun

ここで紹介するのは、正方形12枚組、正方形6枚組、A判6枚組の3種ですが、正方形を15cm用紙、A判をA6とすると、3つが同じ大きさになります。(正確には、A6・6枚組がわずかに小さい)

今年は、吉野一生さんが32歳で亡くなってから20年になります。この作品は、吉野さんの名前に因んだものです。ただし、作品自体は彼の考案ではありません。

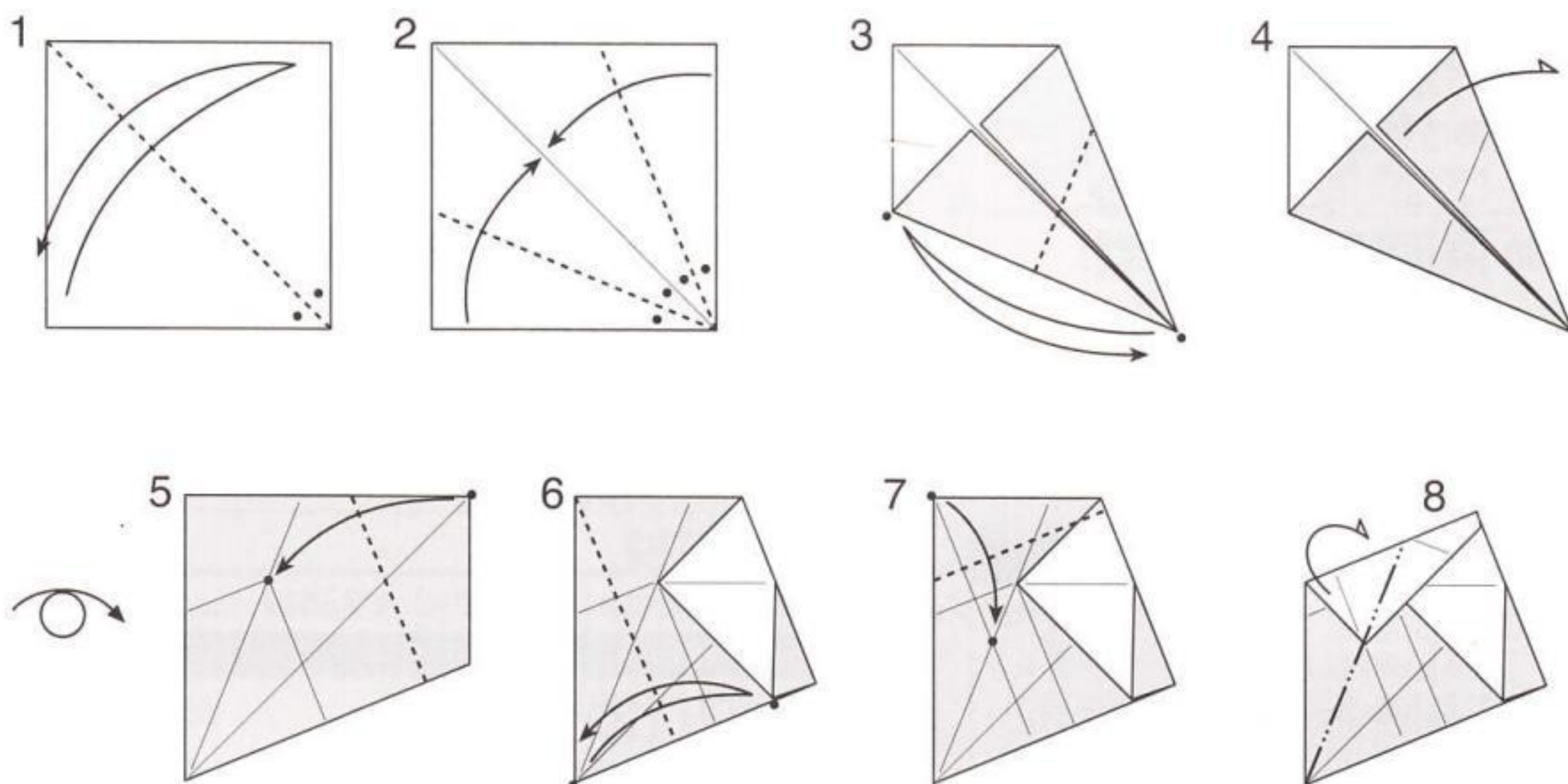
吉野さんが亡くなった年のはじめ、折紙探偵団のウェブサイトを立て上げました。そのさい、彼がいくつかアイコンをデザインしました。その中に、星型の多面体がありました。じっさいの折り紙作品を写したのではなく「菌部ユニットの12枚組みの点を伸ばしたものだ」という話でした。正八面体の面に三角錐を付加したもので、それぞれが色分けされていました。この三角錐が正四面体であれば、「ケプラーの星」と呼ばれる多面体ですが、図から読み取れる三角錐はもっと鋭い角度でした。

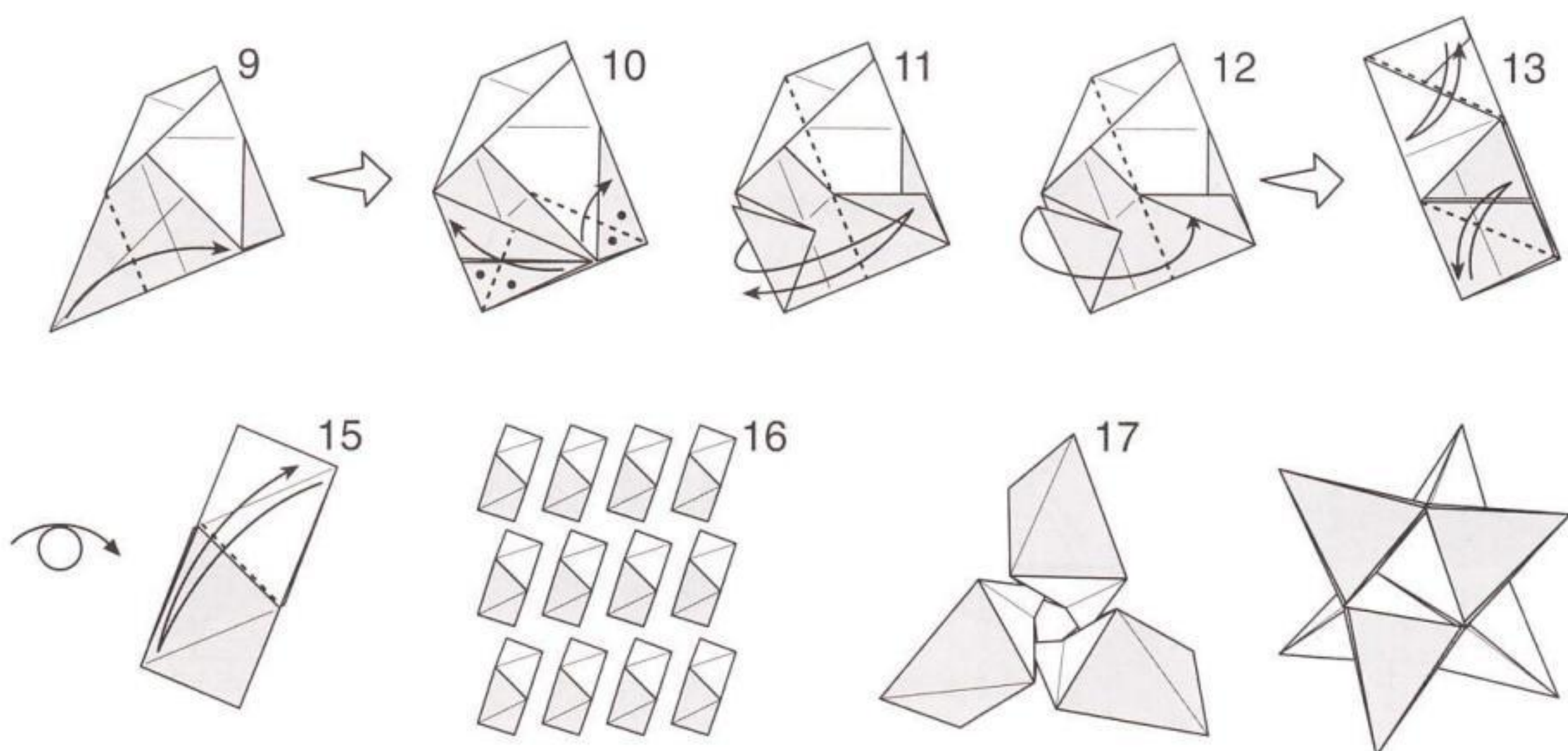
存在していなかったその折り紙作品を現実化したものが、この「吉野星」です。いくつかバリエーションを考えました。まず紹介するのは、当時創作した、三角錐ごとの色分けが可能なものです。紙の枚数をそんなに増やしたくないということもあって、表裏の色の違いを利用しました。ただし、「両面折り紙」を使うと色の選択が難しく、それ自体もパズルになってしまうので、単色(裏表で二色)にするのが一番よいかもしれません。工程は、JOASのWEBでも紹介していたものです。



正方形12枚を使います。

吉野星 Yoshino Star





同じものを12個つくります。

組みかた。

できあがり。

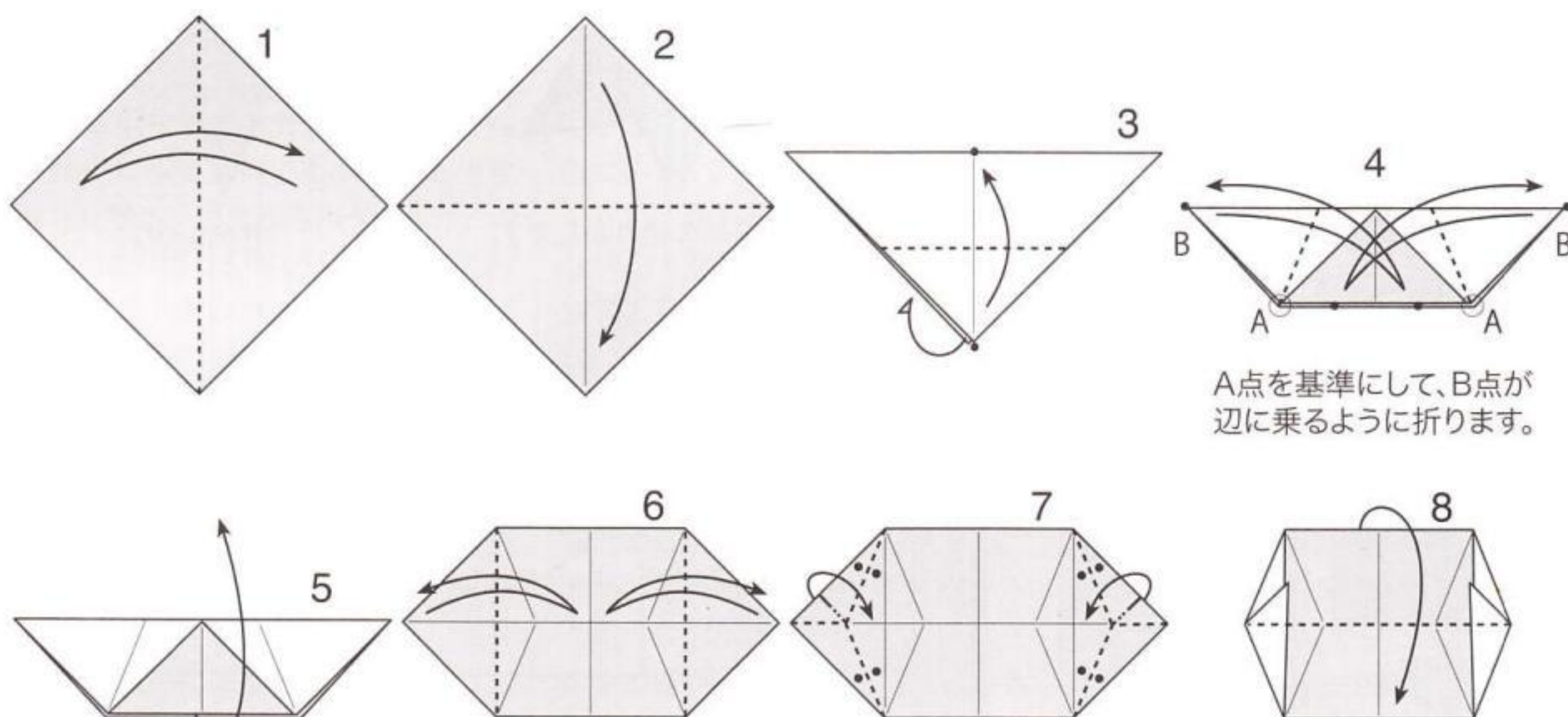
吉野星2016

Yoshino Star 2016

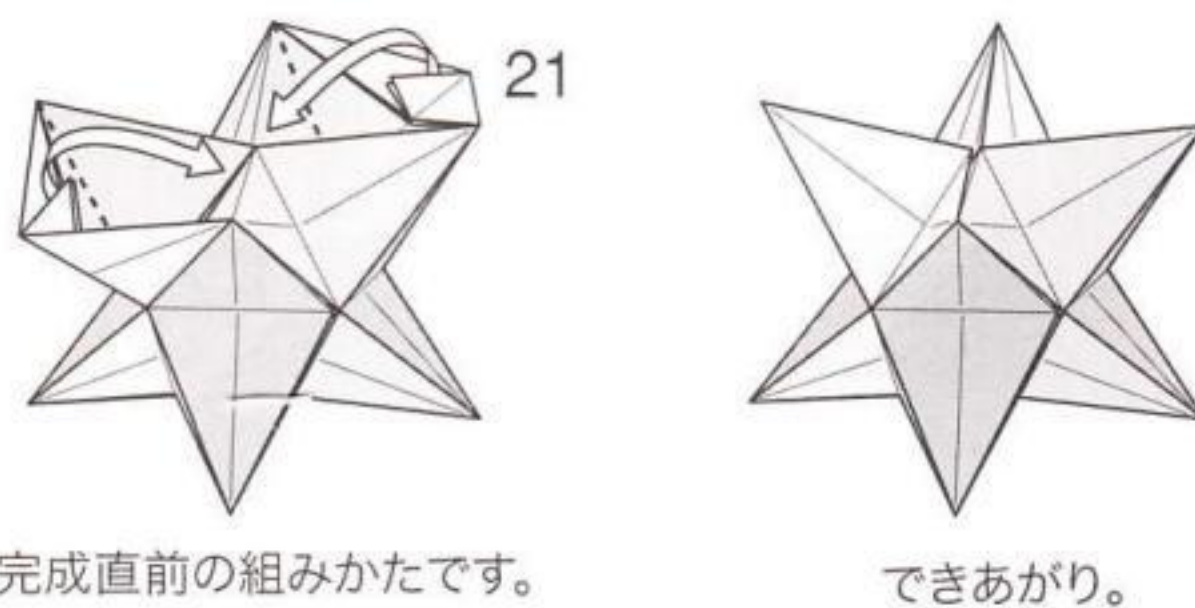
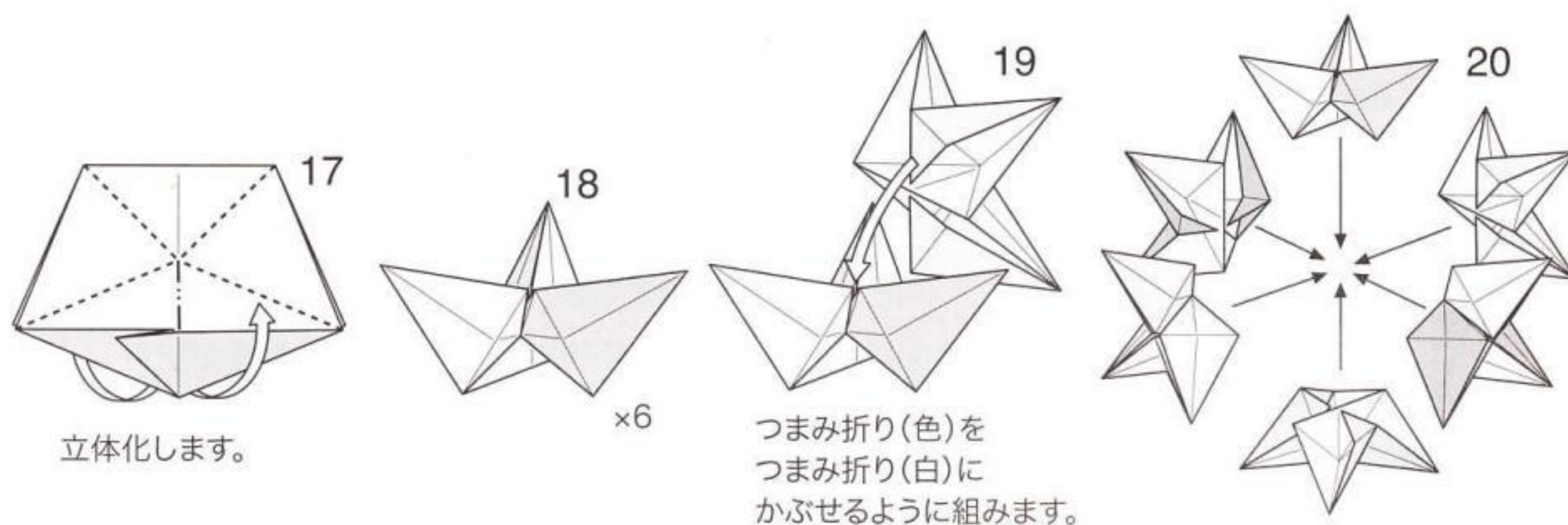
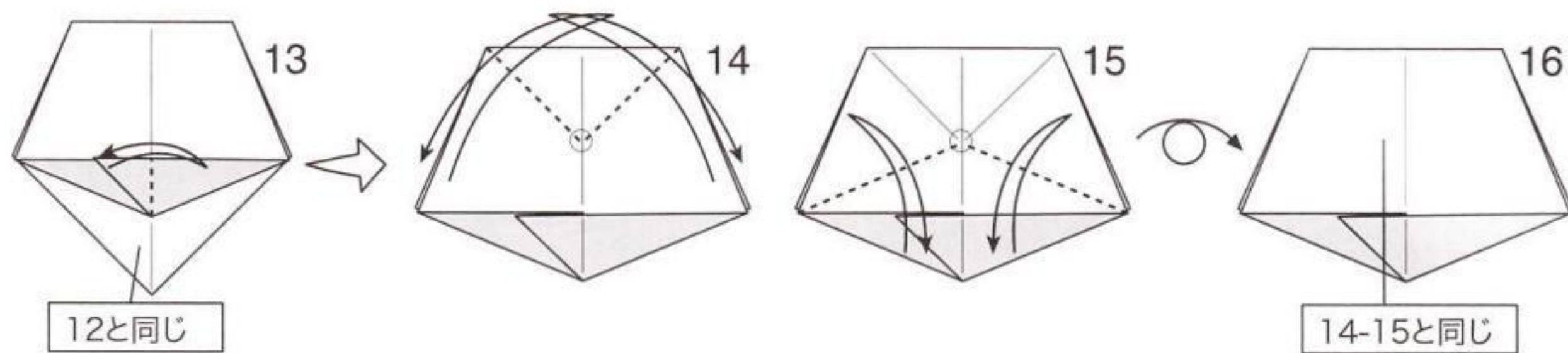
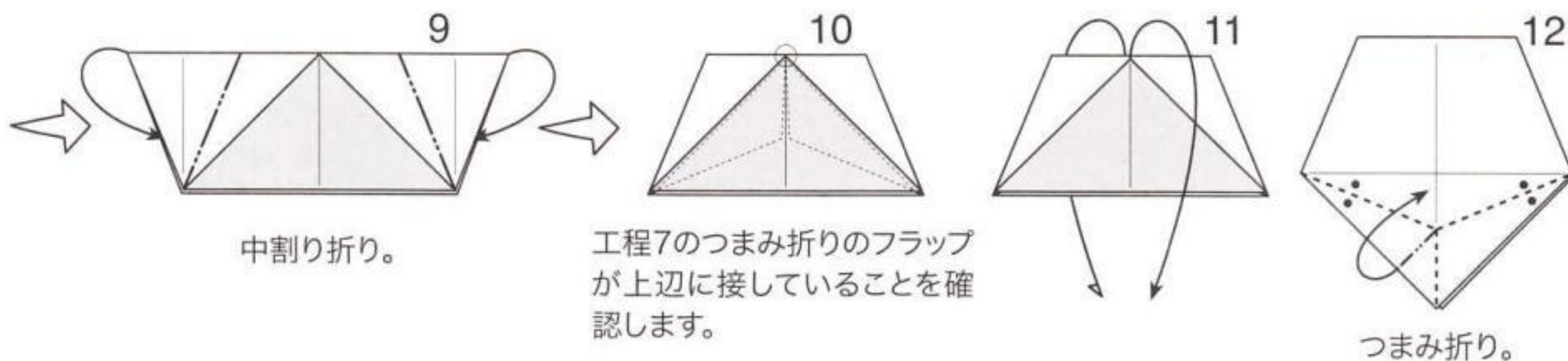


正方形6枚を使います。

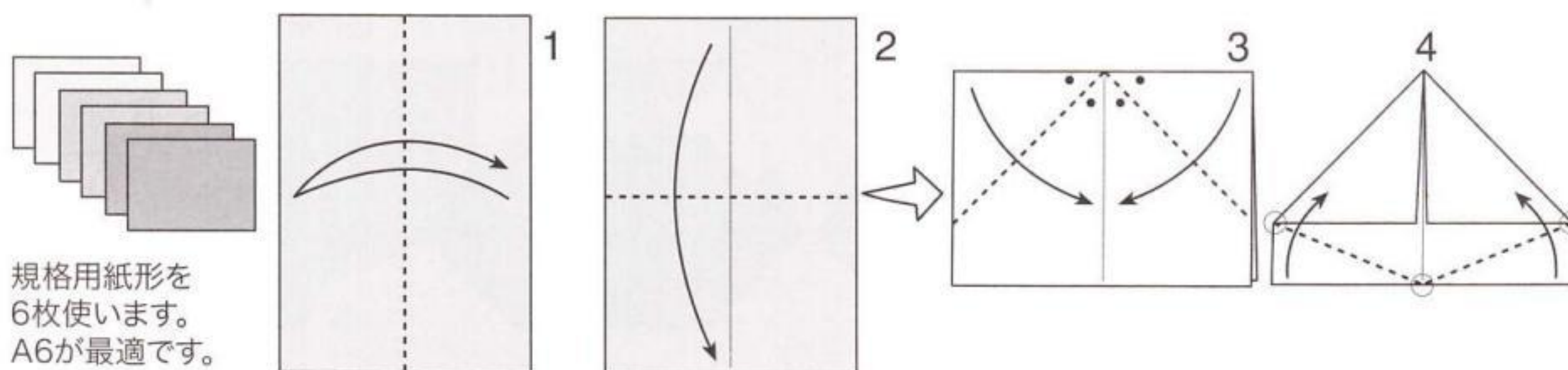
「吉野星」を考案してから、20年余、パーツの数が少ないユニット折り紙をさまざま考案する中で、「吉野星」と同じかたちが、座布団折りをした折鶴の基本形(「菊皿」)の6枚組み、さらに $\sqrt{2}$ 用紙からできることに気がつきました。 $\sqrt{2}$ 版の最後の仕上げに関して、ユニット折り紙界初(!?)となるアイデアも生まれました。これは、吉野さんも面白がってくれたと思います。

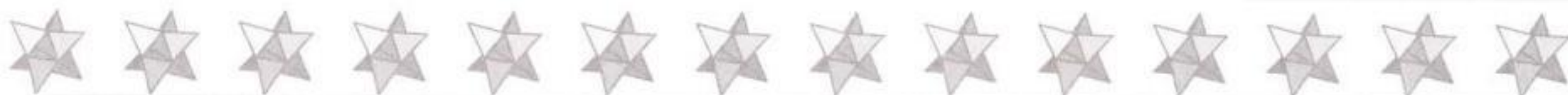
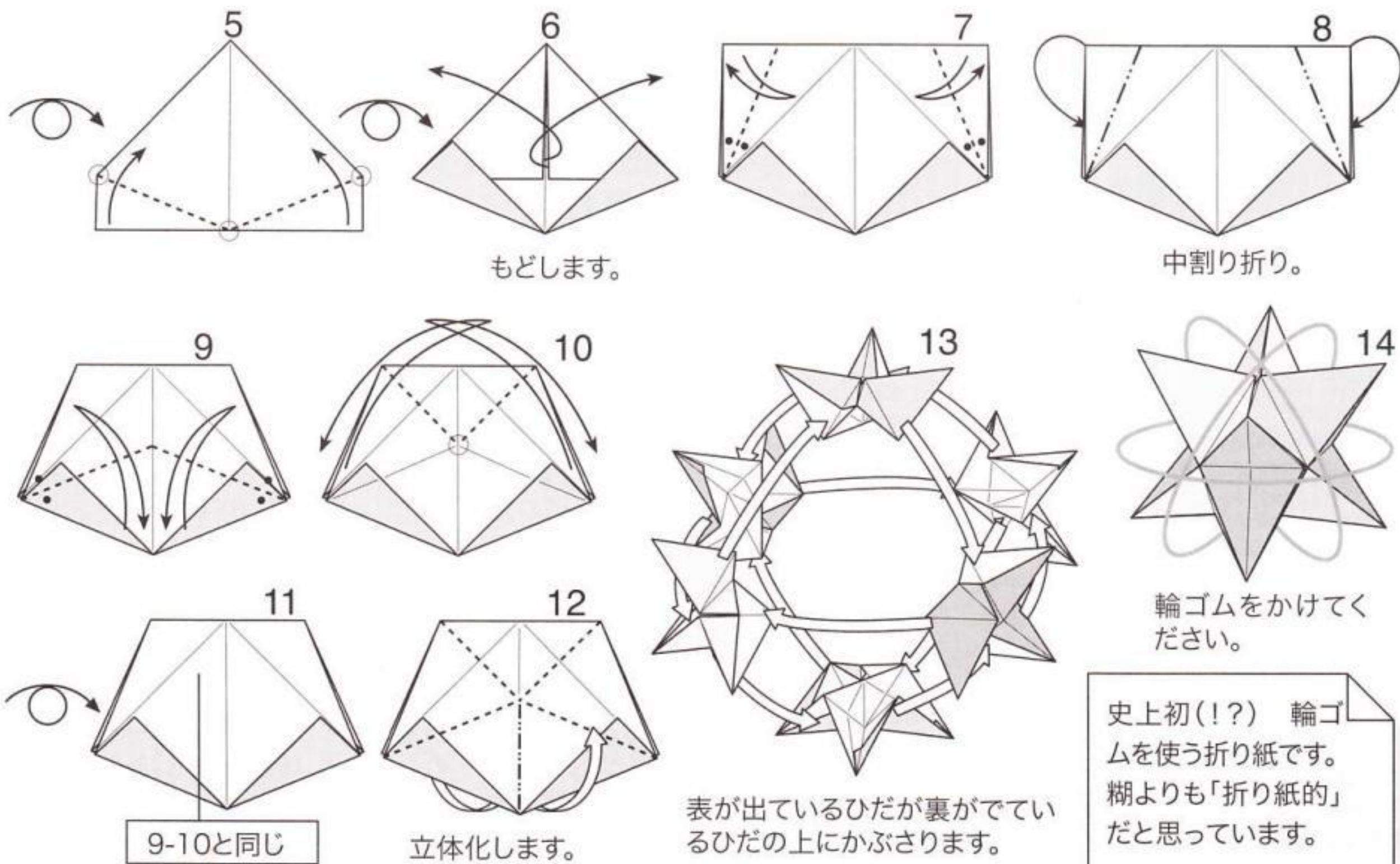


つまみ折り。



吉野星 2016- $\sqrt{2}$ Yoshino Star 2016- $\sqrt{2}$





折り紙の 周辺

布施知子 Fuse Tomoko

第76回

裏切る

Beyond Expectation

Origami and
Its Neighbors

一気に春がきた。コブシより桜が先に咲き、何でもかんでも芽吹き花咲き、カエルも鳴き出した。このあたりでは5月の連休が田植え時なので、田に水が張られると、我が家の下の谷筋にある田からにぎやかな声が小さく聞こえる。今年は2つある池の小さい方—これは実は60ℓの漬け物桶だが、それを並の池に取り替える予定。でも豊科近代美術館での展覧会が始まり、まだ手をつけられないでいる。大きい池のかいぼりを4月10日にした。大きなルリボシヤンマのヤゴがぞく

ぞくでてきた。このヤゴがヒキガエルのオタマジャクシをもりもり食べる。メダカも食べる。私たちはオタマジャクシがカエルになるまでの姿も眺めたいので、去年はヤゴのみなさんに漬け物桶池にお引っ越しをお願いした。そこから4羽のルリボシヤンマが羽化した。羽化して飛び立つ様子も運良く一度眺めることができた。4つの抜け殻は小さい缶にしまっている。

さて、展覧会が始まり落ち着いた日々を送っている。美術館の規模と私の持っている作品を照らし、今回はユニットの立体は出さないことにした。布施さんと言えばユニットじゃないの、と言われたが、全体のバランスや色を考えて、今回はお蔵入りにした。その代わりに昨年ドイツでの展覧会の後に作った新作も、ためていた作品もたくさんお披露目できた。まずまず、おもしろい展示になったと思う。

私はある美術関係者に、おおむね、次のような手紙を送った。「…子供からお年寄りまで、幅広くたのしまれている折り紙は、それだけのパワーと形の美しさ、展開のおもしろさを持っています。日本では親しまれているが故に、それが仇となって、一般の方々の頭の中にはある種の折り紙像が固定している気がします。

折り紙展はどこでも大人気です。子供がたくさん来ます。お年寄りもたくさん来ます。

私は、いい意味で、折り紙ファンを裏切るような、また一般の人にも裏切るような作品を見せたいのです…。」

展覧会はもう始まったので、果たしてもくろみどおりに運んでいるかどうか。すでにおいでいただいた方はどんな感想をもたれたのだろう。そして展覧会が終わったら、私はどんな感想を持つのだろう…。

藤本修三氏追悼特集

Obituary: Fujimoto Shuzo

デビッド・ブリル

David Brill

前号でもお知らせしたが、藤本修三さんが2015年7月28日に92歳で逝去された。今回は、親交のあったブリル氏が寄せてくださった追悼文と、魅力的な藤本作品の折り図をお届けする。

私がはじめて藤本修三氏の作品を知ったのはバーミンガムで1979年に開かれた英国折紙協会(BOS)の展示会でのことでした。展示会の後、すべての作品を提供してくれた皆さんに、展示会のカタログと写真を添えた御礼のお手紙を書いたのです。これがきっかけで藤本氏との交流が始まりましたが、これは私にとって大変楽しいものでした。藤本さんからの手紙はいつもほんの数語の英語のメッセージに大変興味深い作品が同封されたものだったのです。展示会での彼の半透明作品群に私は大変魅了されたので、私はBOSマガジン91号に「ねじり折り、蛇腹折りと光の筋」というタイトルで記事を書きました。これらの藤本さんによる平面ねじり折りと蛇腹折りのデザインは、今盛んに行われているテッセレーション(Tessellation)の基礎となったものと思っています。

1980年の9月について藤本修三さんと京都でお会いすることが出来ました。彼はたくさんのプレゼントをその時私にくださったのですが、その中には、彼の作品があふれんばかりに詰まった折り紙で作った箱もありました。イギリスに帰ってすぐ、私はこの箱を詳しく調べ、驚くべきキューブ作品であることを発見しました。もし私が無人島で独りぼっちなら、迷わずこのフジモト・キューブを折る、というくらいこの作品は本当の名作です。ジョン・ミスさんはこの作品に刺激されて詩を書いたくらいです。

昨年藤本さんが亡くなったことは折り紙界にとって本当に大きな損失です。藤本さんは伝承・近代を問わず、どの作家・作品の影響も受けず、常に「フジモト」であり続けました。頭の中はアイデアに満ちあふれ、そのアイデアをすぐに作品に昇華せずにはいられない、紙など選ぶ暇は

ない、そういう人でした。その後も藤本さんからは何年もの間たびたびお手紙をいただきましたが、そこにはたくさんの広告チラシや雑誌のページで折った傑作が同封されていました。

彼はたくさんの本を出版しましたが、自費出版ですぐに絶版になってしまいました。彼の友人たちが、幸いなことに再版をしてくださっています。齊藤聡子さん、丹羽兌子さん、布施知子さんのお三方のご尽力で、藤本作品は2冊の本となっています。もし藤本さんをよくご存知でない方は、これらの本で他のだれにも真似できない藤本さんの世界を堪能してみてください。はいかがでしょうか。(デビッド・ブリル)

『おりがみ あじさい折り』2010

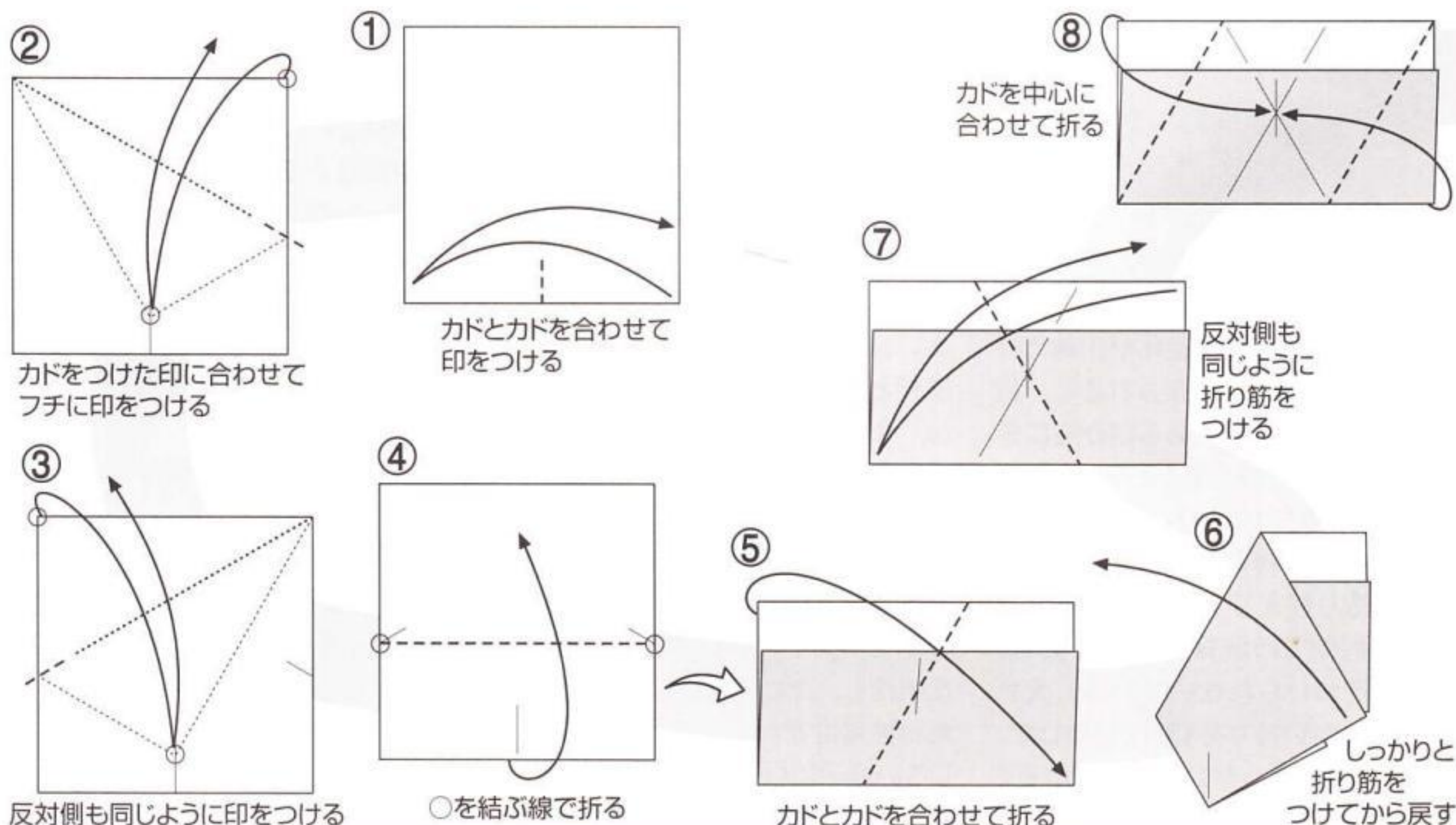
(※絶版)

『おりがみ ねじり折り』2012

(共に誠文堂新光社・刊)

フジモト・アップル / Fujimoto Apple

折り図: やまぐち真 Diagrams: Yamaguchi Makoto



As noted in the last issue, Fujimoto Shuzo had passed away on July 28, 2015, at the age of 92. In this issue, an obituary column by David Brill will be presented, along with diagrams of Fujimoto's fascinating models.

My first awareness of Shuzo Fujimoto and his work stems from an exhibition staged by the BOS in Birmingham in 1979. I wrote to acknowledge the contributions of all artists after the show, enclosing a small catalogue and some photographs. Thereafter began a delightful correspondence with Fujimoto. His letters were only of a few words of English, with a number of intriguing origami models, all together in the envelope. I'd been fascinated by his Translucent Designs which were displayed at the exhibition, and I later wrote about them for British Origami magazine 91 in an article called Twists Pleats and Beams of Light. It seems that these flat twisted and pleated designs by Fujimoto were the foundations of the current fascination with origami tessellations.

I had the pleasure to meet Shuzo Fujimoto for the first time in Kyoto in September 1980. He gave me a number of presents including a

large, rather flimsy origami box, crammed with his creations. On my return to the UK, I started sifting through this and discovered the miraculous Cube. This is my first choice of "Desert Island Folds", and a true masterpiece. John Smith was inspired to write a poem about it.

Shuzo Fujimoto's passing last year is a genuine loss to the origami community. His work is seemingly uninfluenced by other trends or styles, being neither traditional nor contemporary, just unquestionably Fujimoto. Brimming with new ideas, which he was impatient to convert into folded reality, he paid no attention to fine papers or expensive materials. Frequently the letters which I continued to receive many years later contained little masterpieces, folded from advertising flyers or pages torn from magazines.

He was the author of several self published books, which soon became out of print, though recent



David Brill

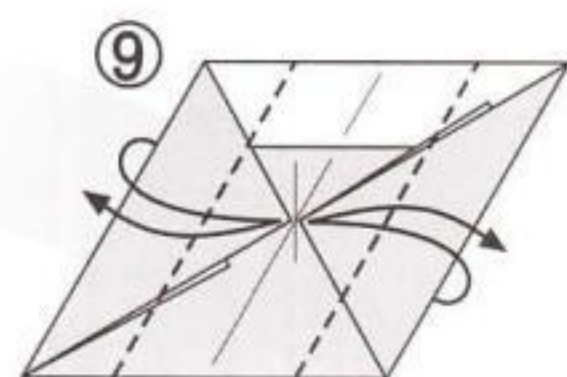
Born 1948 Learned origami at age of 5 BOS chairman 1995-2004, now Vice President. Author Brilliant Origami (Japan Publications) 1996 Active origami designer since 1975 Personal exhibitions: Confluence, Freising 2010, Gerduburg Arts Centre Reykjavik 2013 Special guest at recent conventions: Kazimierz Dolny Poland 2010, Centerfold Columbus Ohio USA 2010,

reprints have appeared thanks to the dedication of friends. The trio of Satoko Saito, Tomoko Fuse and Taiko Niwa produced two fine volumes, Hydrangea Folds, and Twist folding. If you don't know about Shuzo Fujimoto, these are the best way to explore his inimitable work. (David Brill)

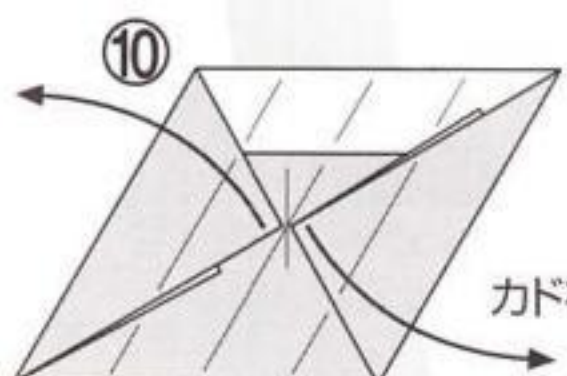
"Hydrangea Folds" 2010 ISBN 978-4-416-31041-0

"Twist Folding" 2012 ISBN 978-4-416-31200-1

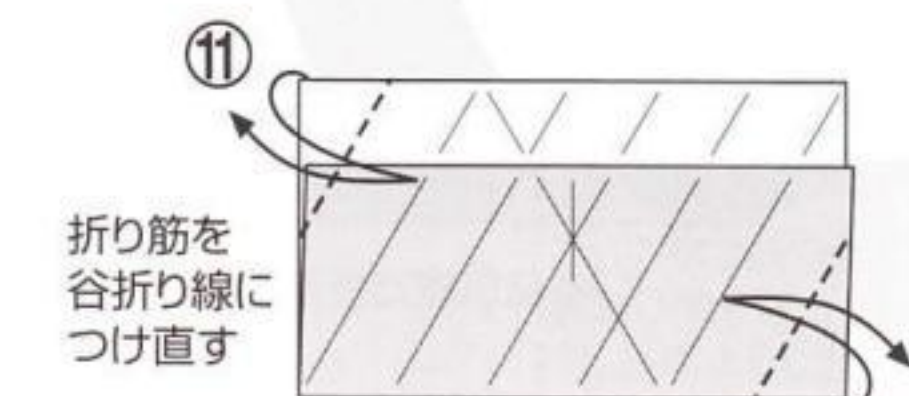
Publisher Seibundo-Shinkosha Co Ltd Japan



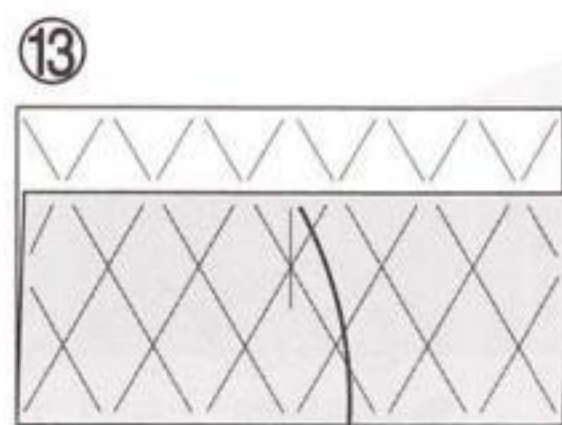
⑨
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



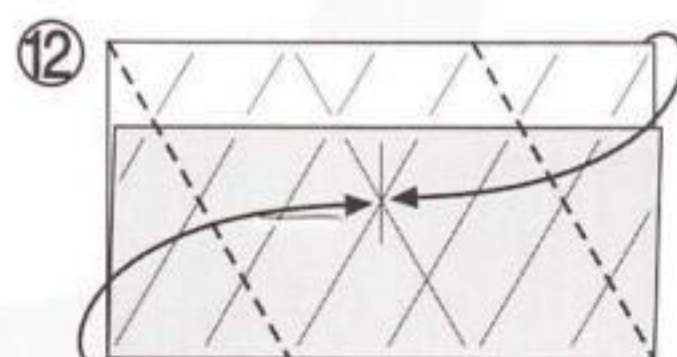
カドを戻す



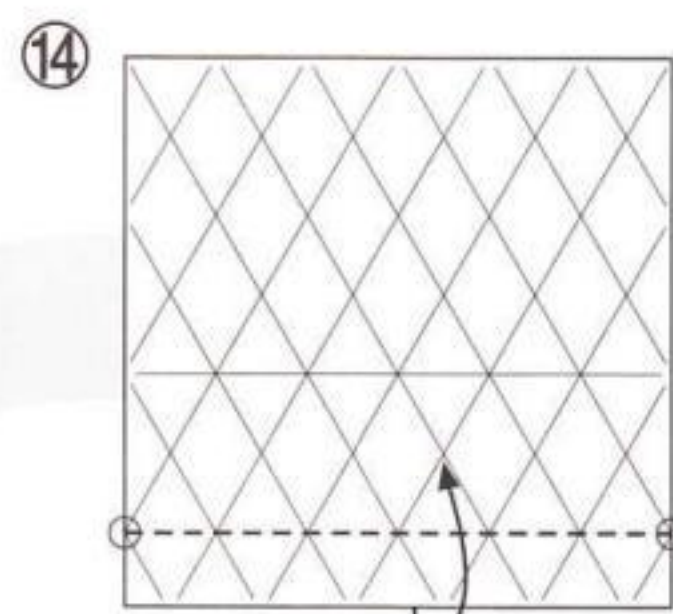
⑪
折り筋を
谷折り線に
つけ直す



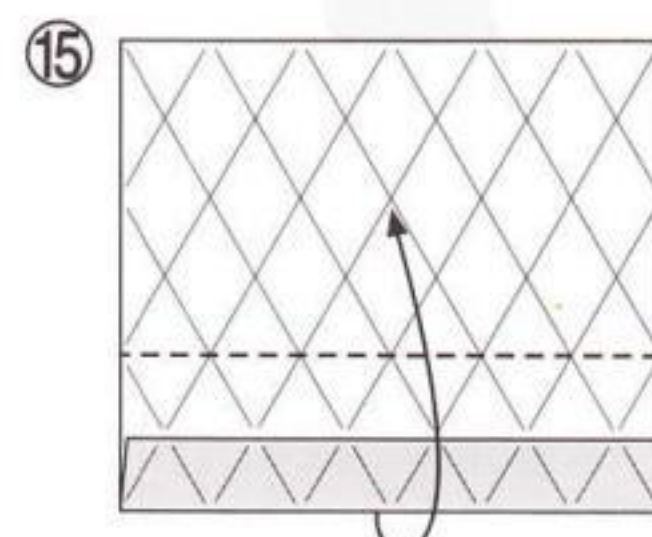
⑬
フチをひろげる



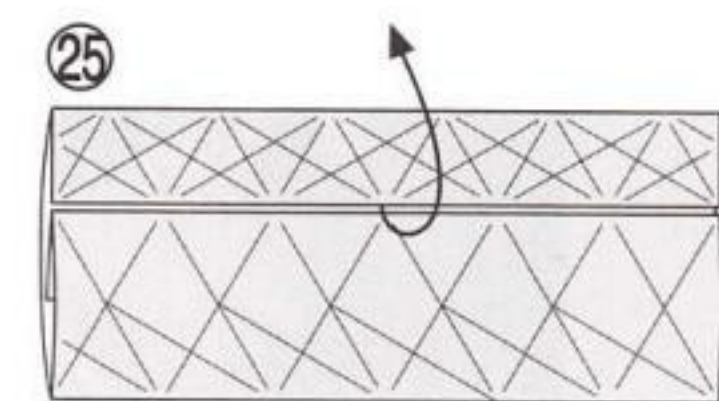
⑫
⑧～⑪と同じようにして
反対向きの折り筋をつける



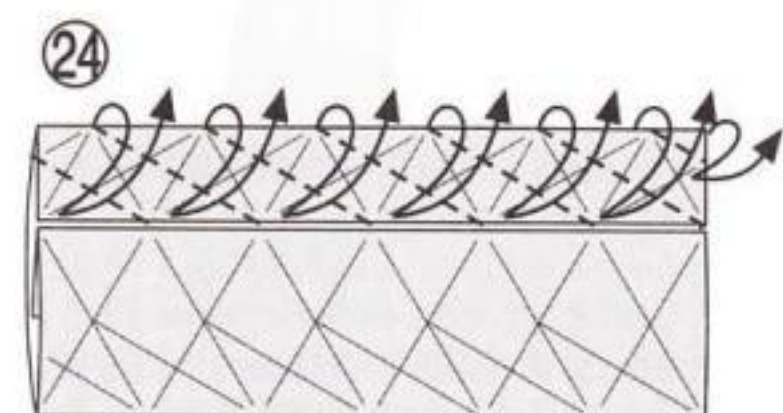
⑭
○を結ぶ線で折る



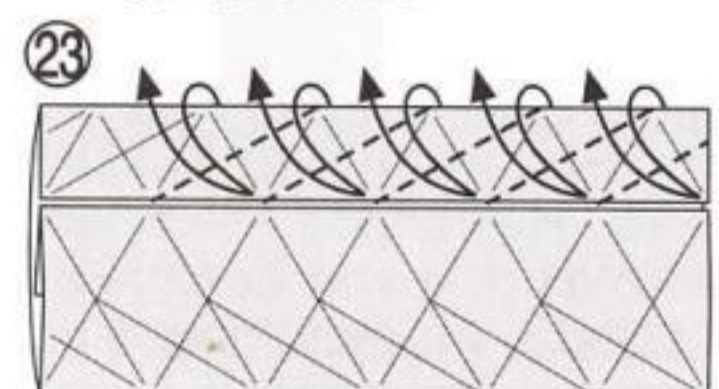
⑮
フチをついている折り筋で折る



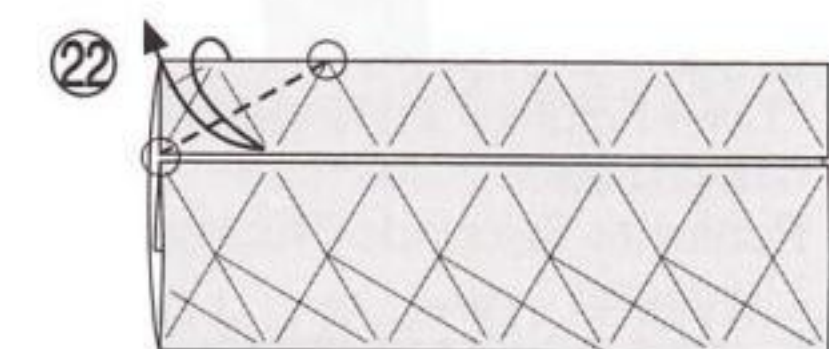
フチをひろげる



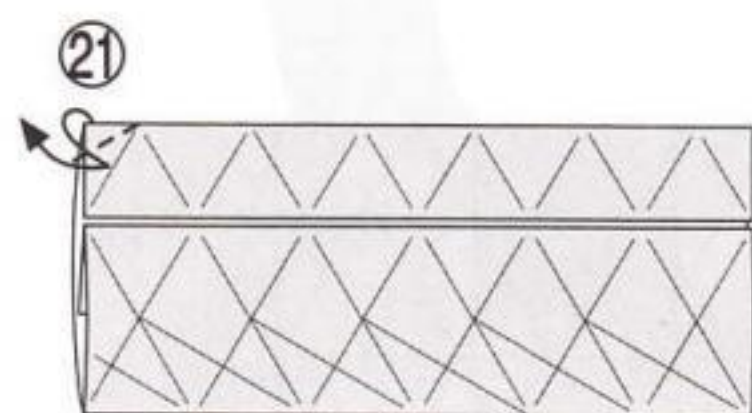
反対向きにも同じように
折り筋をつける



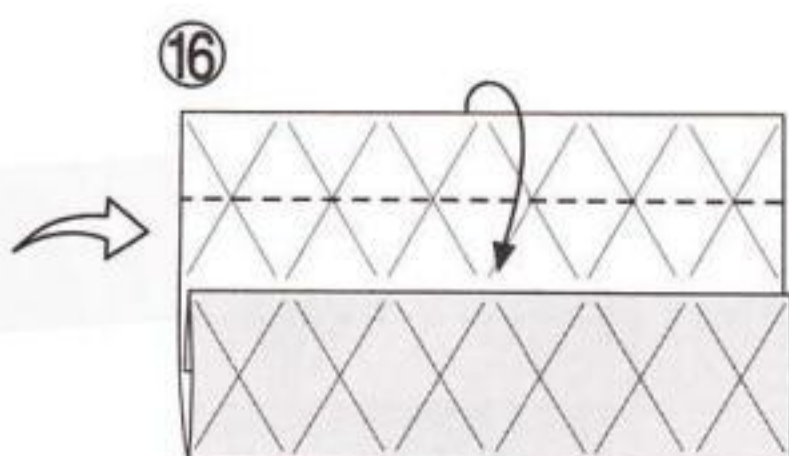
残りも同じように折り筋をつける



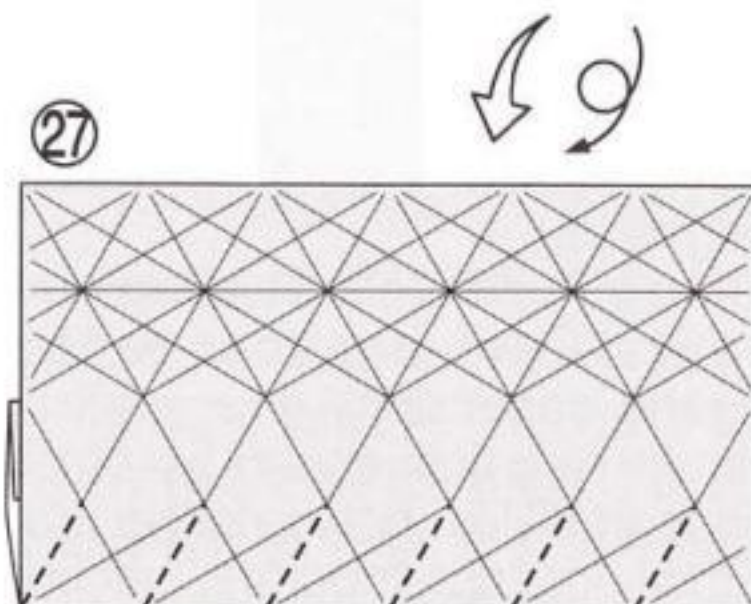
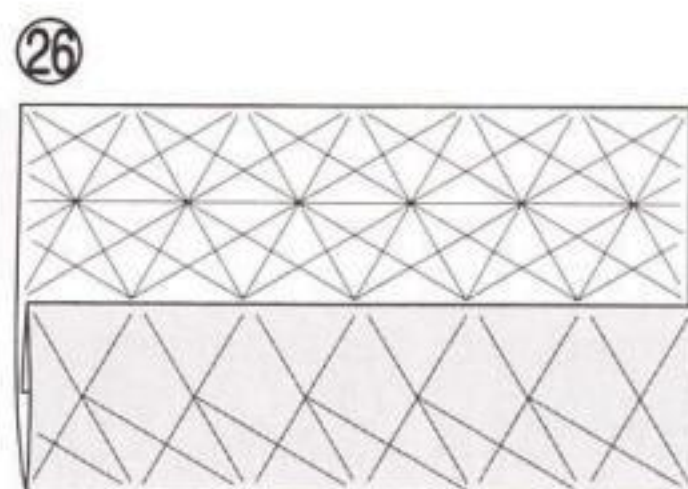
○を結ぶ線で折り筋をつける



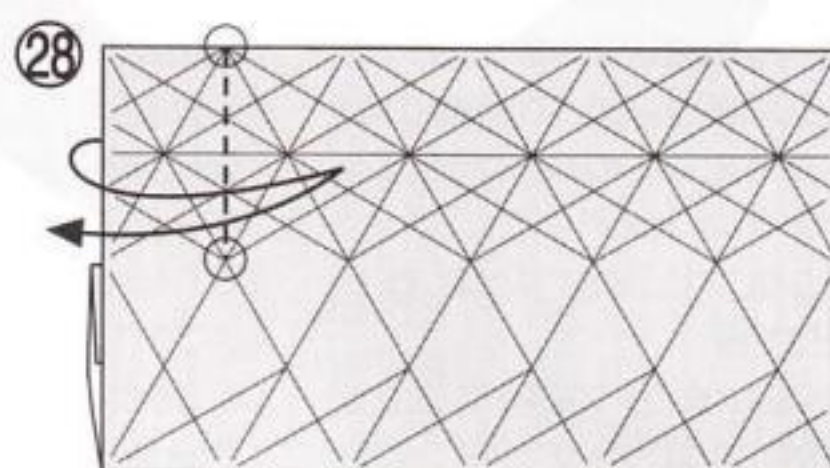
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



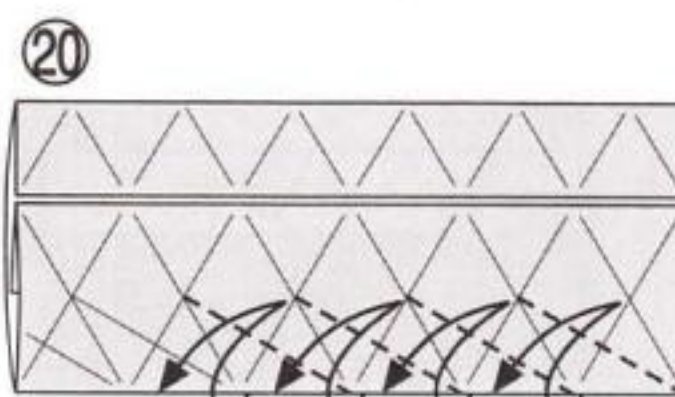
フチとフチを合わせて折る



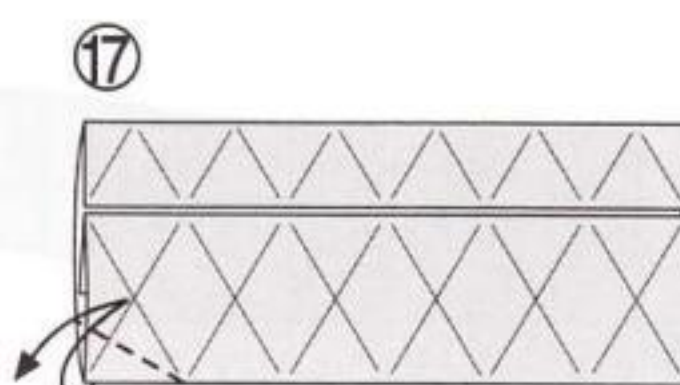
図のように折り筋を
谷折り線につけ直す



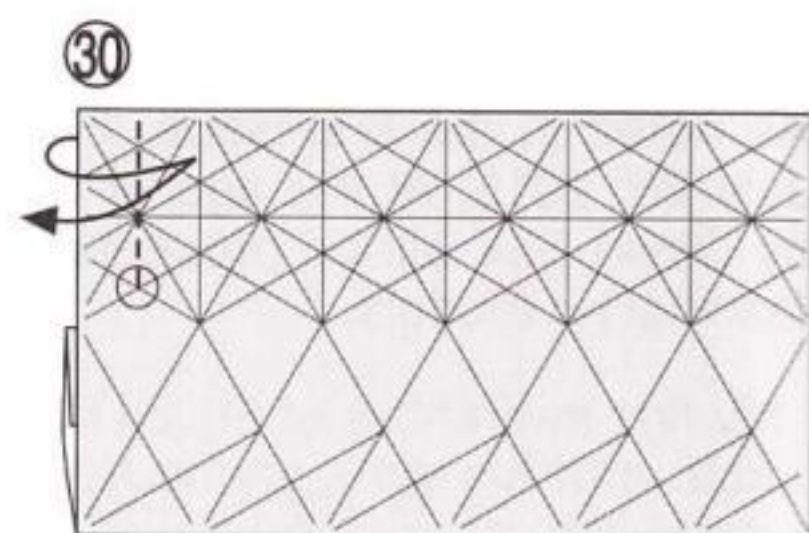
○を結ぶ線で折り筋をつける



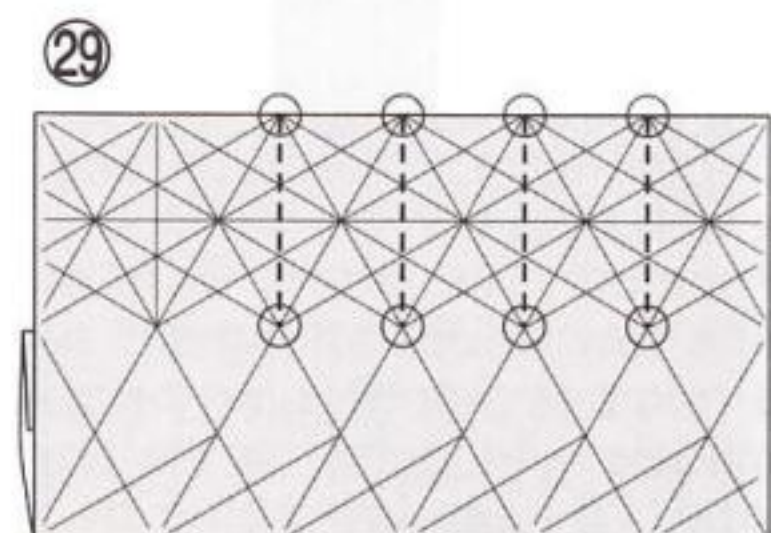
18~19と同じようにして
折り筋をつける



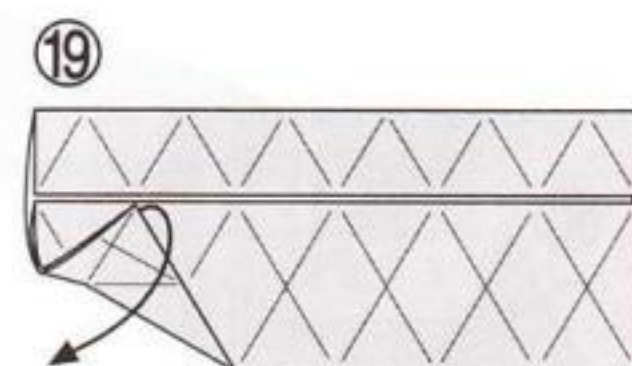
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



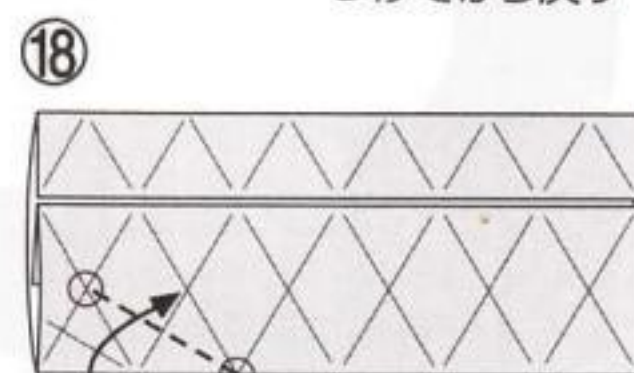
○のところまで折り筋をつける



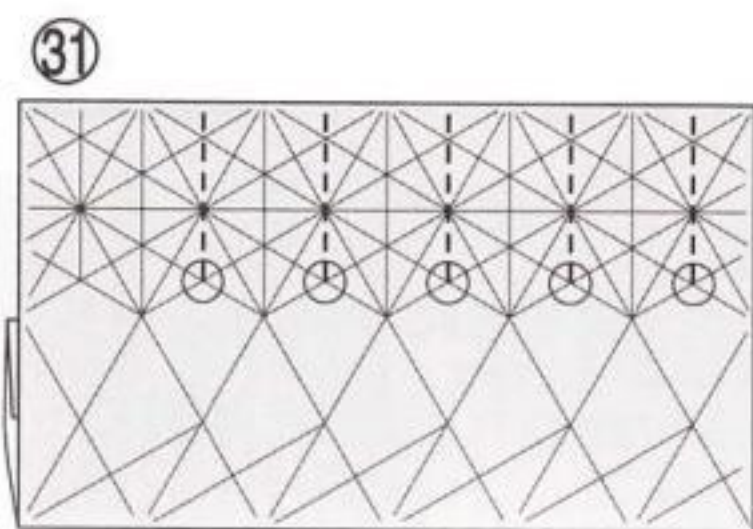
同じようにして図のように
折り筋をつける



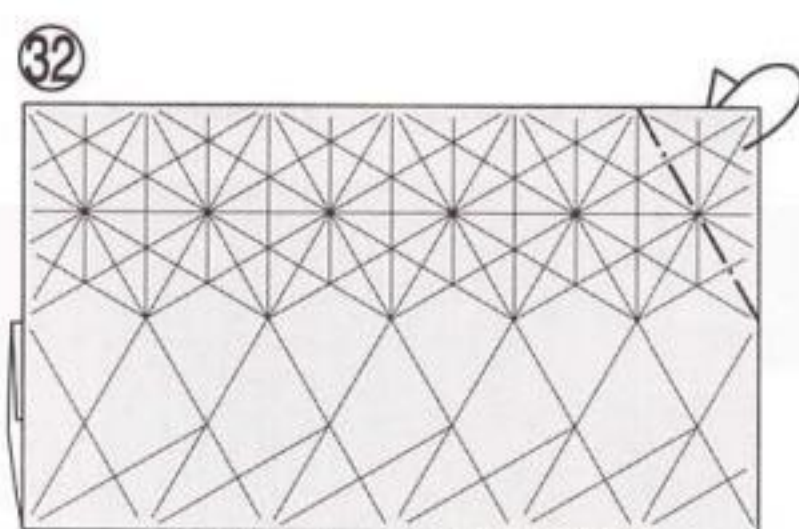
しっかりと折り筋を
つけてから戻す



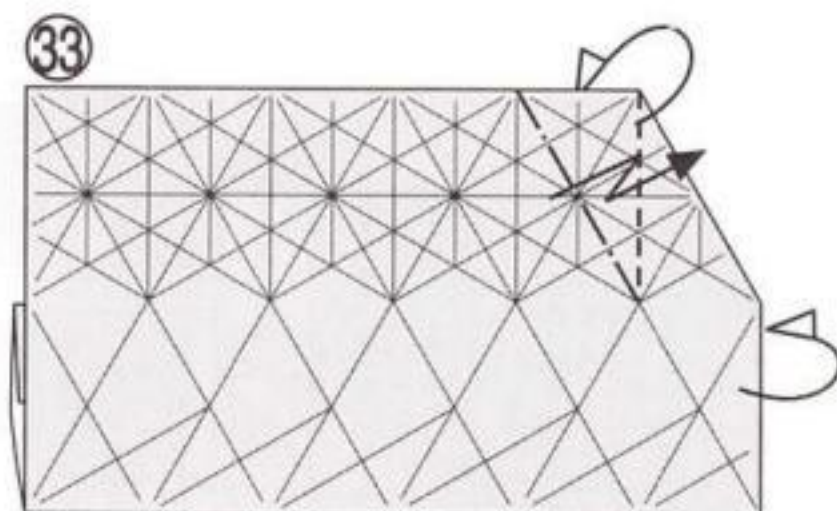
○を結ぶ線で折る



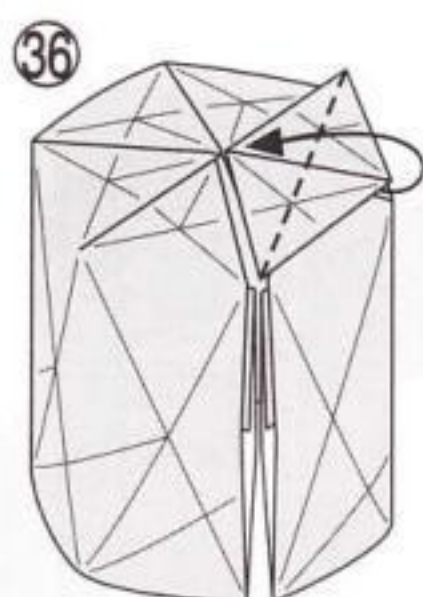
31 同じようにして図のように折り筋をつける



32 カドをついている折り筋で後ろへ折る



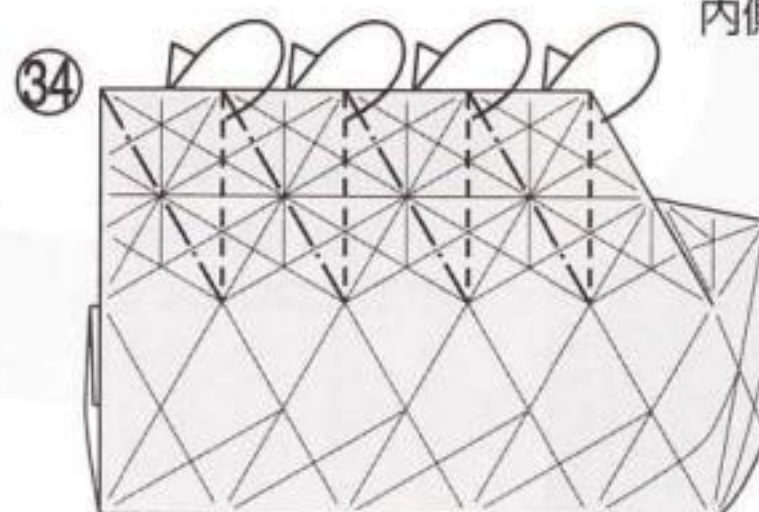
33 ついている折り筋で内側に段折り



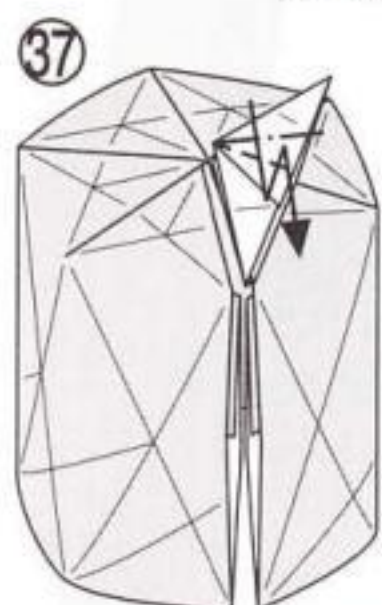
36 カドをついている折り筋で折る



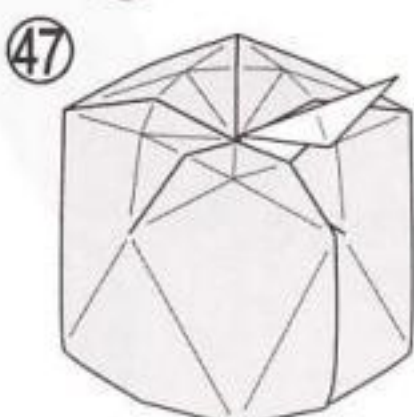
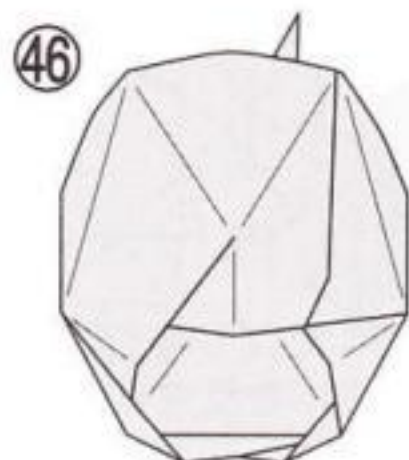
35 カドをついている折り筋で折る



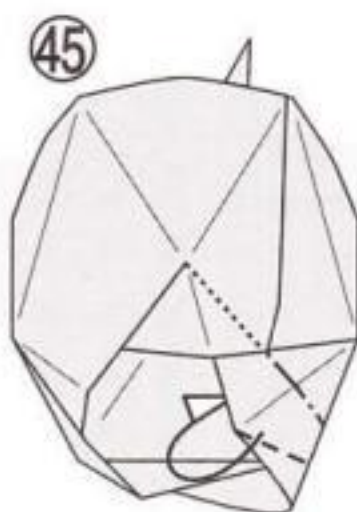
34 同じように段折りをして六角柱状の立体にする



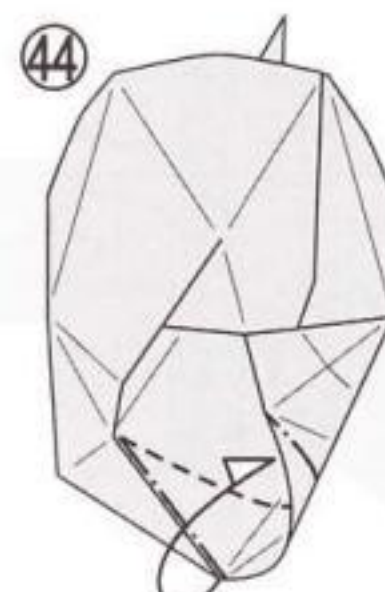
37 ついている折り筋で斜めに段折り



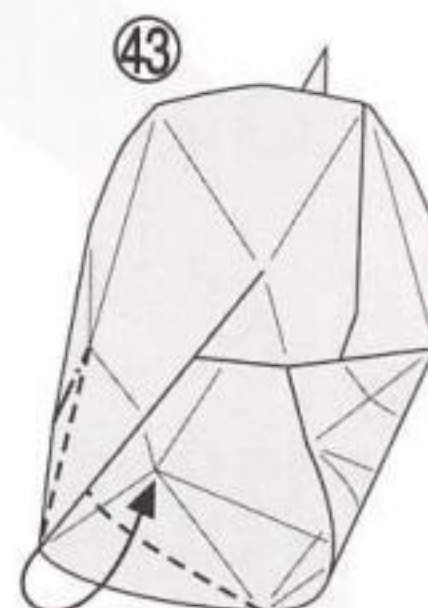
できあがり



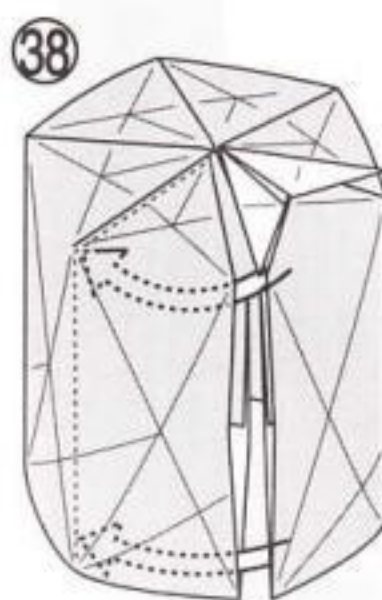
45 最後の部分も同じようにして内側に折り込む



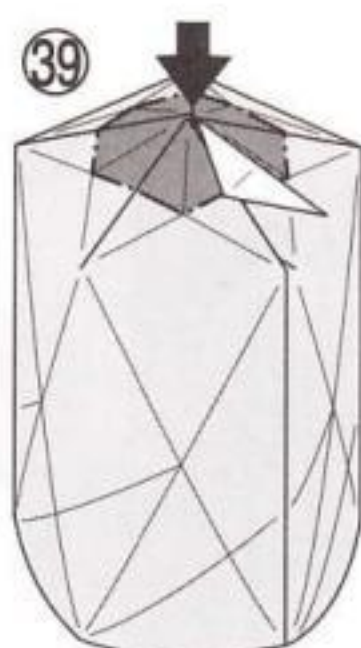
44 次の部分も同じように折る



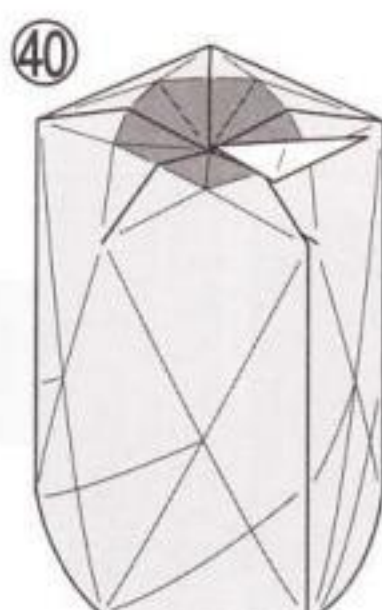
43 次の部分も同じように折る



38 フチを反対側のすき間に差し込んで五角柱状にする



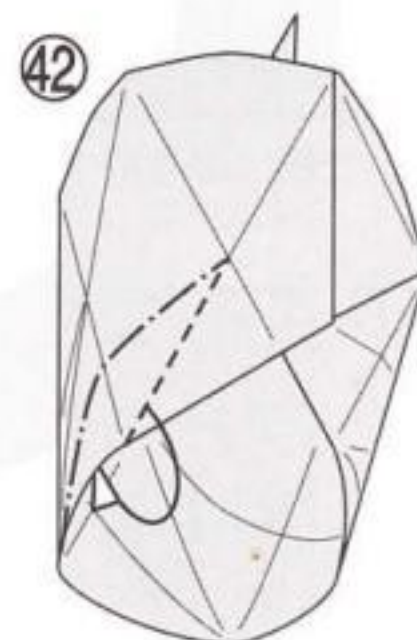
39 ついている折り筋で■の部分を押込むように折る



40 次の図は下側から見る



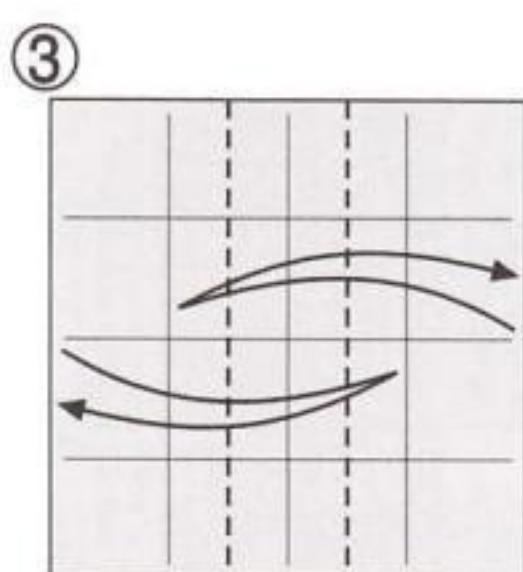
41 ついている折り筋で内側に引き寄せるように折る



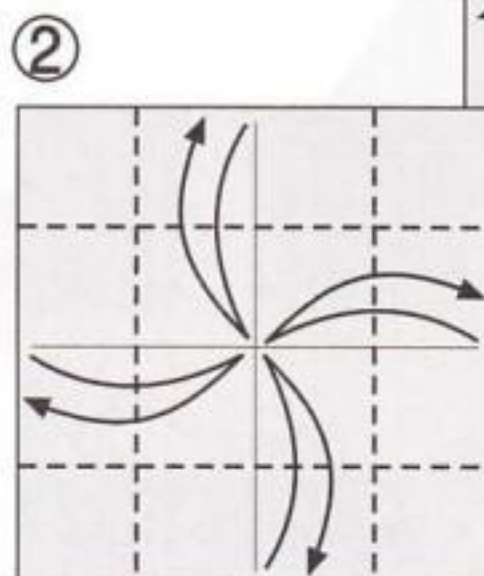
42 隣の部分も同じように折る

あじさい折り1 / Fujimoto Hydrangea (Ajisai) 1

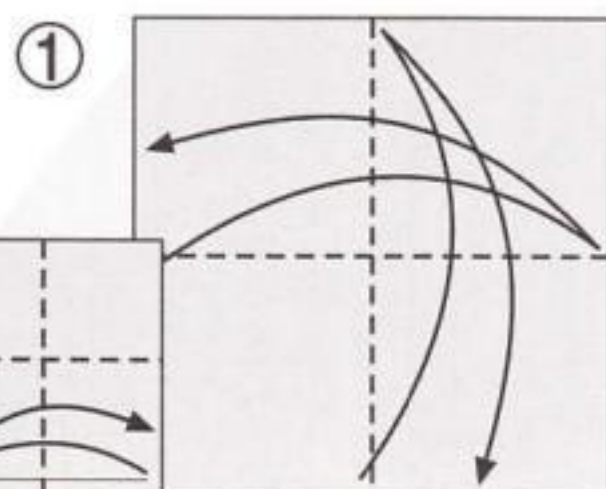
折り図: やまぐち真
Diagrams: Yamaguchi Makoto



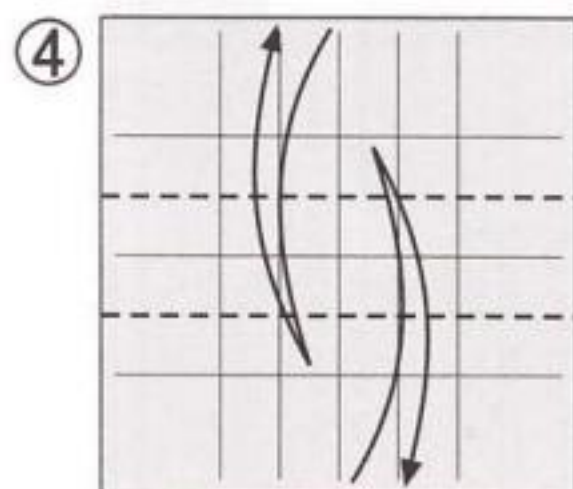
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



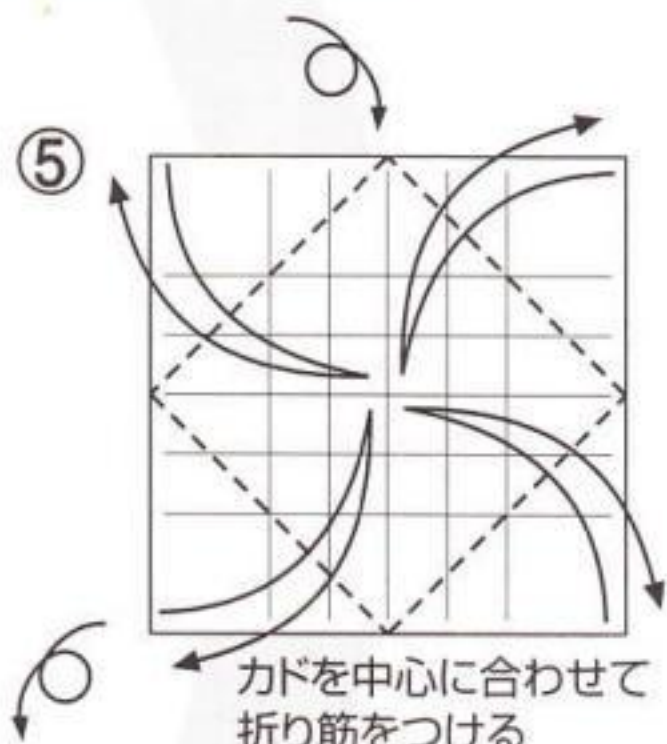
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける



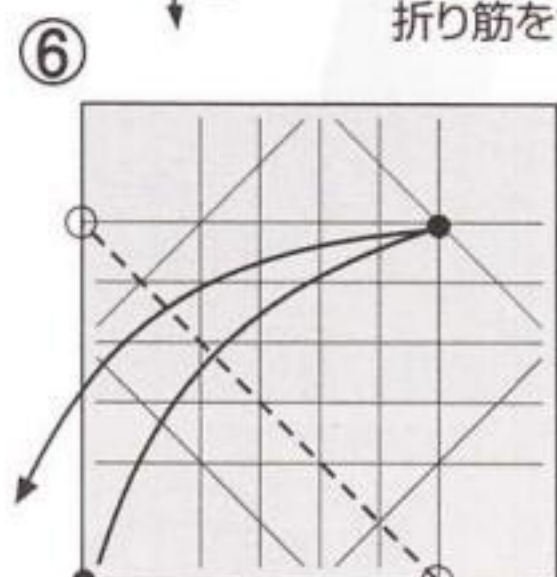
半分に折り筋をつける



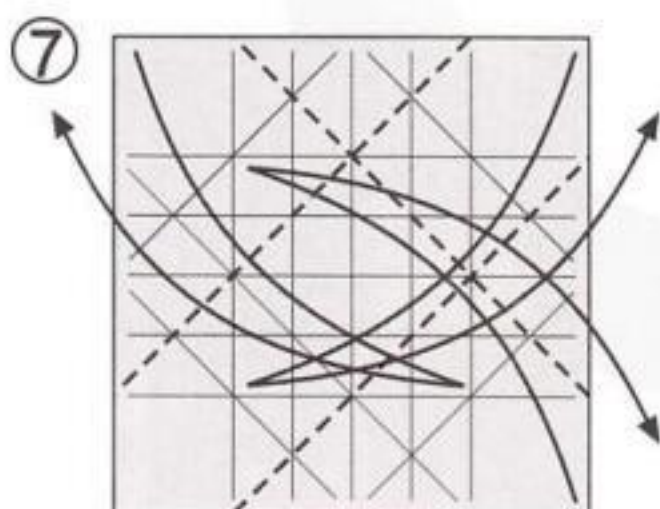
フチを
折り筋に合わせて
折り筋をつける



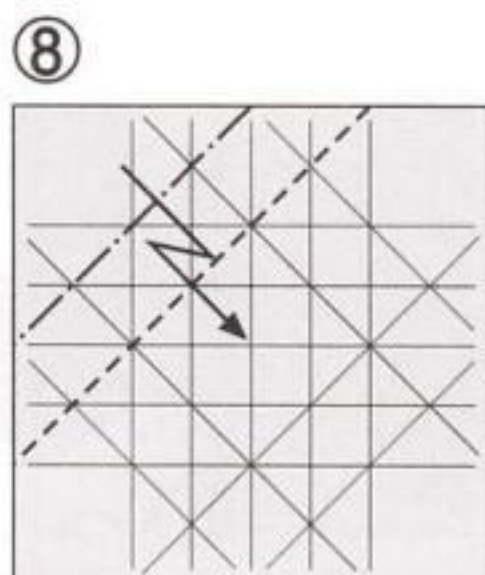
カドを中心に合わせて
折り筋をつける



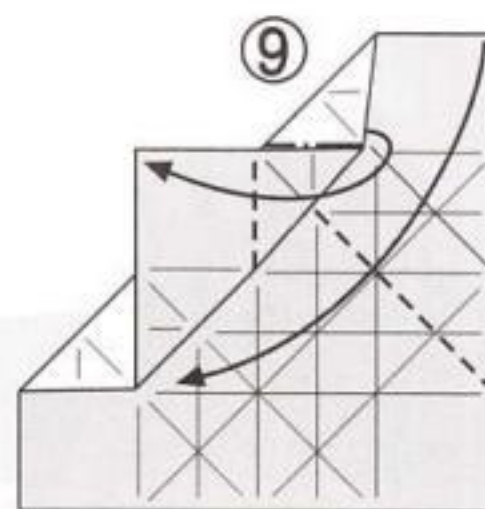
○を結ぶ線で折り筋をつける



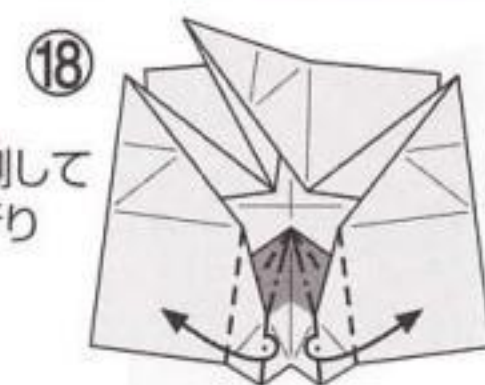
残りも同じように折り筋を
つける



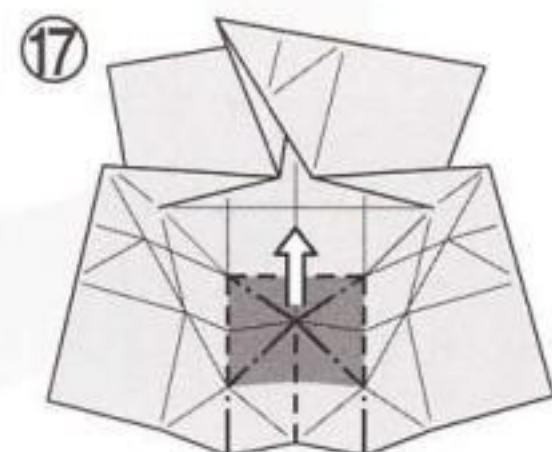
ついている折り筋で段折り



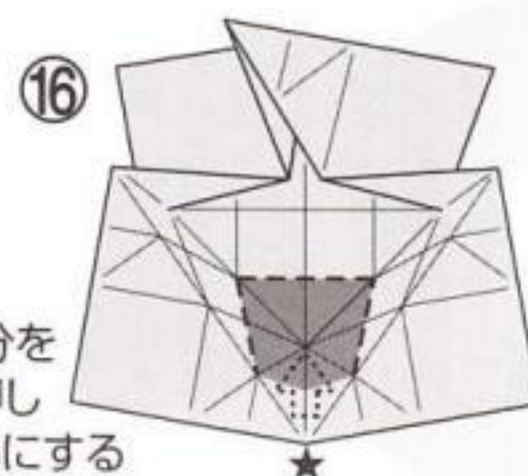
ついている折り筋で
内側をひろげて
折りたたむ



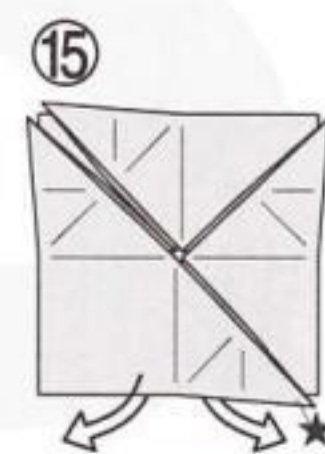
両側へ倒して
平らに折り
たたむ



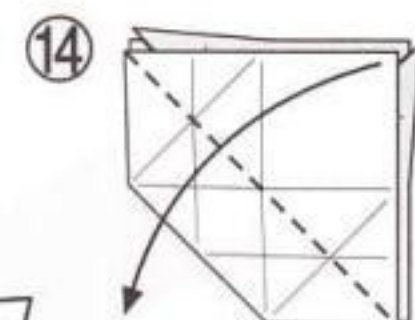
そのまま上へ押し出して
カドを作る



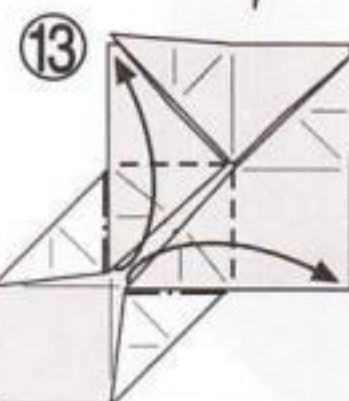
の部分を
後ろから押し
出して平らにする



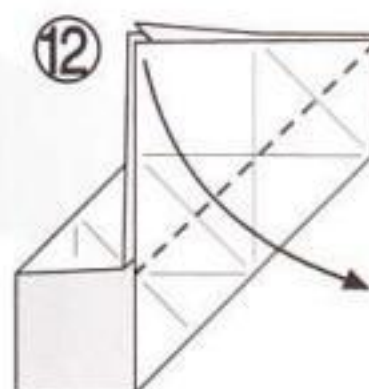
下のフチを
かるくひろげる



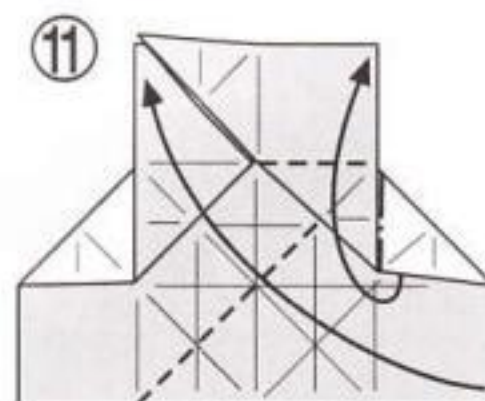
ついている折り筋で
カドを反対側へ折る



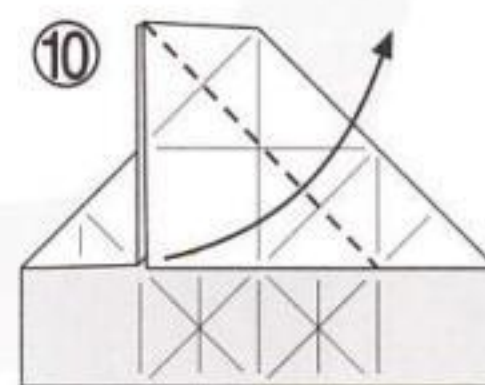
ついている折り筋で
内側をひろげて
折りたたむ



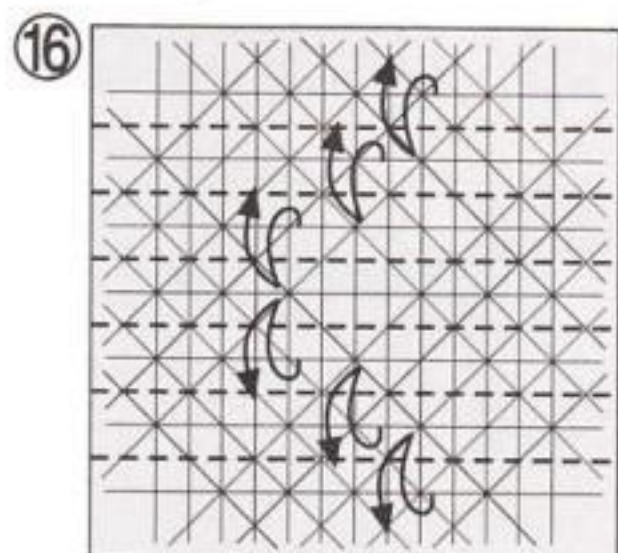
ついている折り筋で
カドを反対側へ折る



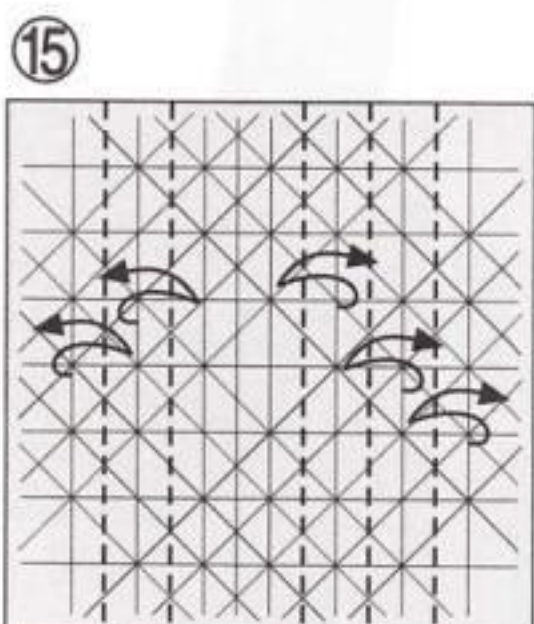
ついている折り筋で
内側をひろげて
折りたたむ



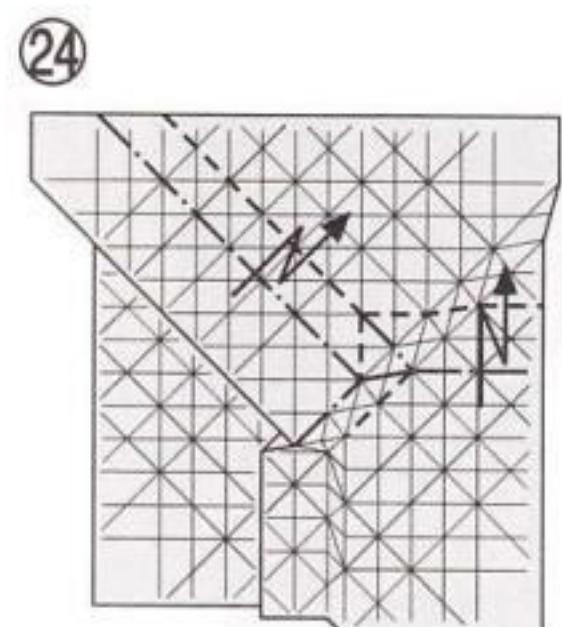
ついている折り筋で
カドを反対側へ折る



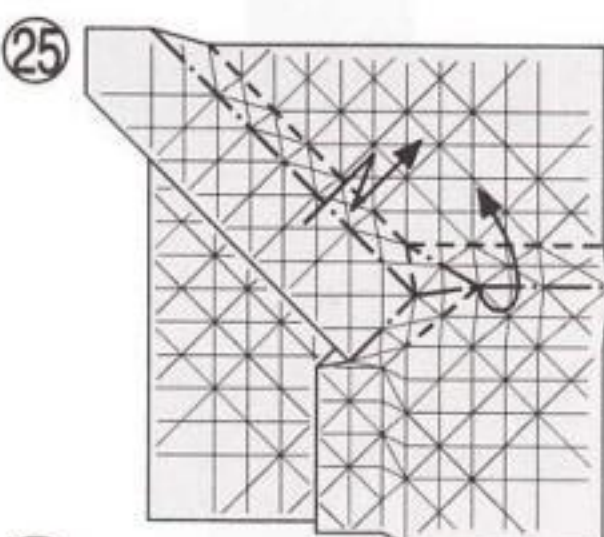
同じようにして折り筋をつける



同じようにして折り筋をつける



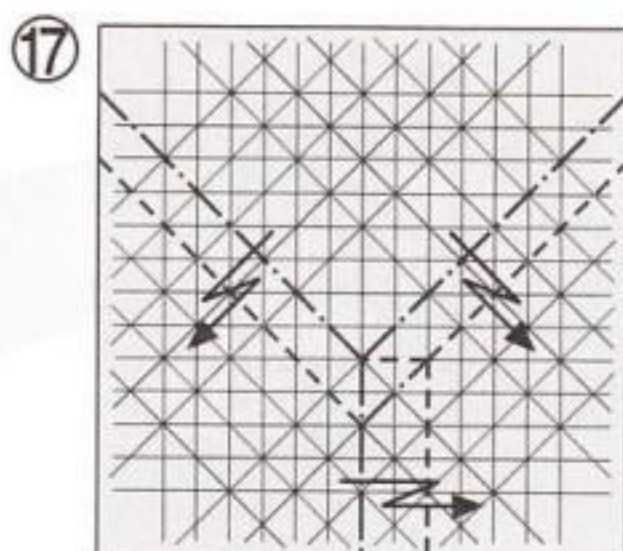
ついている折り筋で右上の部分を折りたたむ



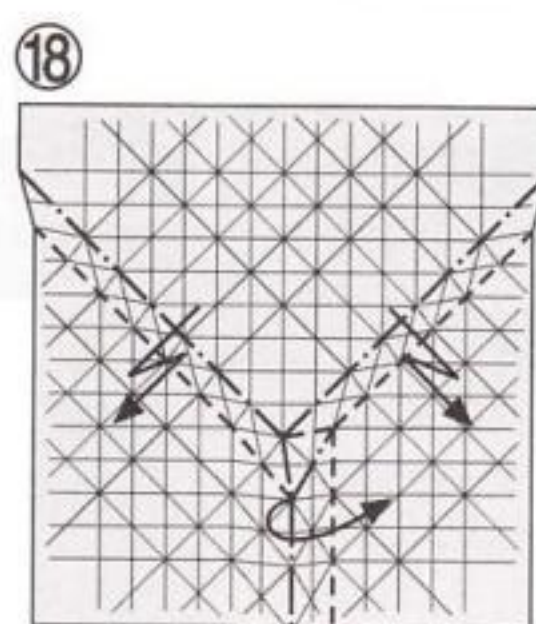
途中の図



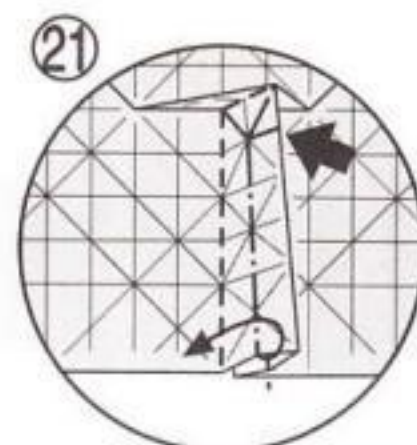
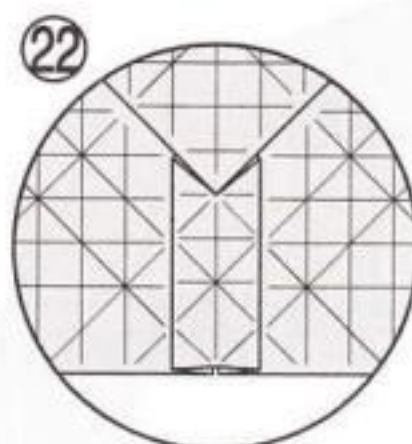
右側の部分も
20~21と同じように折る



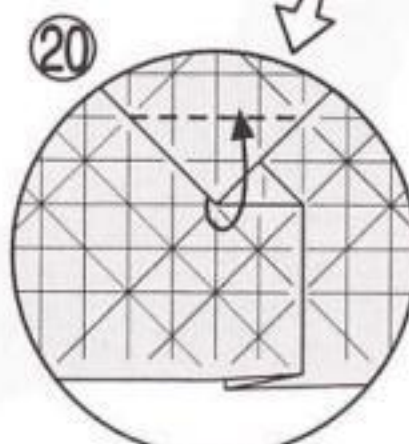
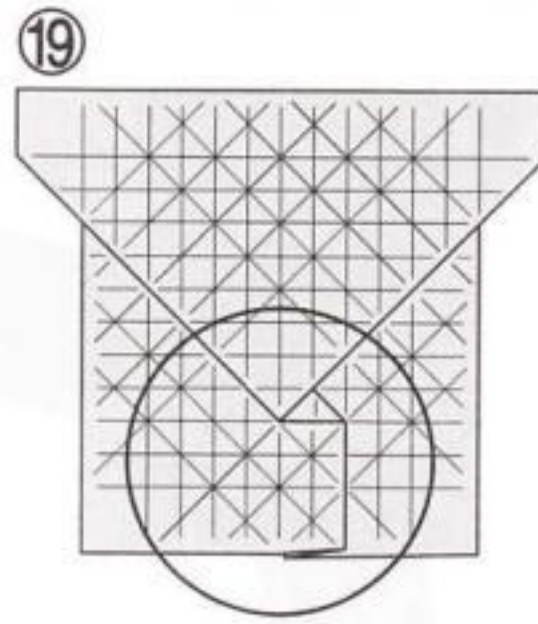
ついている折り筋で
段折りするように折りたたむ



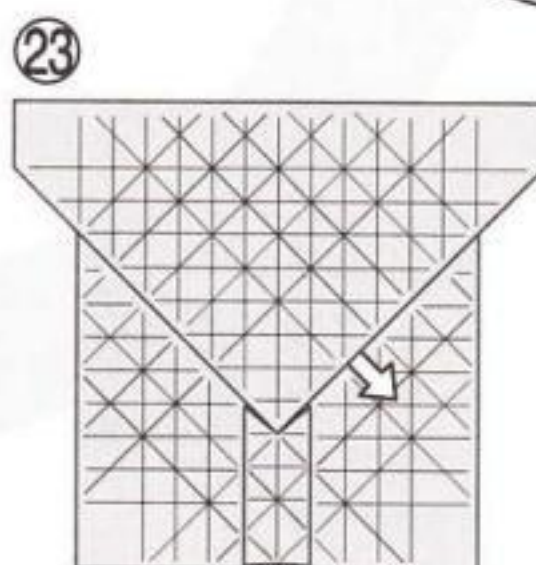
途中の図



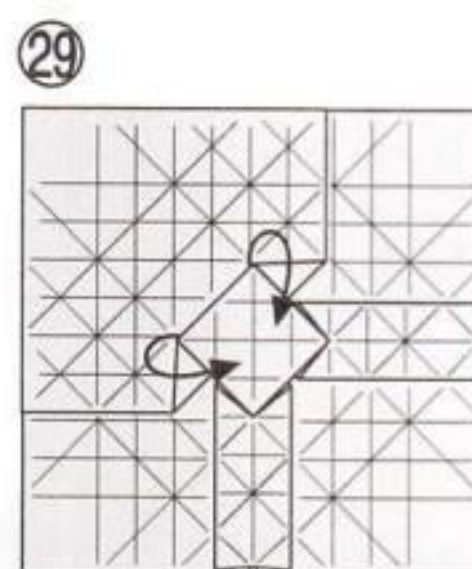
フチの内側をひろげて
つぶすように折る



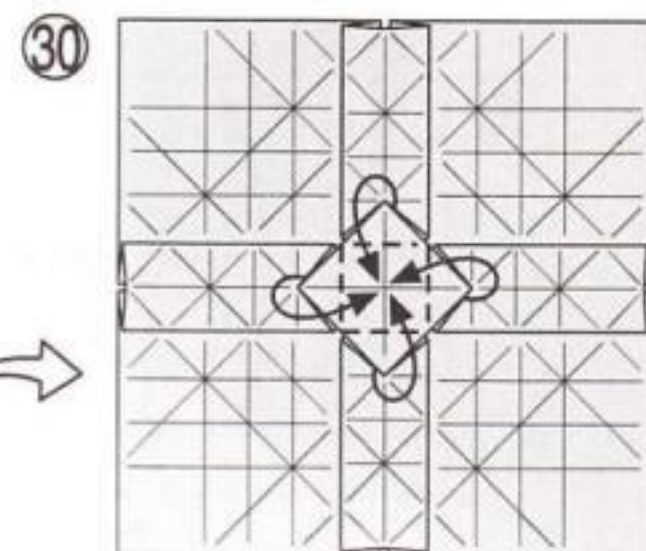
折った部分を
かるくひろげる



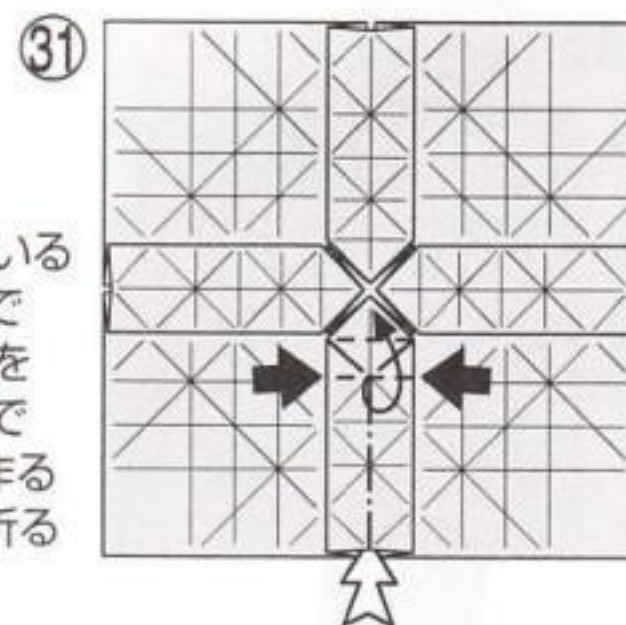
右側の部分を
かるくひろげる



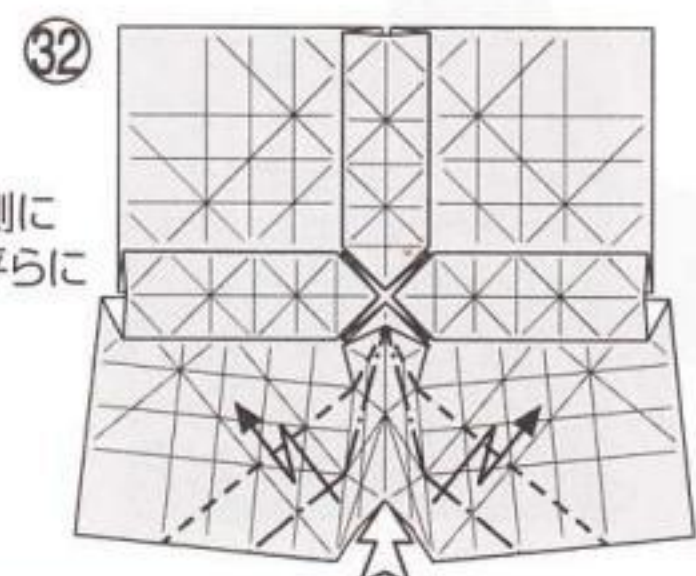
上と左側の部分も
20~21と同じように折る



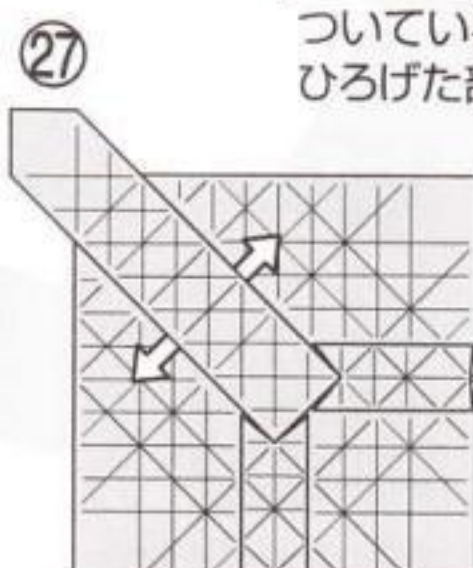
カドを中心に合わせて折る



ついている
折り筋で
中心線をつまんで
カドを作る
ように折る

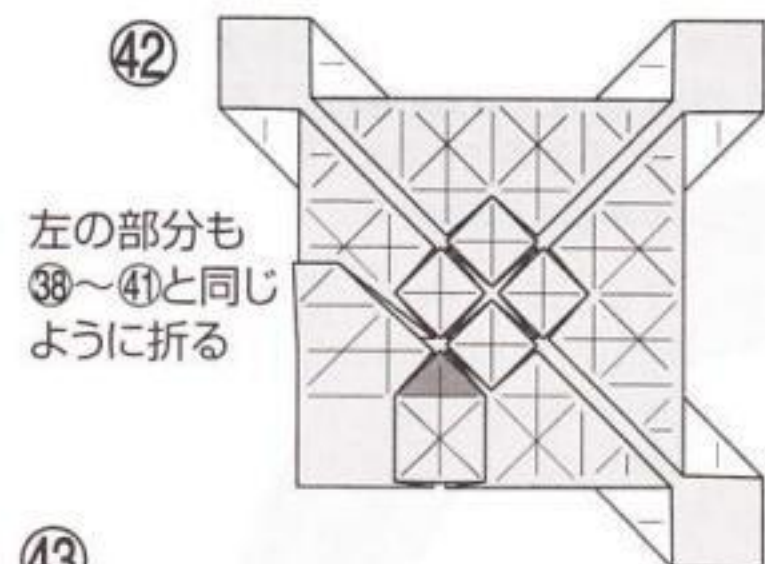


ついている
折り筋で両側に
段折りして平らに
折りたたむ

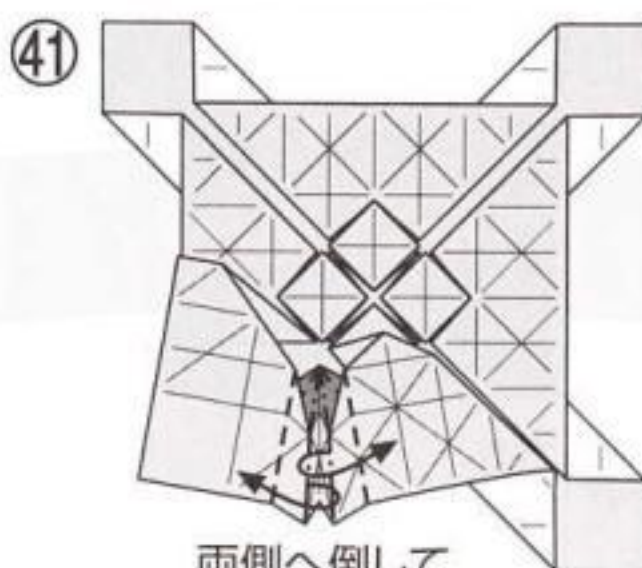


ついている折り筋で
ひろげた部分を折りたたむ

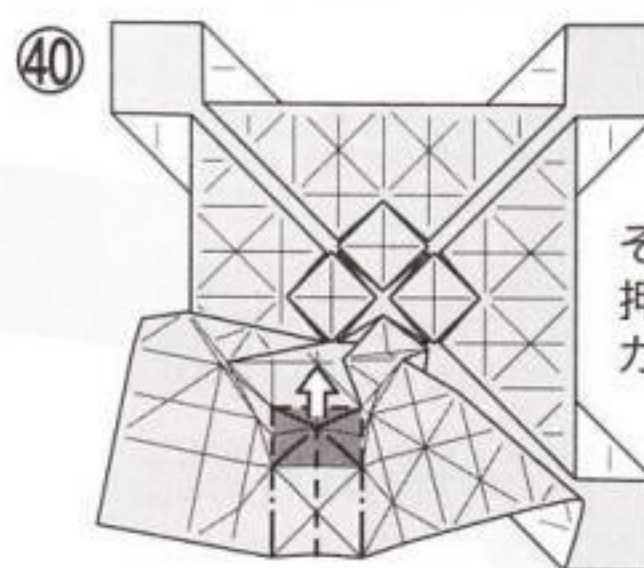
左上の部分も
かるくひろげる



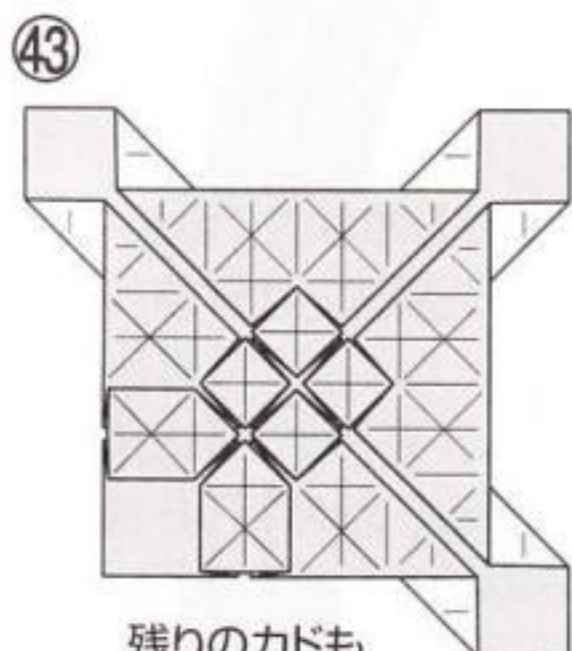
左の部分も
③⑧～④①と同じ
ように折る



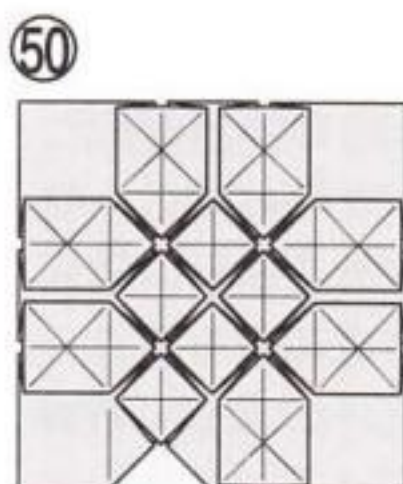
両側へ倒して
平らに折りたたむ



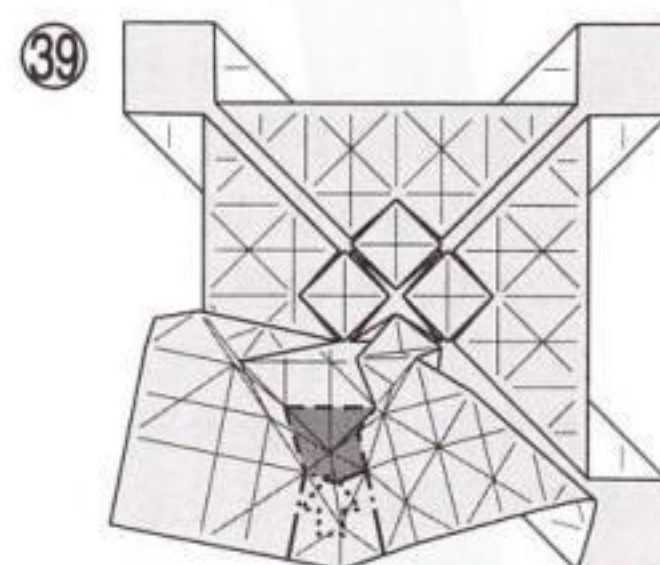
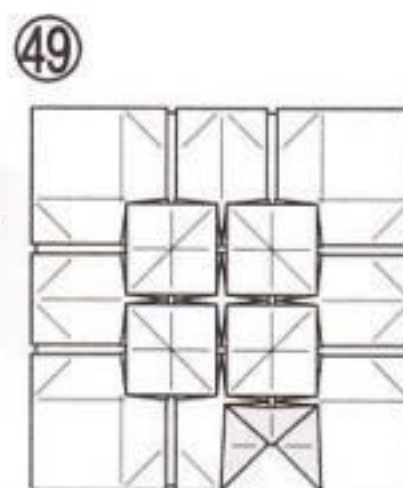
そのまま上へ
押し出して
カドを作る



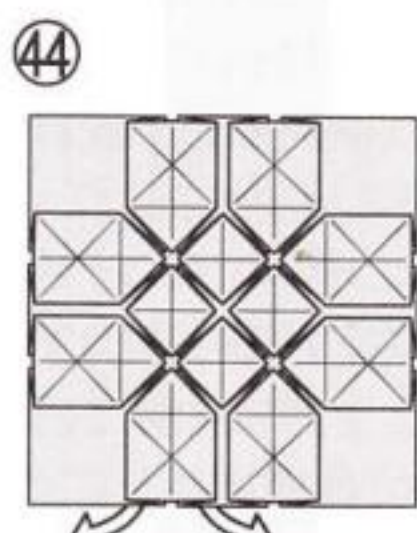
残りのカドも
③⑤～④②と同じように折る



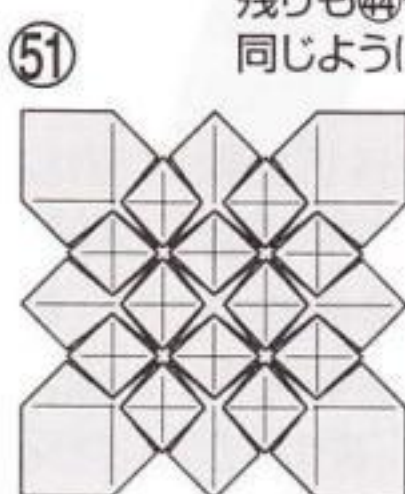
残りも④④～④⑧と
同じように折る



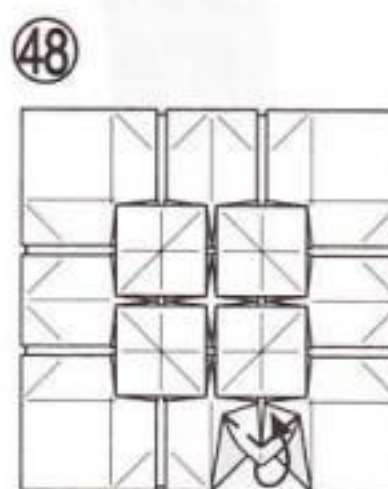
■の部分をも後ろから
押し出して平らにする



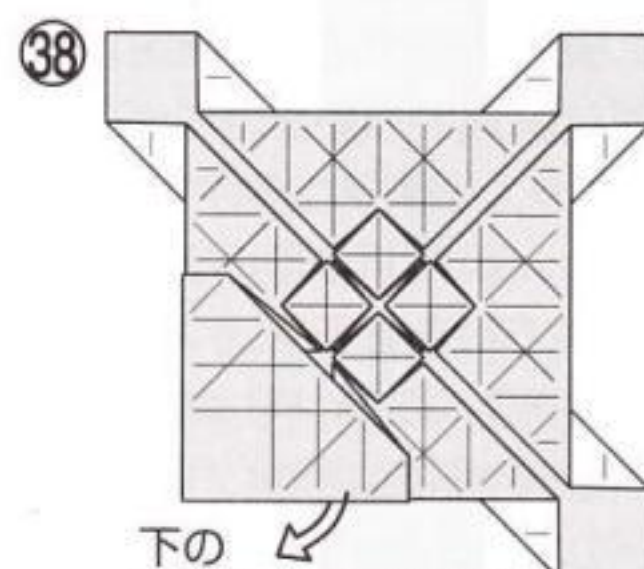
ヒダをかるくひろげる



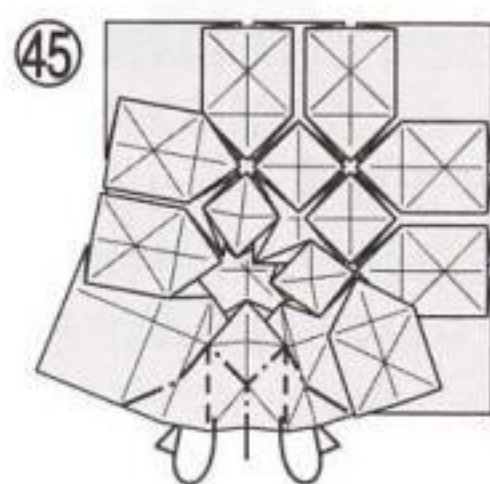
できあがり



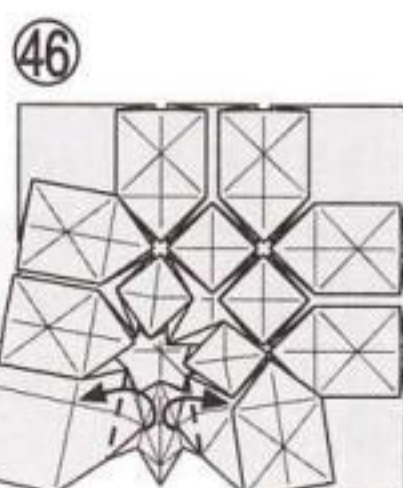
ついている折り筋で
平らに折りたたむ



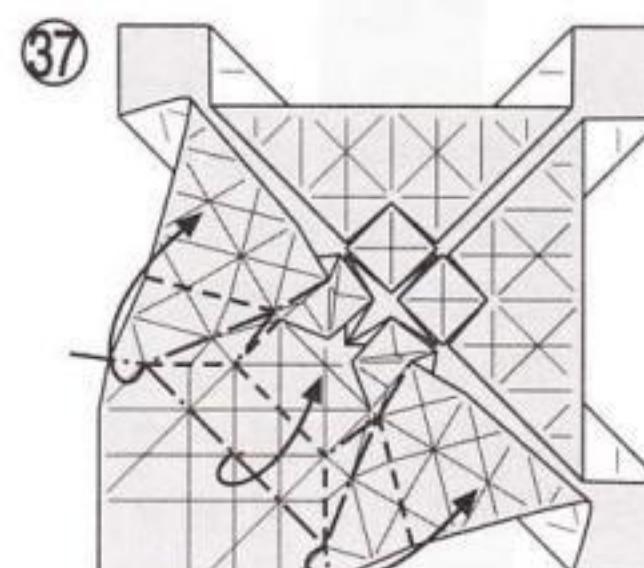
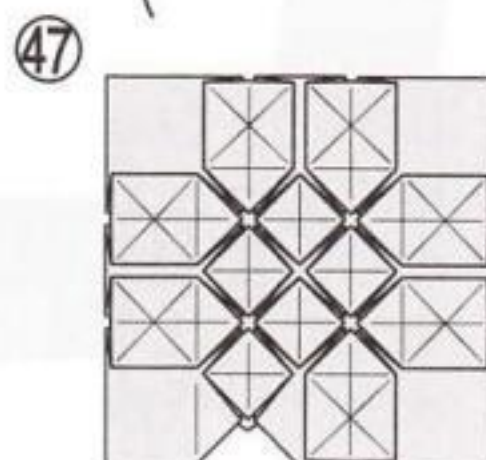
下の
部分をはかるくひろげる



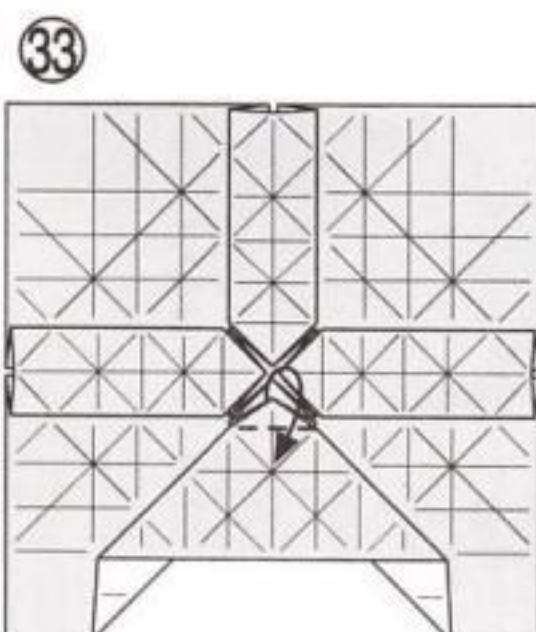
ついている折り筋で
後ろへ折る



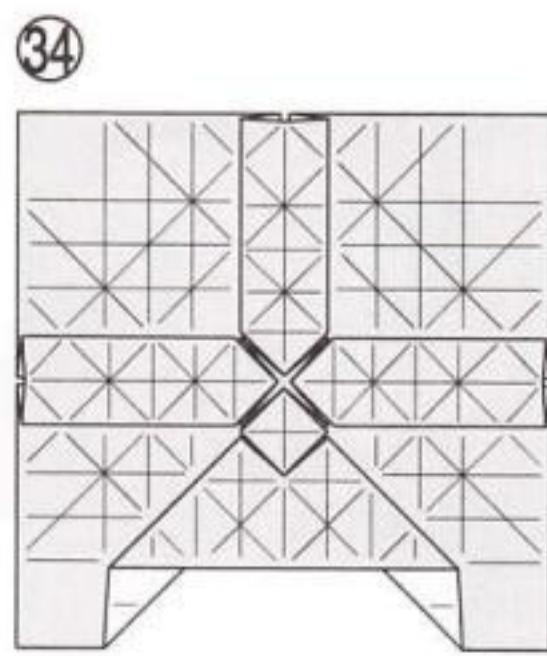
カドをそれぞれ横へ折る
裏側はまだ平らにならない



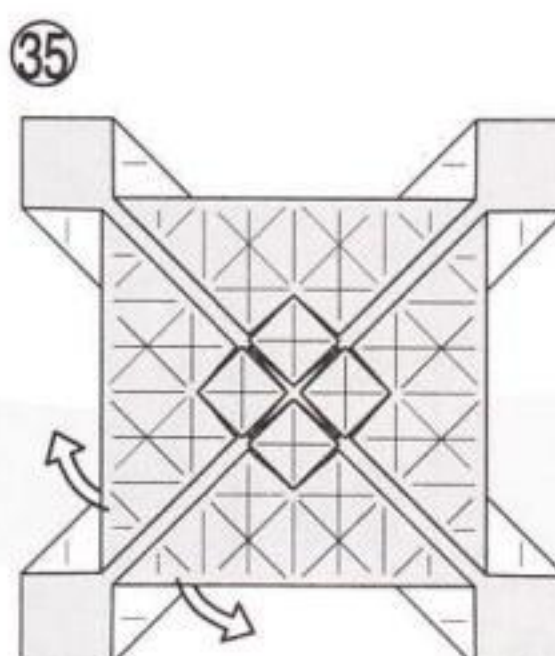
ついている折り筋で
平らに折りたたむ



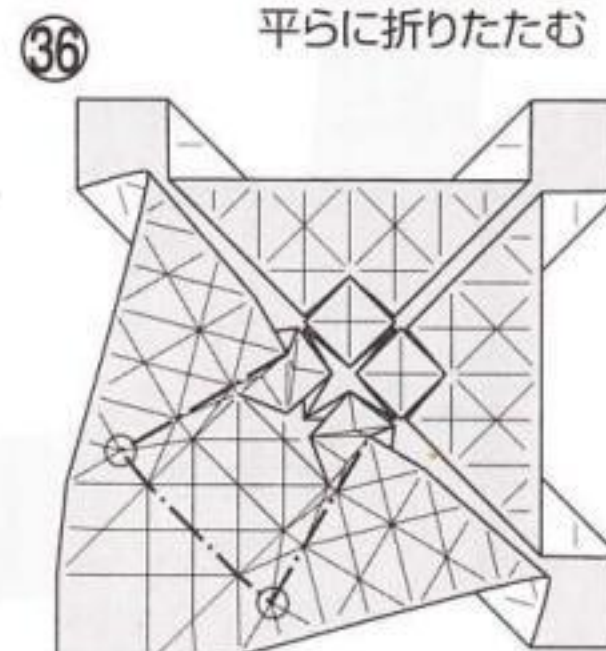
カドを下へ折る



残りも③①～③③と同じように折る



左下の部分をはかるくひろげる



つまむようにして○を
結ぶ山折り線をつけ直す

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

菊田 創 Kikuta Hajime

50冊目 『本格折り紙』 前川淳・著

“Genuine Origami” by Maekawa Jun

ここ10年以上に渡り、私の生活のほとんどのシーンには必ず「折り紙」が存在した。文字通り折り紙浸けの毎日であり、その濃淡はあるものの今後もこの生活は続いていくと思われる。そのきっかけが今回紹介させていただく『本格折り紙』との出会いであると言っても過言ではない。



幾多の先人たちが試行錯誤を重ねて積み上げてきた専門知識と特殊技術は、現実なかなか一般向けにわかりやすく解説・公開されることは多くない。現代折り紙の進化についても例外ではなかったであろう。そんな中1983年に『ビバ! おりがみ』が、そして2年後には『トップおりがみ』が「ビバ! おりがみシリーズ」として刊行された。

現代折り紙の系譜発祥とも言えるこの「ビバ! おりがみシリーズ」にて、折り紙の専門的な共通言語がいくつか陽の目を見ることとなる。『ビバ! おりがみ』では、折り紙を設計するという考え方、図形の原子などの構成要素、そして「不切正方形一枚折り」の考え方、展開図を用いた設計の考察など、前川氏の頭の中が見事に可視化され

コンテンツとして盛り込まれた。折り紙の幾何学と造形の調和についてまとめられた『ビバ! おりがみ』に続き、1985年の『トップおりがみ』では、立体を創り出す知的造形や新しい技術に加え、国内外の作家による新作の共演により、コンプレックス折り紙の幕開けを世に知らしめたといえよう。

「ビバ! おりがみシリーズ」から四半世紀をかけて醸成された前川設計理論は芸術性と科学的アプローチを融合させた形式知となり、理論を極めるための指南書として、初心者への教科書として、また万人が折り紙を楽しむための道しるべとして「本格」の名のもとに刊行され、現代折り紙のランドマーク的存在となった。

本書は、「入門篇」、「初級篇」、「これも折り紙篇」、「中級篇」、そして「上級篇」に分けられ、それぞれは作品の難易度のみならず設計理論や造形の



▲創造、折紙、想像は本書のコンセプト

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

工程ともリンクしており、さまざまな目的に対応した構成となっている。

「入門篇」

伝承のツル、サカナ、風船などの基本形を理解し、沈め折り、座布団折り、かぶせ折りなどの基本技術と折り紙幾何学の基本コンセプトについて学べる章となっている。丁寧な解説はそれだけでコラムのようであり、折っていて、読んでいて純粋に楽しい。

「初級篇」

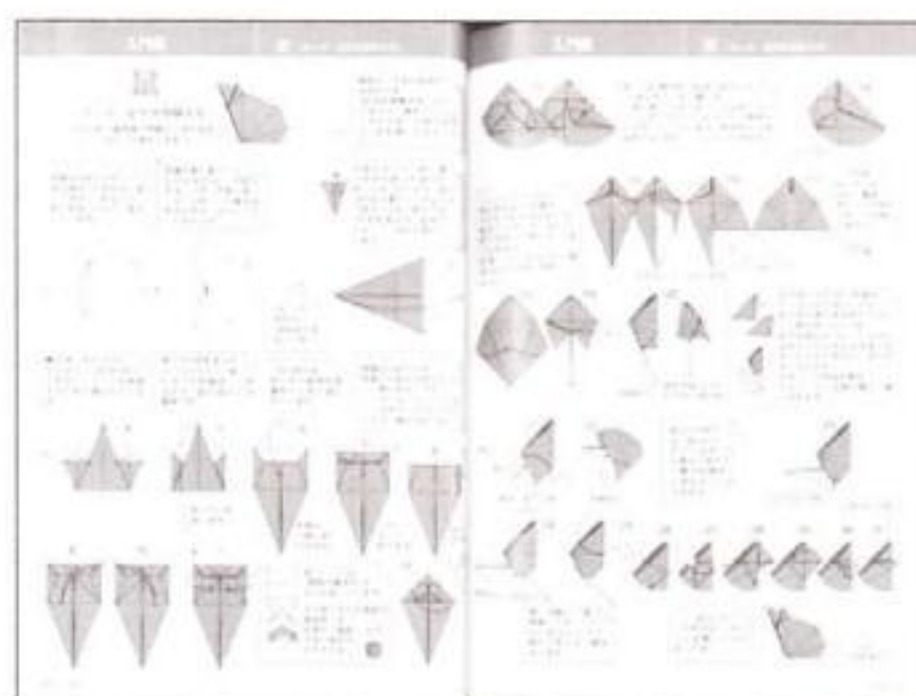
蛇腹、対称性(反対側も同じ)、立体化の手法や仕上げに加えて、展開図を読むそして展開図折りまでをテーマとし、折りに関する「定理」でしめくくる。作品の難易度こそ初級ではあるが、設定されたテーマと解説内容はすでに上級知識を習得するに十分であると云えよう。22.5度と $\sqrt{2}$ の考察や半開き/立体化による仕上げの造形手法などがわかりやすく、さらりと初級篇に書かれているあたりが何とも心憎い。

「これも折り紙篇」

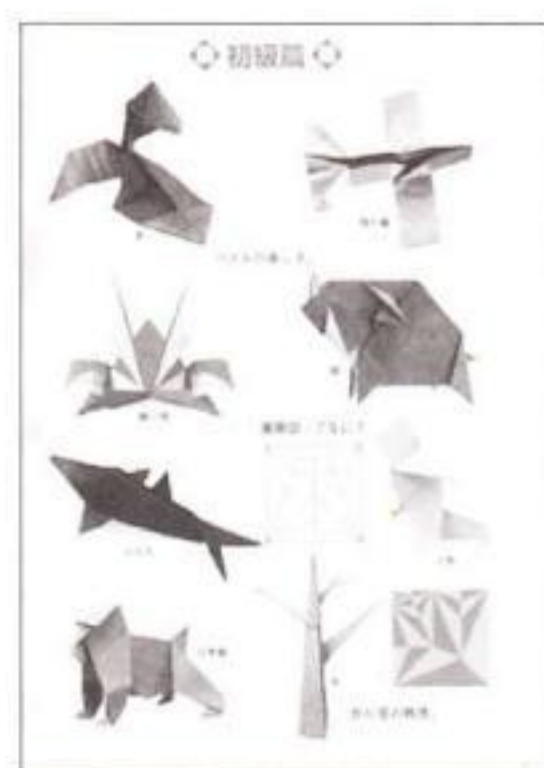
複合、ユニット、変則用紙、切込みというテーマを掲げ、折り紙のふるさととも言える「不切正方形一枚



▲『本格折り紙』表紙。冒頭の作例8ページカラー／本文145ページ2色刷り



▲折るための共通言語である記号をわかりやすく理解できるページ



▲初級篇で展開図を理解?!

○菊田 創(きくた・はじめ)＝外資系製薬企業にてがん領域の仕事に従事するかたわら親子で折り紙を楽しんでいる。職場で、出張先で、そしてビジネスシーンでのコミュニケーションツールとしても。



折り”という王道から少し離れたアプローチを取り上げることににより幕間を演出している。カドと色を増やす造形手法としての複合。多数のパーツを組み合わせてさまざまな形を創り、多面体／パズル的な要素へのアプローチとしてのユニット。変則用紙では名作「ティーバッグのトナカイ」を採用。また白銀長方形($1:\sqrt{2}$)や黄金長方形($1:1.618\dots$)などについても取り上げることで正方形という特別な形を使うことの意義についても議論を広げていく。切込みについては、折る工程の途中で鋏を入れるのではなく、長方形(正方形を含む)で切り屑を出さないという制約のもとで連鶴の可能性を追求している。諸説・考え方はあるものの、折りを主役の工程として幾何学的なエレガントさを追求したアプローチを堪能できる。

「中級篇」

16作品を通して、本書の軸ともいえる前川流設計のアイデアと理論的要素が随所に散りばめられている。表裏同等、対称軸、カド配置、Yパターン、近似値、背割れ／腹割れ、15度系のアプローチや無限折りなど、専門性の高いテーマが並ぶ(折り紙

好きならば思わずニヤツとしてしまう領域であろう)。

表裏同等は回反对称に相当し、難解なパズルと折り紙による幾何学的考察に通ずる。また、ここで取り上げられている正方形がもつ2つの“対称軸”の特徴などは、今ではブック型、ダイヤ型などと表現され折り紙界限では慣れ親しんだアプローチといえる。また、複数の作品の紙の使い方を比較し、設計の工夫を考察する「カド配置」、そして「折り紙による作図」、「基準点の折り出し」などはまさに設計の本筋というべきテーマであろう。

「上級篇」

これまでの技術と理論をぎっしりと詰め込んだ、より細かい折りと長い折り工程による高次化作品への挑戦が待っている。ミウラ折り／敷き詰め「孔雀」と付加領域の爪をたずさえた「龍」は『ビバ! おりがみ』からの嬉しいアップデート。「昆虫戦争」で登場した飛ぶカブトムシでは、折られた面が見事に内部に畳み込まれる構造となっており、その造形は写実的に保持されつつも折り目が開かない「留め折りの極致」に触れることとなる。最後にデビュー作にして代表作ともい

える前川悪魔が耳付きで折り図化され最終奥義としてこの名著をしめる。



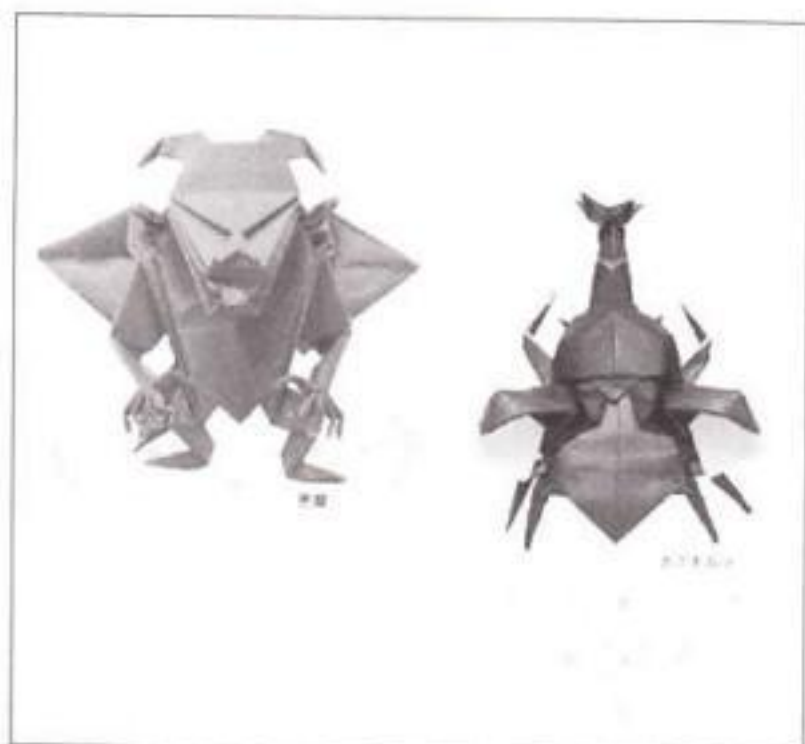
『ビバ! おりがみ』にて放たれた「前川折り紙」のエネルギーは『トップおりがみ』によって加速され、四半世紀かけて増幅と進化を繰り返し、現代折り紙のバイブルとして『本格折り紙』へと昇華を遂げた。

まずは作品を折って楽しむ、何回か折るうちに折り工程に込められた理論的手順(道すじ)や折り筋にみる幾何学的な美しさを感じ取れるようになる。折り紙界限で使われているような専門用語についても作品を楽しみながら理解できるようになる。そこには常に驚きと発見と喜びがある。そして1枚の紙から創り出される造形に心を奪われ、折り紙をそしてこの本を人に薦めたくなる。

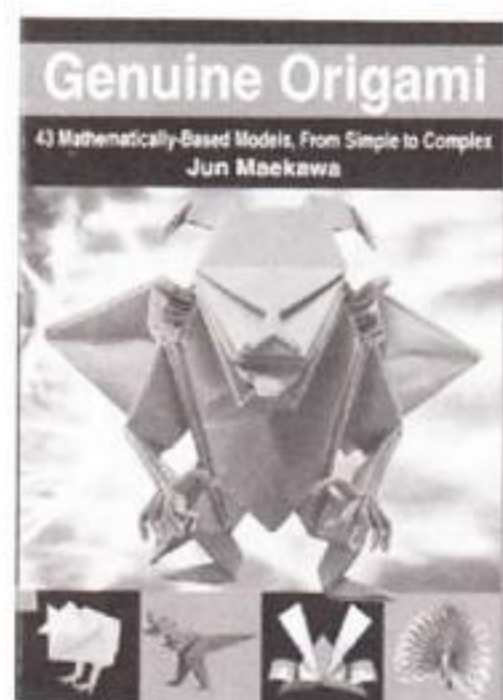
多くの人が手に取り、その内容に魅了されたであろう1冊。私の人生を大きく変え、今や親子で折り紙を楽しめているのは本書との出会いに端を発する。その本をこうして紹介できる機会を与えていただいた関係各位に感謝したい。

発刊から10年たっても未だに色褪せることのない本書には「折り紙の新発見と再発見」が詰まっている。すでにお持ちの方は再び、未読の方は是非ともこの機会に手にとっていただきたい。

尚、前川氏の折り紙熱はとどまることなく、さらなる可能性を模索し、白銀比($1:\sqrt{2}$)に特化した折り紙本『本格折り紙 $\sqrt{2}$ 』へと続いていく。そしてこの先を紡ぐ者が多く現れ、さらに「Origami」が楽しく発展していくことを望みたい。



▲前川折り紙の最終奥義



▲ハーバード大学の図書館にも「本格」が!! (実際に現地で手にした時は感動しました)

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第23回 作品展「立体折紙の世界」開催の舞台裏 Backstage of the Exhibition "World of 3D Origami"

このコーナーでは、折り紙に関連した幅広いトピックを探索して、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

三谷 純
Mitani Jun

2016年4月1日から24日までの約3週間、ギャラリーおりがみはうすにて開催させていただいた「三谷純 作品展 - 立体折紙の世界」の舞台裏を紹介します。

はじめに

私（三谷純）は折り紙に関する研究を2005年ごろから行っていますが、「16枚羽根の球体（写真P.24参照）」に代表されるような、曲線を含む立体的な作品を作るようになったのは2008年12月に設計用のソフトウェアを自作して以降のことです。今回、山口真氏の勧めもあって、現在に至る7年間に制作をしてきた作品群の代表作、約60点を展示する機会をいただきました。

作品展のための準備

2月と3月は何かと本業が忙しい時期で、準備に本腰を入れることができたようになったのは3月の中旬と、かなり間近になってからでした。

しかし幸いなことに、書籍『立体折紙アート』（日本評論社）を昨年の夏に上梓したことで、過去の作品をしっかりと管理できるようになっていて、準備をスムーズに進めることができました。

書籍では設計法の解説が主な内容でしたが、作品集としての一面もあり、約50の作品1つ1つに写真・展開図・解説が付されています。実は、この書籍執筆の過程で得られた一番の利点は、「1つ1つの作品に名前が付いた」ということでした。それまで、頭の中で言語化されずに「あんな感じ

イル群により、個々の作品の写真と展開図、説明文が紐づいたことで、必要な情報がすぐに取り出せる状態になりました。そのため、今回の展示では、作品毎の展開図とキャプションを短時間で揃えることができました。

今回は初めての「個展」となったため、作品を並べるだけでなく、ポスターやWebページ、これまでの年表など、多くのものを作成しました。どれも自分で自由にデザインを行ったので、それらもまた1つの作品のように、楽しく制作に取り組むことができました。年表では、過去10年くらいを振り返って主なできご

★トリビア★
展示に用いたアクリルの円筒は2万6千円
（転倒防止の台座は特注で9千円）

の作品」という具合だったものが、全ての作品に名前が付いたことで、それらを一覧表にして、「状態：良・可・作り直し」「展開図：有・無」「展示：する・しない」と言った作品管理を行うことが可能となりました。さらに脱稿の際にまとめたファ



▲自作ポスター



▲自作Webページ

これまでの歩み



▲これまでの歩み

○三谷 純(みたに・じゅん)=今回
はじめてギャラリーおりがみはうす
のガラス棚をふんだんに使わせて
いたけたことを、大変光栄に思っ
ています。ありがとうございました。



とをまとめてみました。2005年に第11回コンベンションで招待講演をさせていただいたことが、この年表の先頭になりました。振り返ってみると、これが一連の折り紙活動のきっかけであったと思います。

展示作業

作品や、その他展示関連の物品を車に詰め込んで、前日の昼過ぎにギャラリーおりがみはうすに搬入しました。これまで、数々の作品が賑やかに並んでいたガラス棚18台が、全部綺麗に片付けられていて、何もない状態となっていました。

さて、作品の陳列の開始です。準備を丹念にしましたが、どの棚に何を置くかまでは決めておらず、花のアレンジメントのように、その場の雰囲気、あれやこれやと並び替えて試行錯誤しました。窓際に置いて外の光が入ったほうが綺麗に見えるものはどれかな、色の付いたものはどの付近に置こうかな、という具合に、それなりに気を配りながら並べていきます。実は当初の見積もりに間違いがあり、思っていたよりも1.5倍くらい展示棚が多く、現地ではかなり焦りました。ソフトウェア紹介のパネルを入

れたり、大きなものは仕切りを取り除いたり、どうにか全体を埋めて体裁を整えました。作品のキャプションと展開図に、足りないものがあつたので、現地で作成して印刷してもらったりもしました。何かと時間がかかり、満足いくまでには結局4時間くらいかかりました。

ワークショップ

期間中の4月10日と24日にワーク

★トリビア2★

**三谷が制作に使用しているカッティングプロッタは
Craft ROBO PRO CE5000-40 で約10万円
(現在は販売を終了している)**

ショップを開催しました。山口真氏の勧めもあって、今回はPCとカッティングプロッタを会場に持ち込み、その場でORI-REVOでの形状設計、折り筋の加工、制作までの一連の工程を体験していただくことにしました。初回は学生1名に手伝ってもらったのですが、それでも人手が足りなくて大変でした。私がカッティングプロッタの操作につきっきりだったので、参加いただいた方々の制作を手伝ったり、ゆっくりお話をする時間をもてず残念でした。そこで、2回目には2名の学生に手伝ってもらうことで、どうにかスムー

ズに行うことができました。いろいろ不手際もありましたが、参加者の方に、温かい目で見守っていただきました。皆さん、予想外に多様な作品を作っていて、私の方も楽しむことができました。ワークショップを体験した後で展示作品を再度見ると、印象が大きく変わるとの言葉を聞くことができました。

おわりに

これまで制作してきた作品を、たくさんの方に見ていただけたことを嬉しく思います。感想ノートにも、たくさんの方のメッセージを寄せていただくことができました。私の図形科学の授業を7年前に受けて折り紙に興味を持ったという方からのメッセージもあり、驚かされました。

期間中、長くに渡ってサポートしてくださいました、おりがみはうすスタッフの皆さまに感謝申し上げます。

今回のトリビア

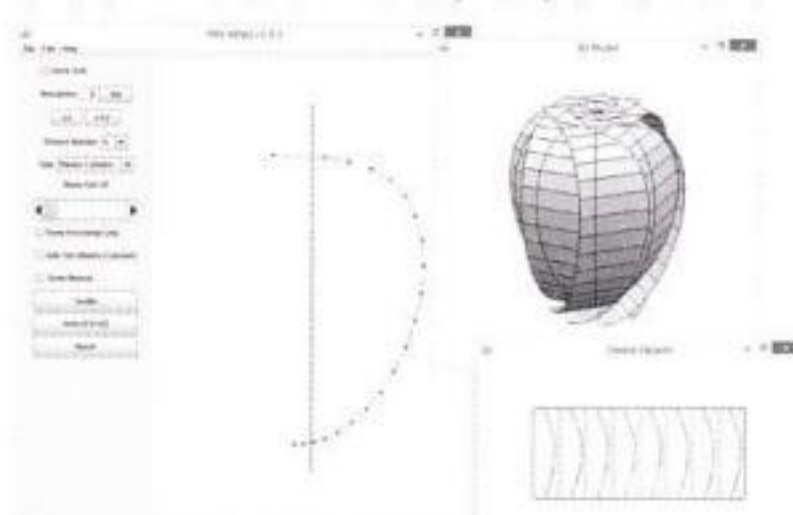
このコーナーは「ぼくらは折紙探偵団」ですから、最後にいくつかのトリビアを紹介したいと思います。

- ・カッティングプロッタの刃を砥石で鈍らせることで、折り筋専用の刃として使用できる。
- ・展示作品に使用している紙は100kgのタント。
- ・ワークショップの2回目で使ったORI-REVOは、のりしろが自動で付くようにカスタマイズしたものだった。
- ・今回展示した作品は、大学の研究室にある、沢山の折り紙たちの一部。

編注)関連写真をP.24に掲載



▲ワークショップで使ったカッティングプロッタ



▲ワークショップで使ったソフトウェアORI-REVO

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

「吉野星」「吉野星2016」

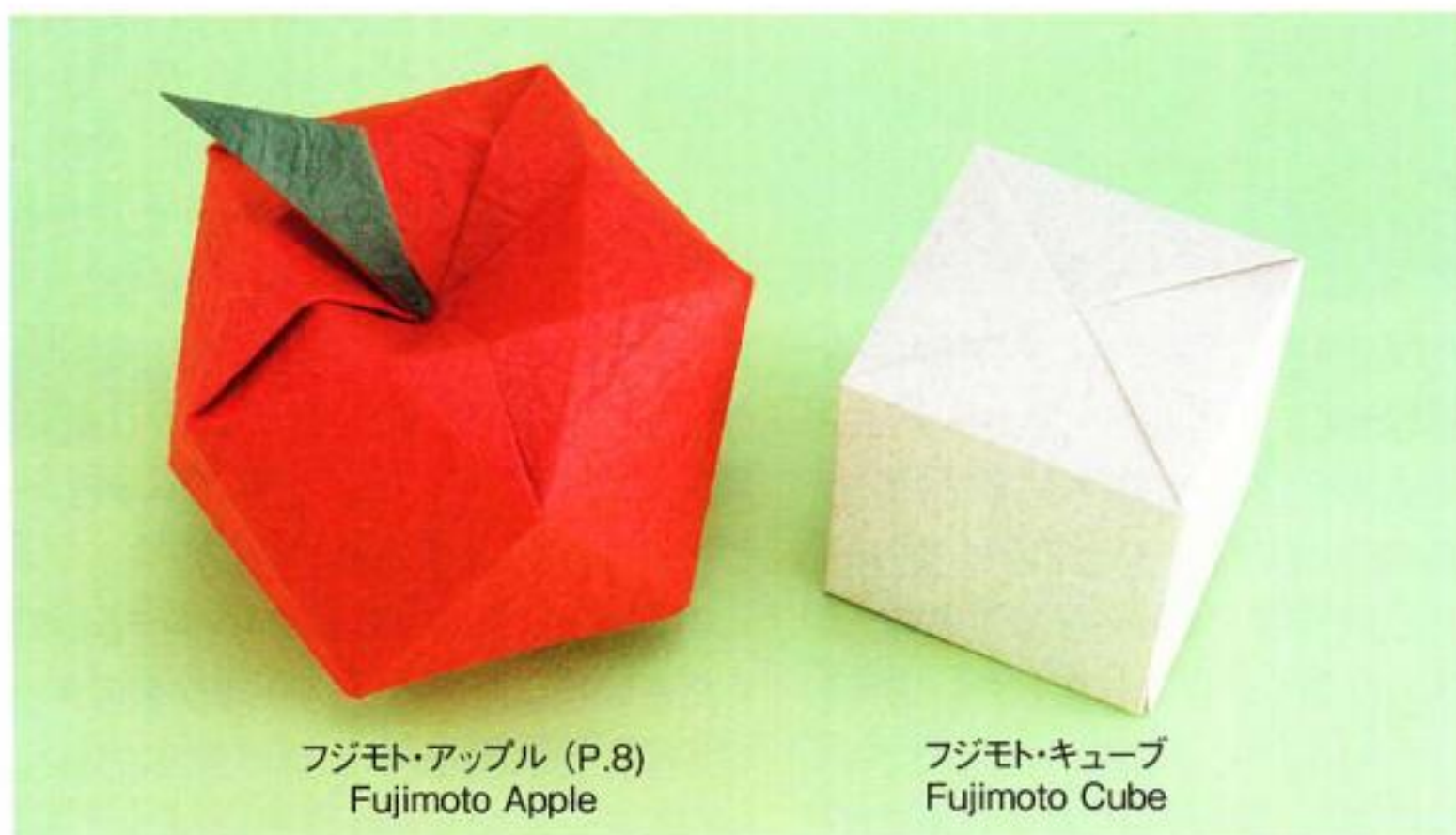
「吉野星2016- $\sqrt{2}$ 」

作：前川 淳(P.4)

Yoshino Star,
Yoshino Star 2016,

Yoshino Star 2016- $\sqrt{2}$:
Maekawa Jun (P.4)

■旧「折紙探偵団」ウェブサイトで、故・吉野一生氏がデザインしたトップ画像に載っていた多面体。これを前川氏が実際に折紙作品化し、別々の3種類の構造・工程にまとまりました。第3作では最後の最後に、あっと驚く(?)どんでん返しも付いています。



フジモト・アップル (P.8)
Fujimoto Apple

フジモト・キューブ
Fujimoto Cube

「フジモト・アップル」(P.8)

「フジモト・キューブ」

「あじさい折り1」(P.12)

「あじさい折り2」(P.13)

作：藤本修三(P.8)

Fujimoto Apple (P.8), Fujimoto Cube,
Fujimoto Hydrangea (Ajisai) 1 (P.12),
Fujimoto Hydrangea 2 (P.13) :
Fujimoto Shuzo

■今号の藤本氏特集では、世界中のファンを魅了し続けている名作群をまとめて収録。45度や30度規準として、規則的なパターンが全体的に繰り返れている構造となっていますが、それにもかかわず、カッコリとしたイメージというよりは、どちらかというと有機的な表情があらわれているような印象です。折り工程は(良い意味で)非常に中毒的。気がいたらいつのまにか量産していた、という経験を持ちのかたも多いことでしょう。

編注)「フジモト・キューブ」の折り方は掲載していません。
Diagrams for Fujimoto Cube are not in this issue.



あじさい折り1 (P.12)
Fujimoto Hydrangea 1

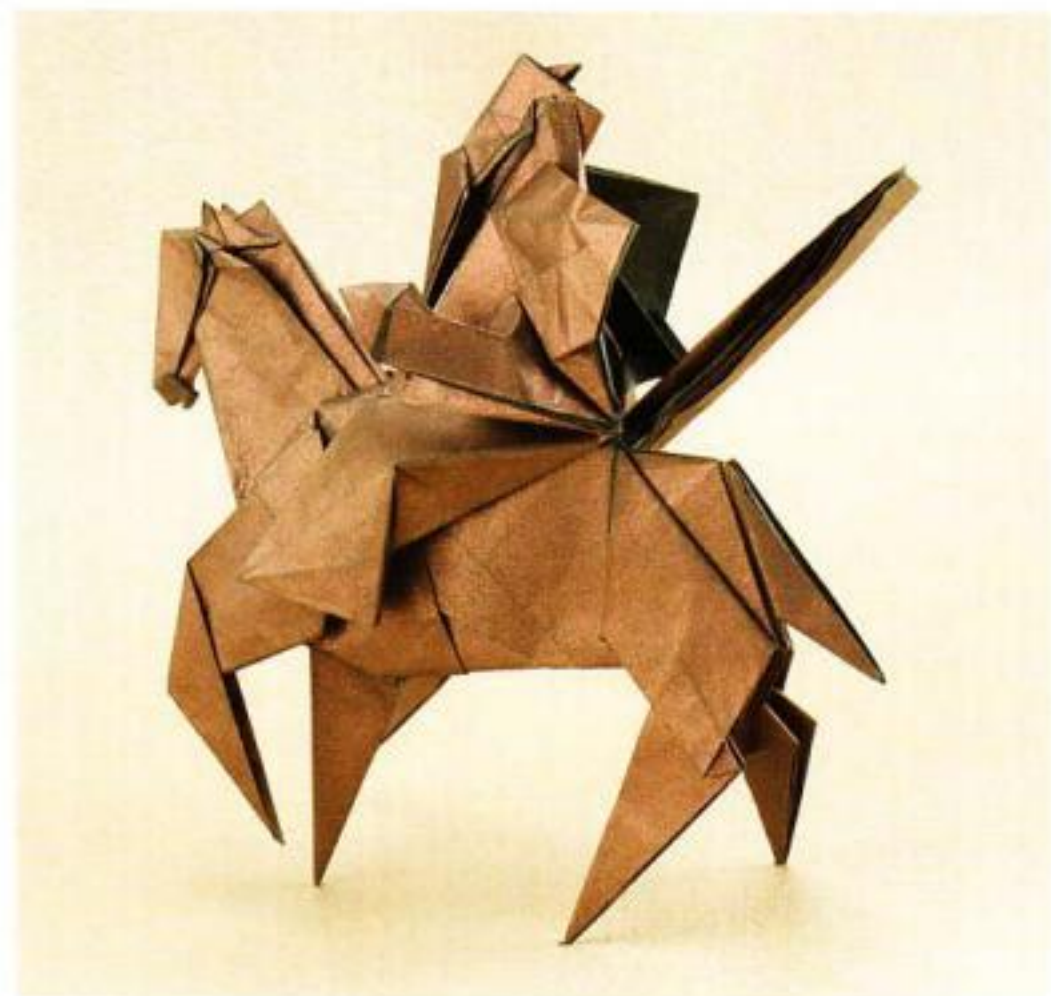
あじさい折り2 (P.13)
Fujimoto Hydrangea 2



「八咫鳥」 作：神谷哲史(P.26)

Yatagarasu, a Japanese Mythical Raven:
Kamiya Satoshi (P.26)

■制作・創作技術の向上を目指すなら、一度完成したところで分解するのは必須のステップ。それぞれの部品が用紙のどのあたりから出ているのか、どれぐらいの面積がひとつの部品に充てられているのか。何度も畳んだりひらいたりしてゆくうちに理解が深まり、仕上げ加工のレベルアップにも繋がります。



「騎馬像」 作：各務 均(P.38)

Equestrian Statue: Kakami Hitoshi (P.38)

■左右非対称な完成形、左右非対称な展開図構造、左右非対称な部品配置の割り当て。これまでに到達できていない場所・可能性を求めて、さまざまに実験と模索を続ける作者のエネルギーがあふれ出しているようです。粘土を細かく加工するような方向性の改造を、徹底的に加えてみたくになりました。



「布施知子ORIGAMI展～紙と折りのリズム～」より

From Fuse Tomoko's Exhibition "ORIGAMI: The Rhythm of Paper and Folding"

ついに布施知子氏の作品展が始まった。展示期間中は撮影禁止なので、編集部は展示作業の現場におじゃました。ライティングが最終段階ではないが、展示の一部をご紹介します。雰囲気を感じ取っていただければと思う。(会期:2016年4月22日～6月1日)



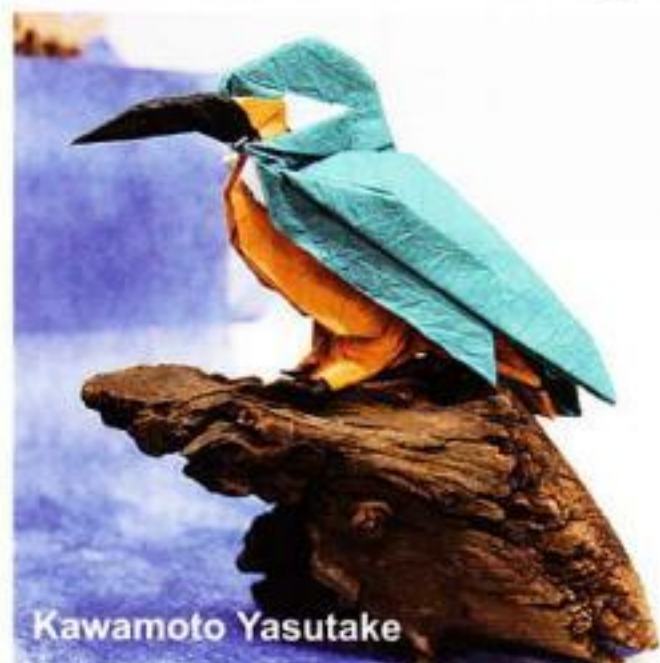
▲1月27日～31日にかけて公開制作された作品も展示された



▲本誌156号の「ぼくらは折紙探偵団」(P.18～19)でご紹介した、布施知子氏プロデュース、制作小原智美、川井千代、川崎亜子各氏による、色鮮やかな箱の展示

折り紙サークルネットワーク展示会より(P.41)

From the Exhibition of Origami Circles Net (P.41)



Kawamoto Yasutake



Nagayama Kaito

▲河本泰岳(東北大学折り紙サークルORUXE) ▲長山海澄(東京大学折り紙サークルOrist)



Ogiso Hiroya

▲小木曾浩也(京大折紙サークルいまじろ)



Tachino Hikari



Sasanuma Hayato



▲広々として明るい作品展示会場



Suzuki Yusaku

▲神谷哲史氏の「ベガサス」を折って、名前を伏せて人気投票をする「折り比べ」企画には9作品がエントリーした

▲立野ひかり(日本大学)

▲笹沼勇人(東京工業大学折紙同好会FIT) ▲鈴木優作(東洋大学折り紙同好会 四季折々)



Minamijima Kazuhide

▲南島和英(金沢大学折り紙サークル)



Hirahara Yusuke

▲平原祐輔(広島大学HiMOC)



Hashimoto Haruka

▲橋本遼(京都工芸繊維大)

▼初日の巨大折り紙は、6m四方の紙で折った「ノーザンドラゴン」(北條高史・作)



Tsuruta Yoshimasa

▲鶴田芳理(九州大学折紙同好会ORUTO)



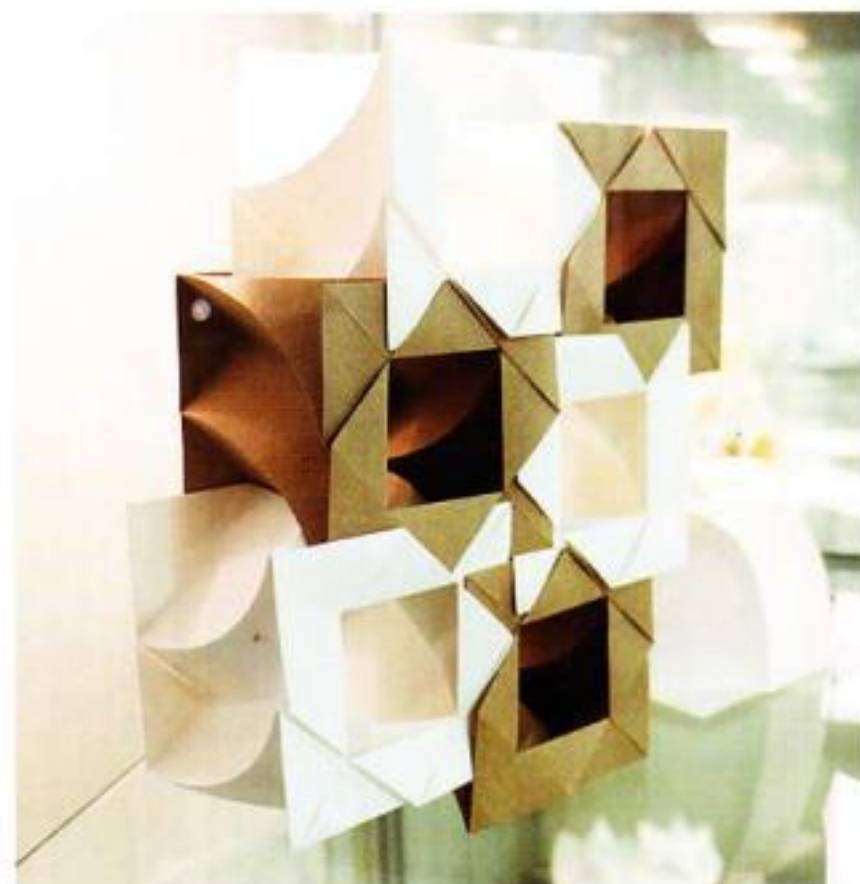
Kawakami Satoru

▲川上 慧(早稲田大学折り紙サークルW.O.L.F.)

「三谷純 作品展 立体折紙の世界」より(P.18)

From Mitani Jun's Exhibition "World of 3D Origami" (P.18)

写真協力:三谷 純



◀多面体だけでなく、曲線の陰影を楽しむような半立体作品も



▶7年間に制作をしてきたうちの、約60点が展示された



◀ワークショップにて設計ソフトORI・REVOの説明をする三谷氏(左写真)と、受講者がソフトを使って作成した作品たち(下写真)



▲設計用のソフトウェアORI-REVOの開発以降、この作品、「16枚羽の球体」に代表されるような、曲線を含む作品を作るようになった



折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
Origami Tanteidan Tokyo Group

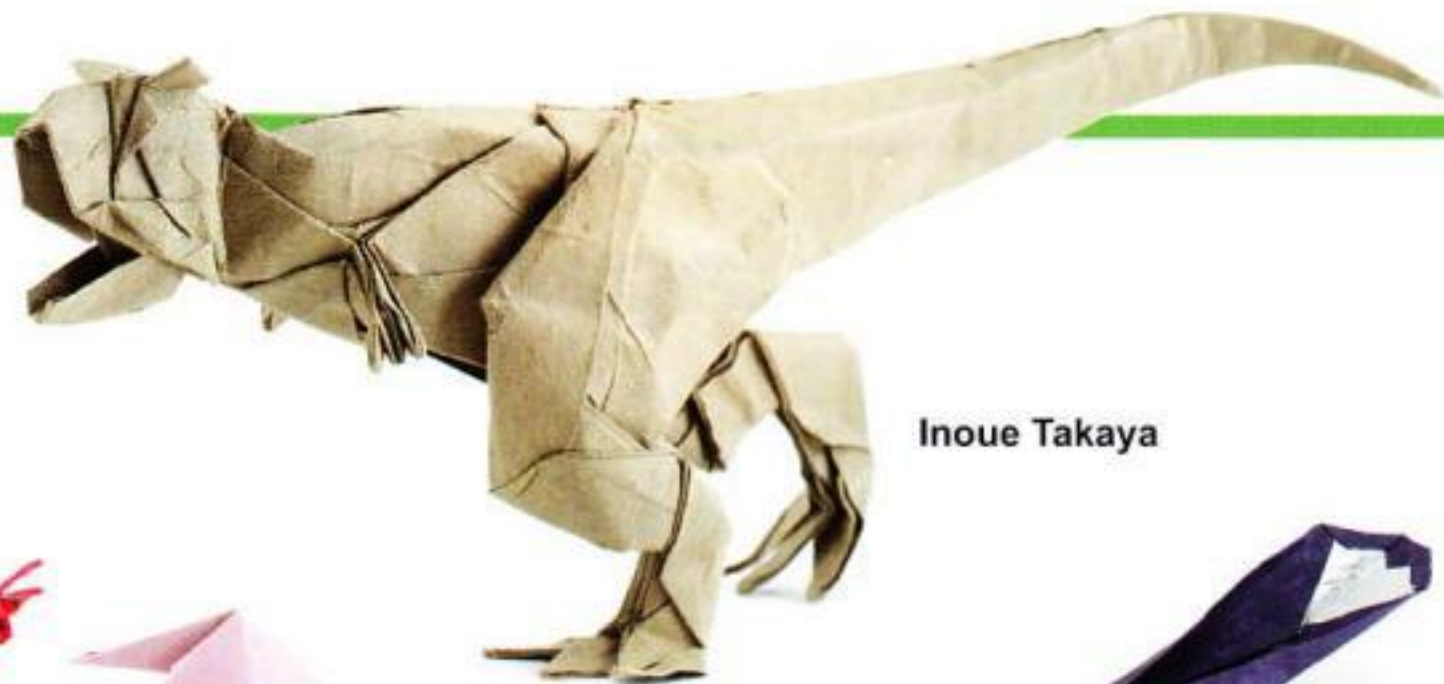
※プッシュすることができる



Itagaki Yuichi



Suzuki Yusaku



Inoue Takaya



Kato Shun



Kato Shun



Imai Kota



Sakurai Ryosuke



※カップ麺のフタを使用
Sasanuma Hayato



Hagiwara Gen

OrigamiATC研究会より

To the Participants of the OrigamiATC Workshop

■ATCとは、アーティスト・トレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというものだ。OrigamiATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回程度開かれている、折り紙を使ったATC愛好家の集まりだ。

4月6日の交換会では、「旅」をテーマにしたカードが集まった。直接(リアル)参加6名、郵送参加は19名、合計25名であった。

次回6月27日(月)の交換会のテーマは「夢」。夢から連想するもの(事)なら何でもOK。カードのサイズを守りつつ、自由な発想で取り組んでいただきたい。

※長方形以外のカードを作る場合は、64×89mmにカドが内接するように作ること。

▼4月の交換会に集まったカードから(敬称略)



「Suitcase」
須藤明美・作

使用作品:ブラウス・ソックス・キュロットスカート(新宮文明・作)、貴婦人のドレス(川手章子・作)



「宇宙旅行」
濱岡敦美・作
使用作品:リトルグリーンメン(いしばしなおこ・作)、UFO・ロケット(濱岡敦美・作)

この黒枠が2.5×3.5インチ(64×89mm)▶

次回OrigamiATC交換会:2016年6月27日(月)の郵送参加方法(2016年6月25日(土)必着)

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:夢(夢から連想するものなら何でもOK)
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ハンドル可)、C.「使った折り紙作品の名前」、「創作者名」又は「参考文献名とその著者名」を必ず記入のこと。できれば、作成日や通し番号、コンセプトも書くとよい。

◆応募方法

- ・OrigamiATCを3枚(1口分)を作り、宛名(名前に「様」も)を記入して82円切手を貼った返信用封筒を同封し、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒(1口ごとに1枚)は、「長形3号(120×235mm)」を使うこと。

Origami Artist Trading Card

Title:	雨の音
Theme:	音楽
Name:	スタッフhanako
HP, ブログ:	スタッフhanakoのおりがみはうす日記 http://anabio.jp/hanako-origami/
作品について 折り紙の作者名・作品名を記入 お送りいただく作品は必ず裏面に記入	
カエル (山口 真・作)	
降りしきる雨の音をカエルが聞かっている というイメージです。	
2016年x月xx日 2/12	

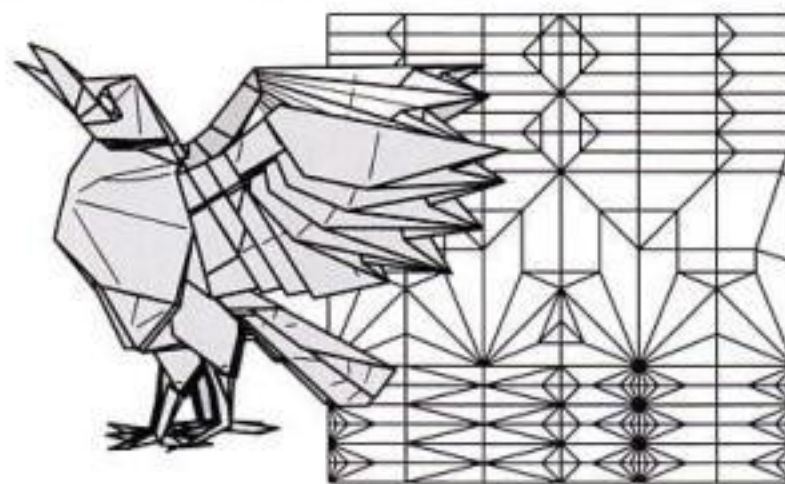
▲裏面表記の例

八咫鳥 Yatagarasu

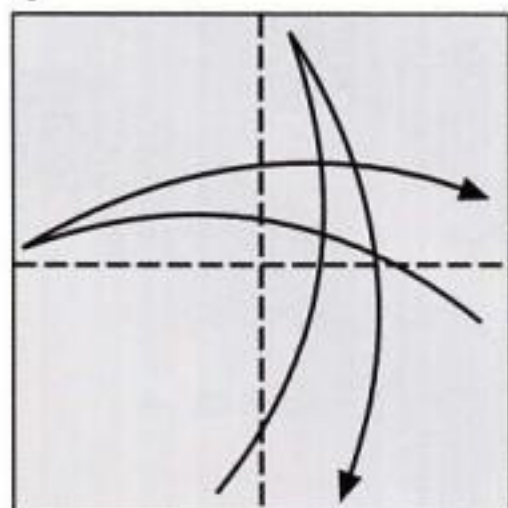
神谷哲史

Model & Diagrams by Satoshi Kamiya

2010/05, 2016/02

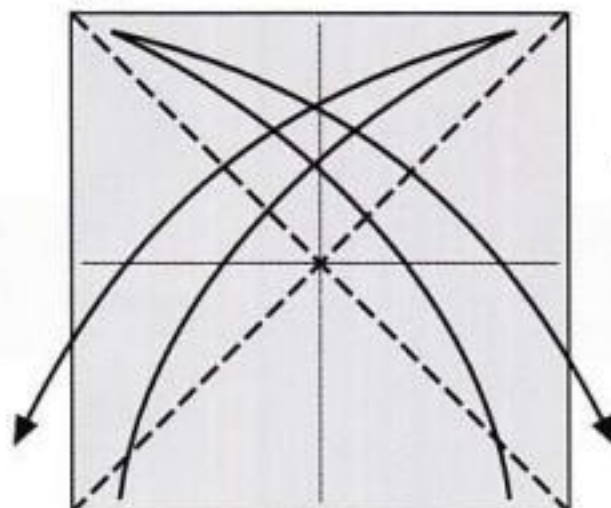


1



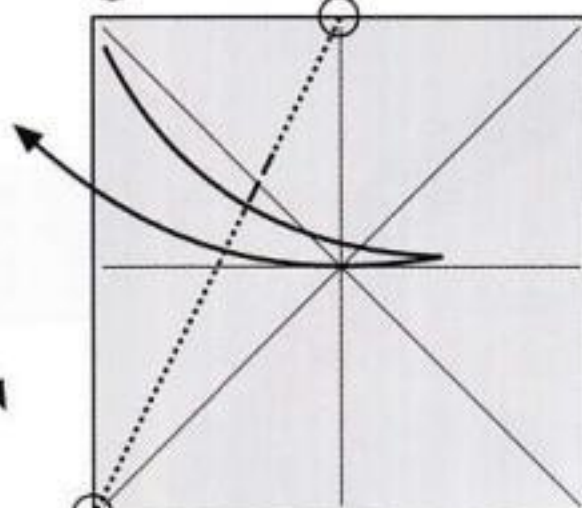
半分に
折り筋をつける

2



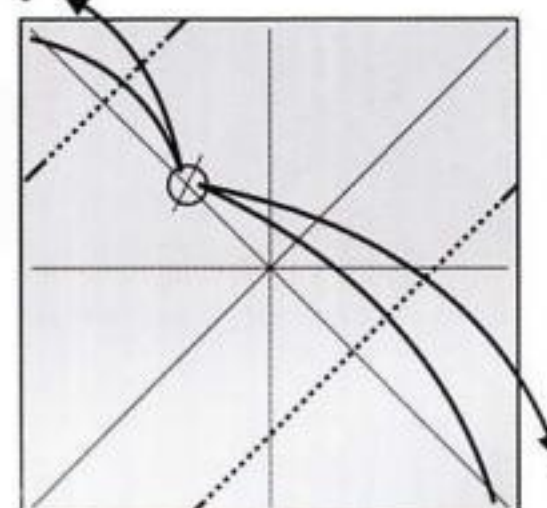
対角線に
折り筋をつける

3



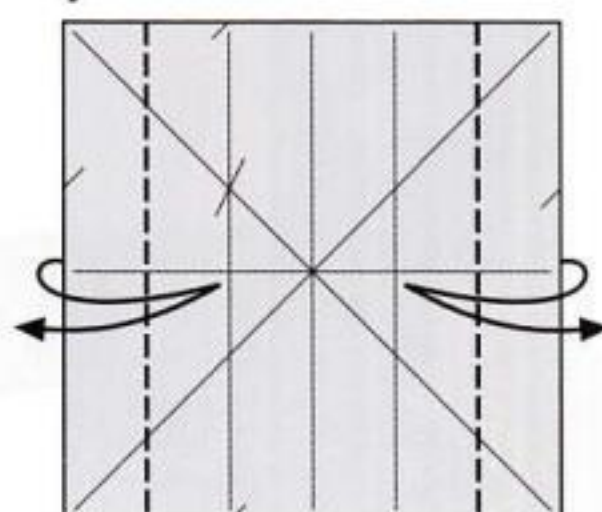
○を結ぶ線で
印をつける

4



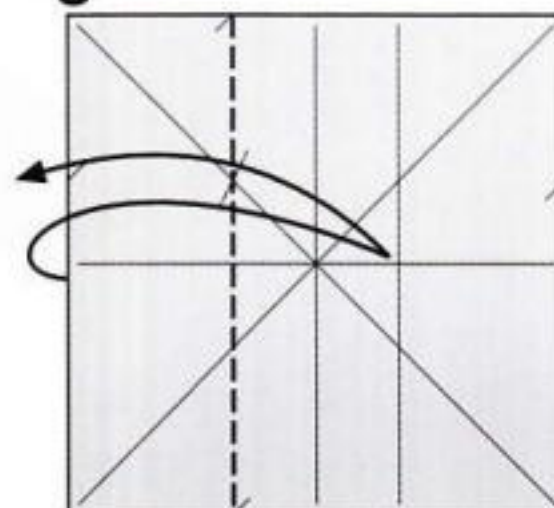
カドを○に合わせて
印をつける

7



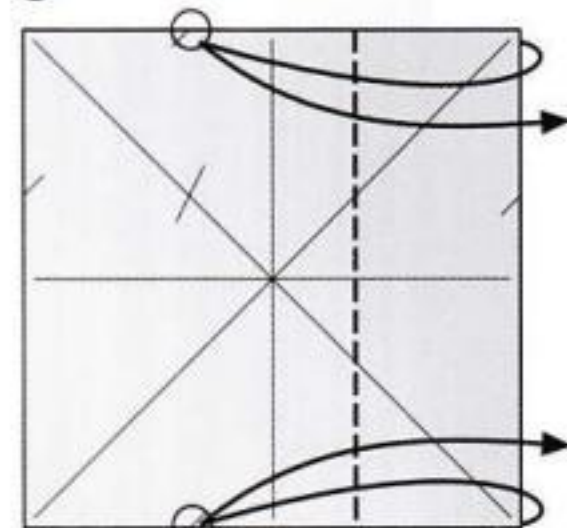
半分の幅で折り筋をつける
(1/6)

6



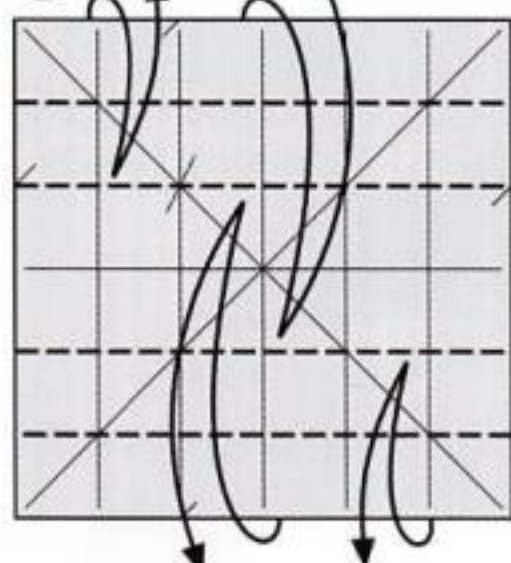
フチを折り筋に合わせて
折り筋をつける
(1/3)

5



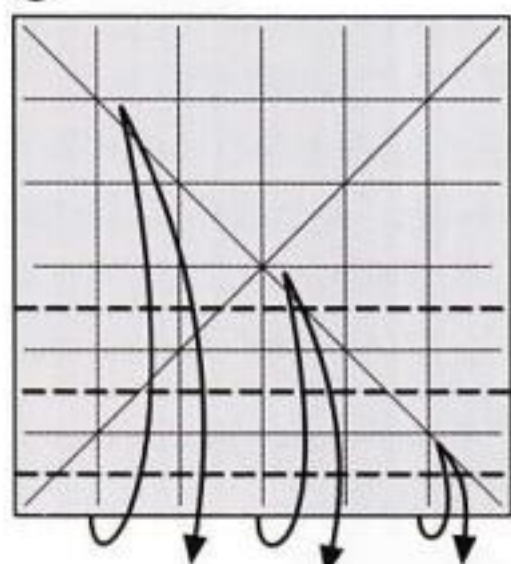
カドを印に合わせて
折り筋をつける
(1/3)

8



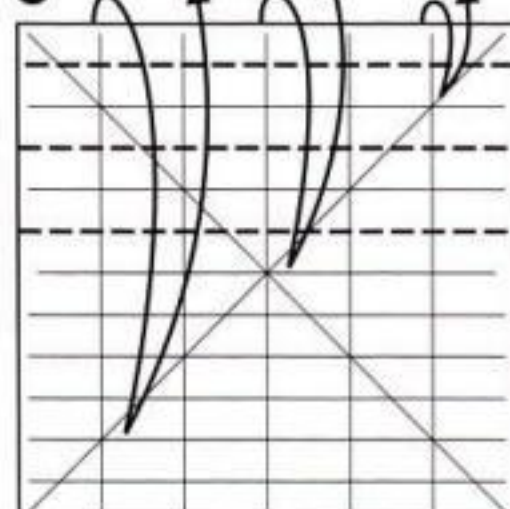
5-7と同様に
折り筋をつける

9



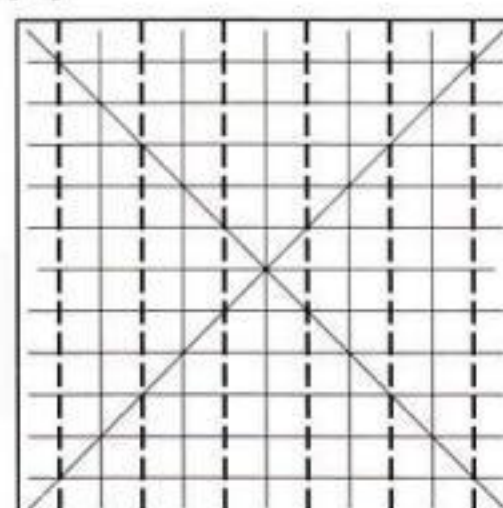
半分の幅(1/12)で
折り筋をつける

10



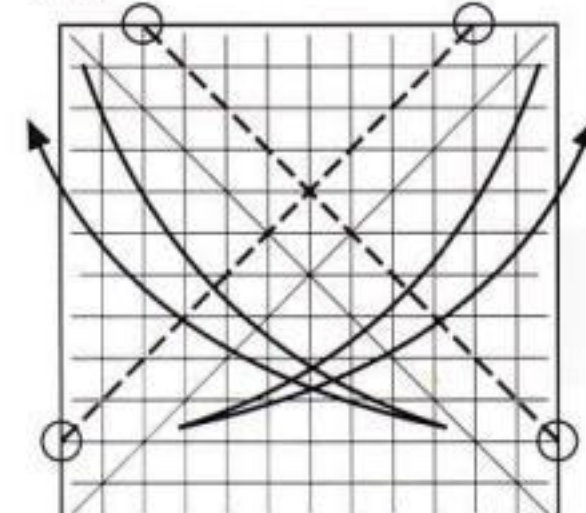
半分の幅(1/12)で
折り筋をつける

11



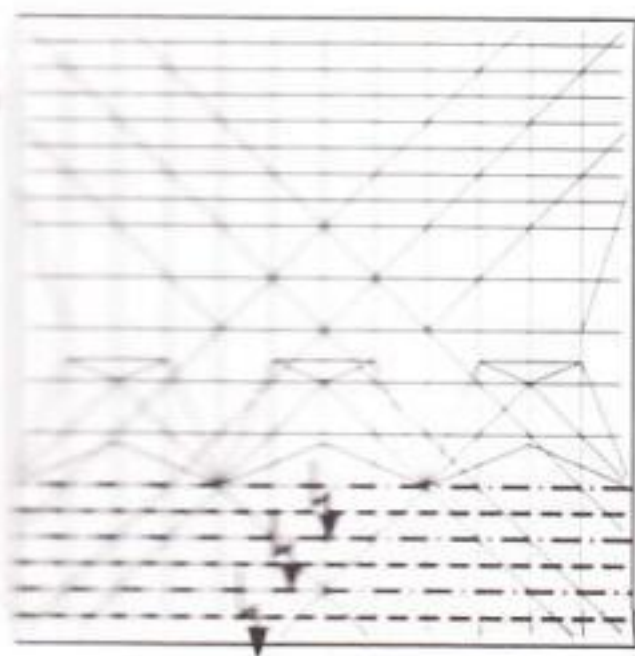
半分の幅(1/12)で
折り筋をつける

12



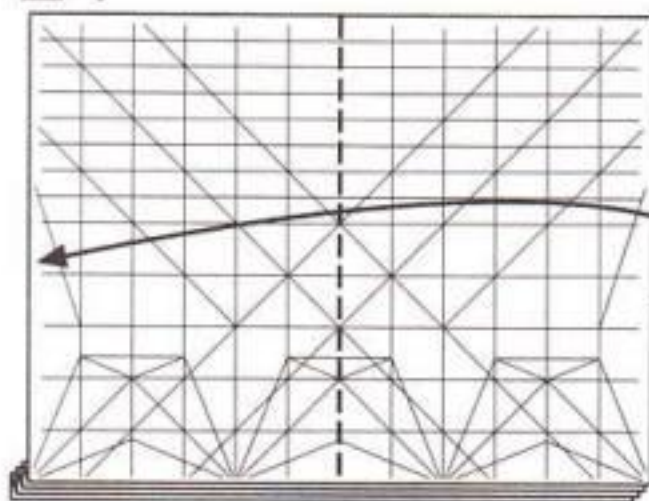
○を結ぶ線で
折り筋をつける

23



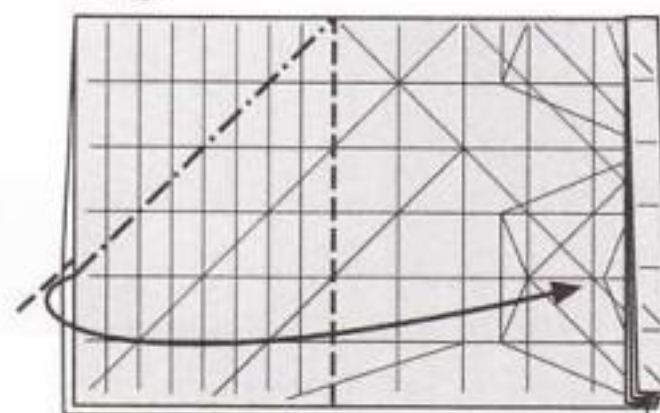
半分の幅(1/24)で段折り

24



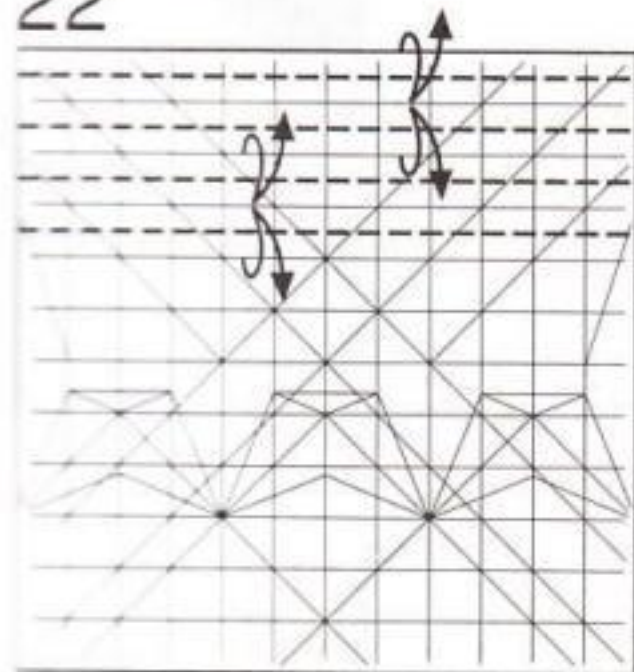
半分に折る

25



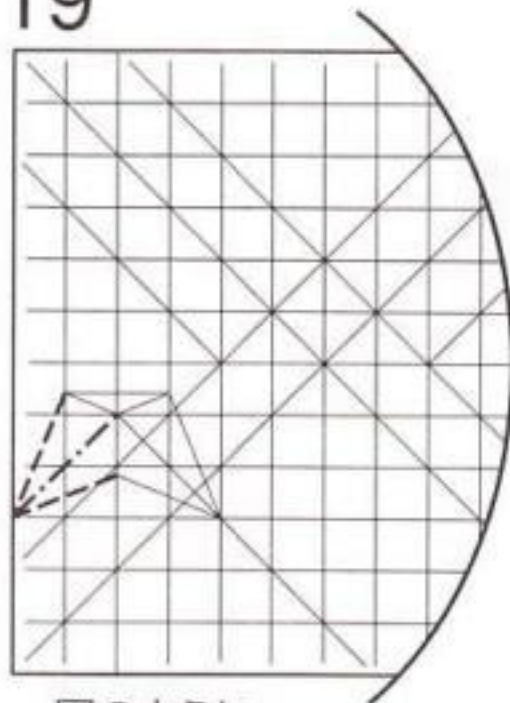
内側を広げてつぶすように折る

22



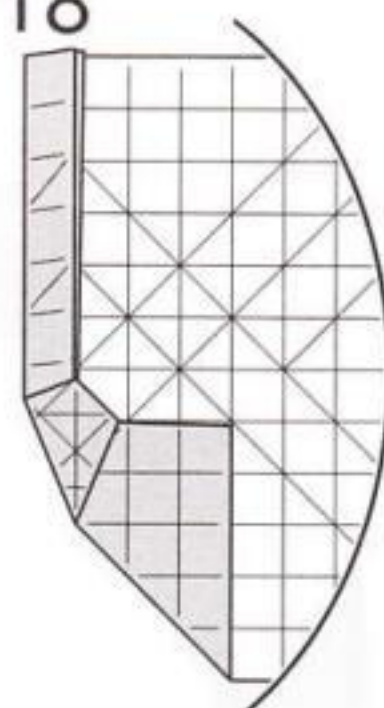
半分の幅(1/24)で
折り筋をつける

19



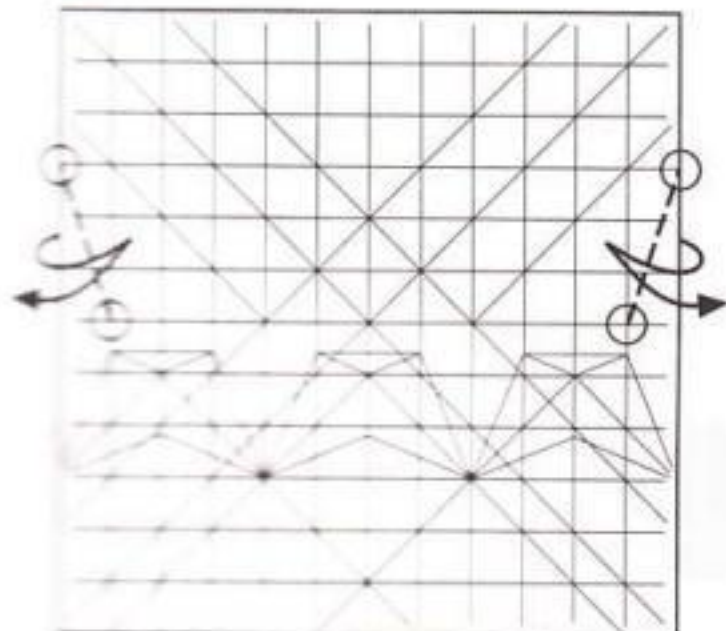
図のように
折り筋をつけ直す

18



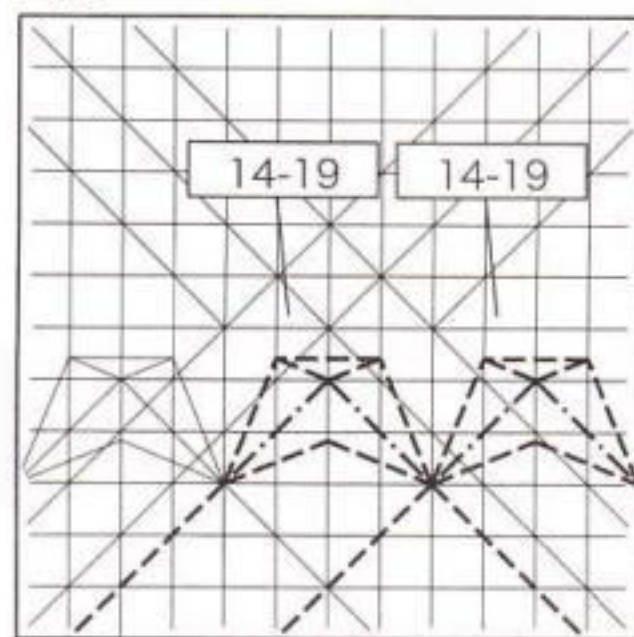
14の形に戻す

21



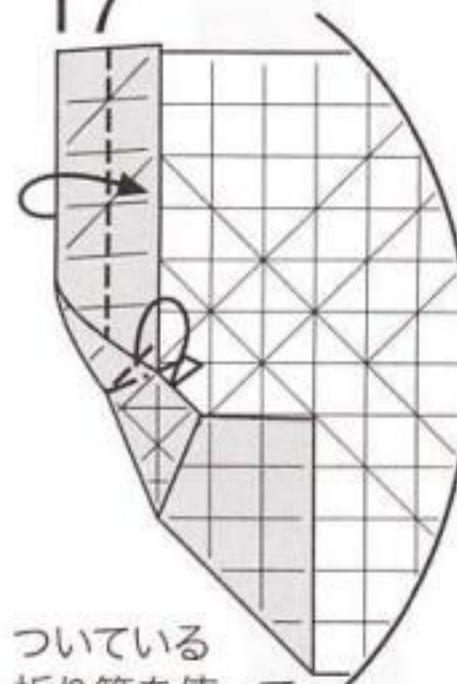
○を結ぶ線で
折り筋をつける

20



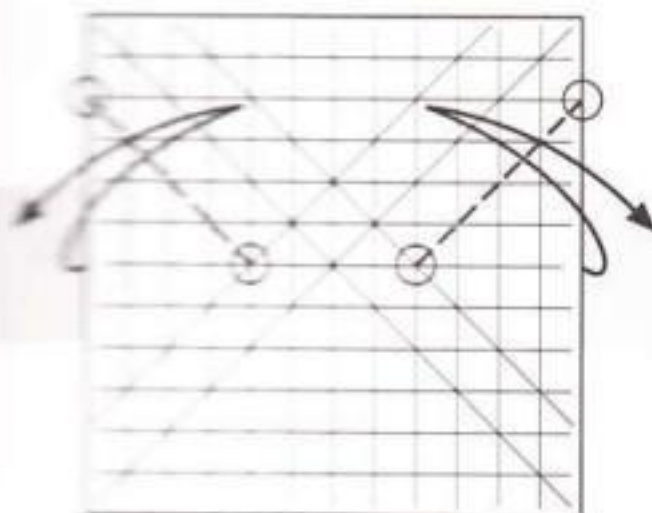
中心と右側も14-19と同様に
折り筋をつける

17



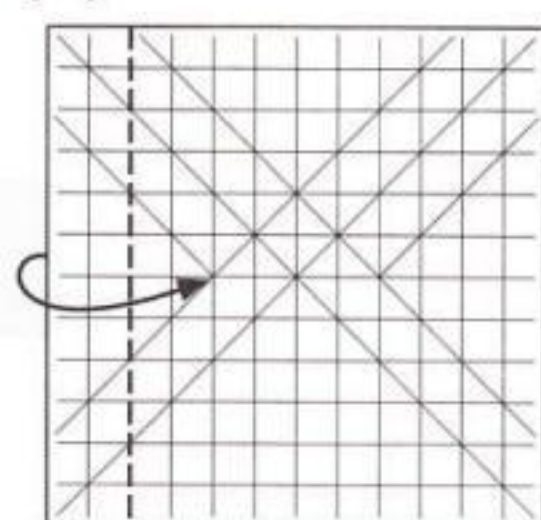
ついている
折り筋を使って
引き寄せるように折る

13



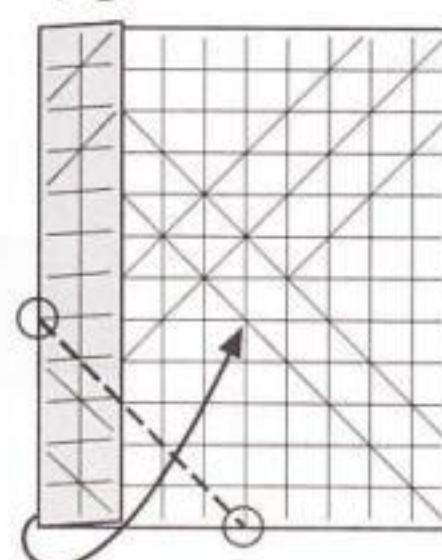
○を結ぶ線で
折り筋をつける

14



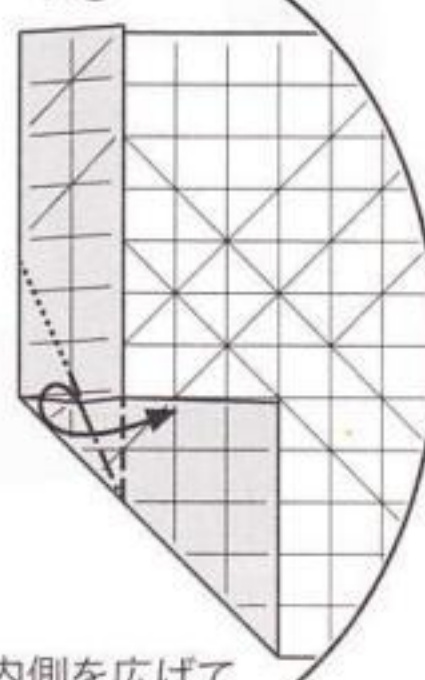
2マス目の
折り筋で折る

15

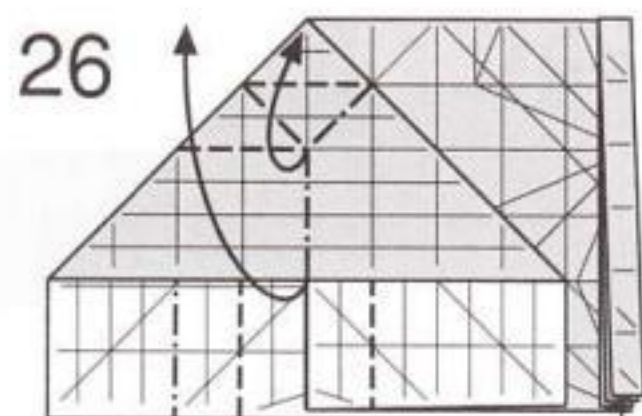


○を結ぶ線で折る

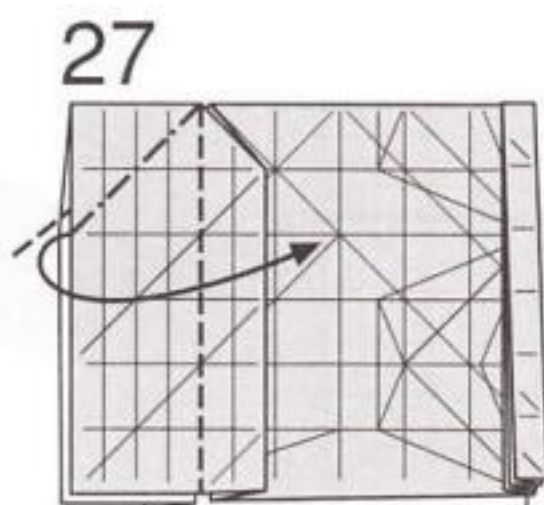
16



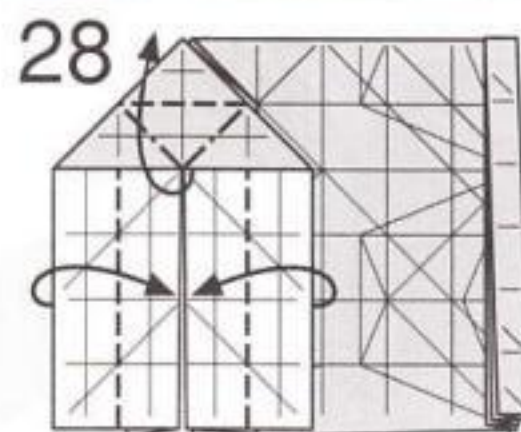
内側を広げて
つぶすように折る



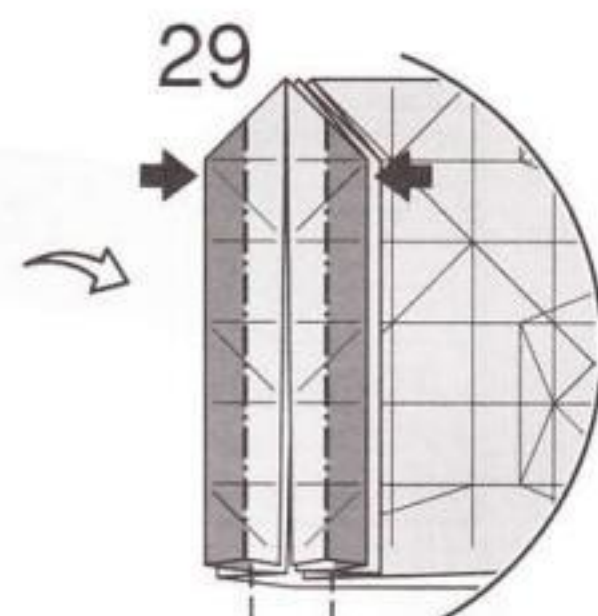
26
ついている折り筋を使って
中心線をつまむようにして
折り畳む



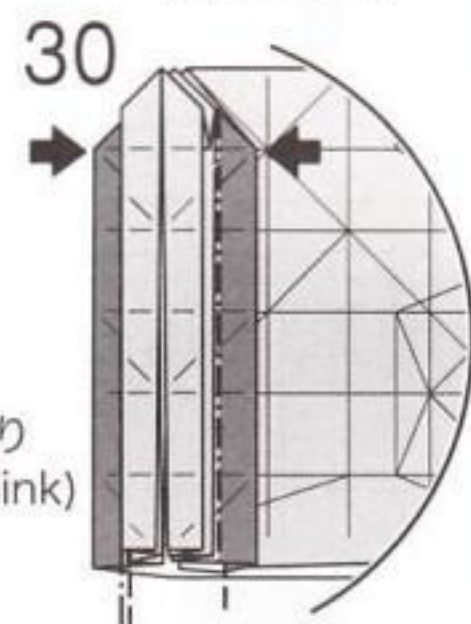
27
内側を広げて
つぶすように折る



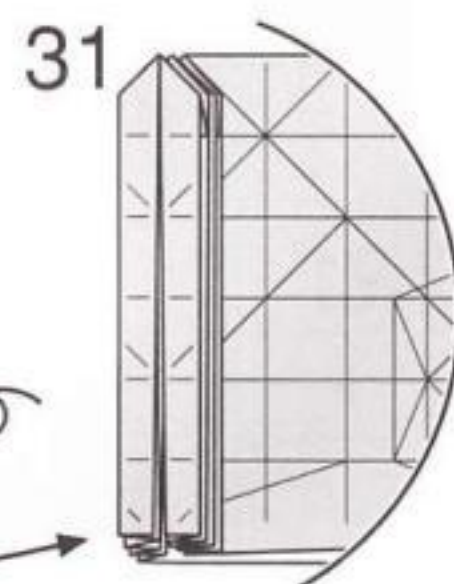
28
フチを中心に合わせて
花弁折り



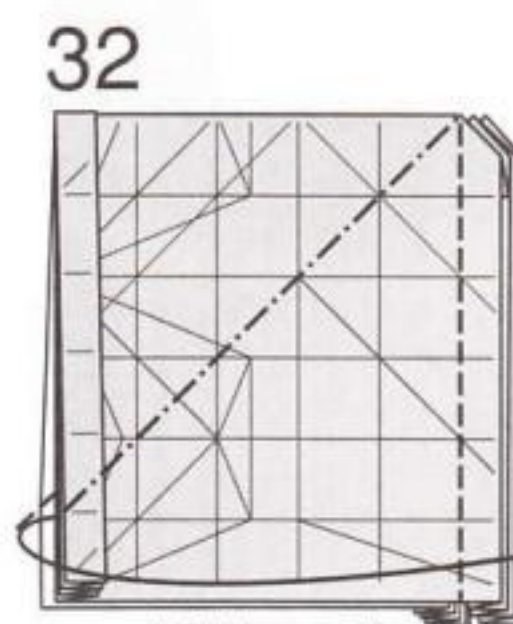
29
しずめ折り
(Open sink)



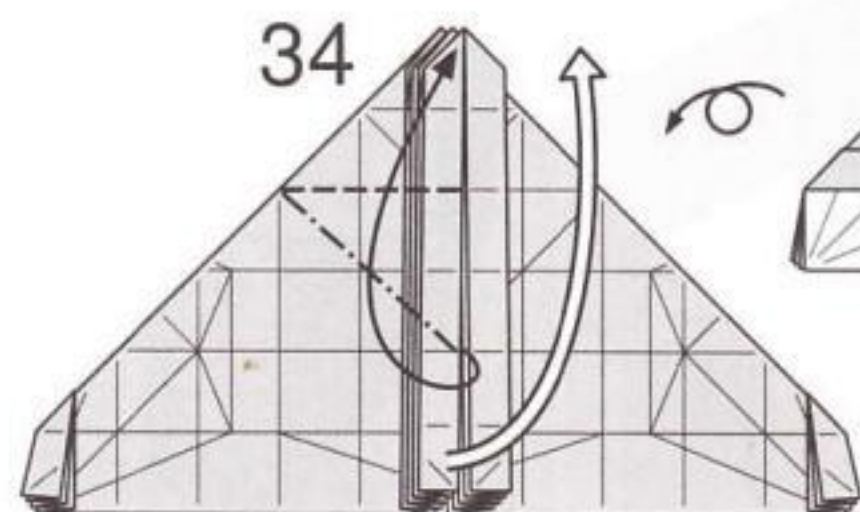
30
しずめ折り
(Open sink)



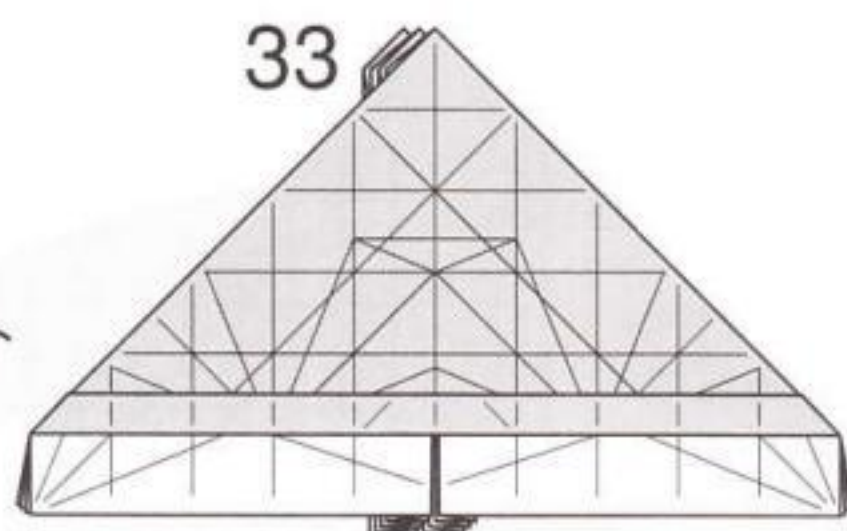
31



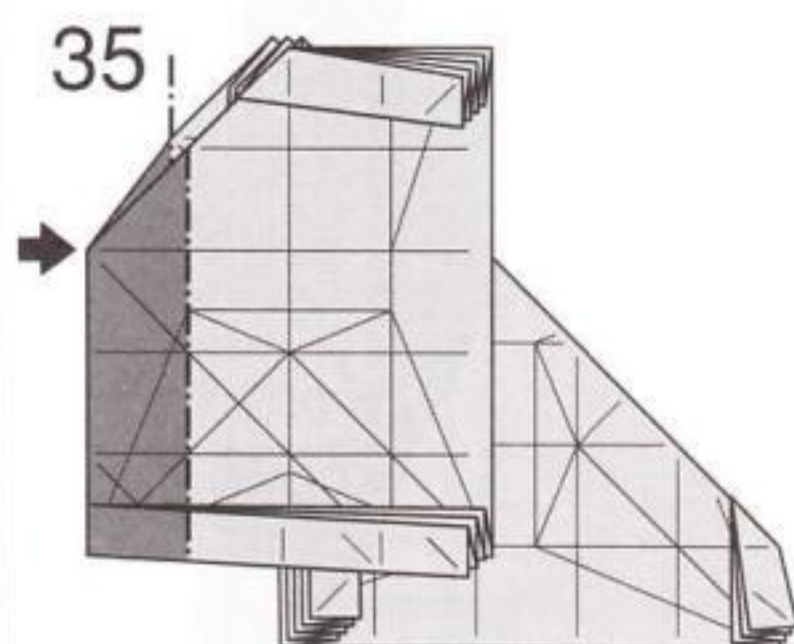
32
内側をひろげて
つぶすように折る



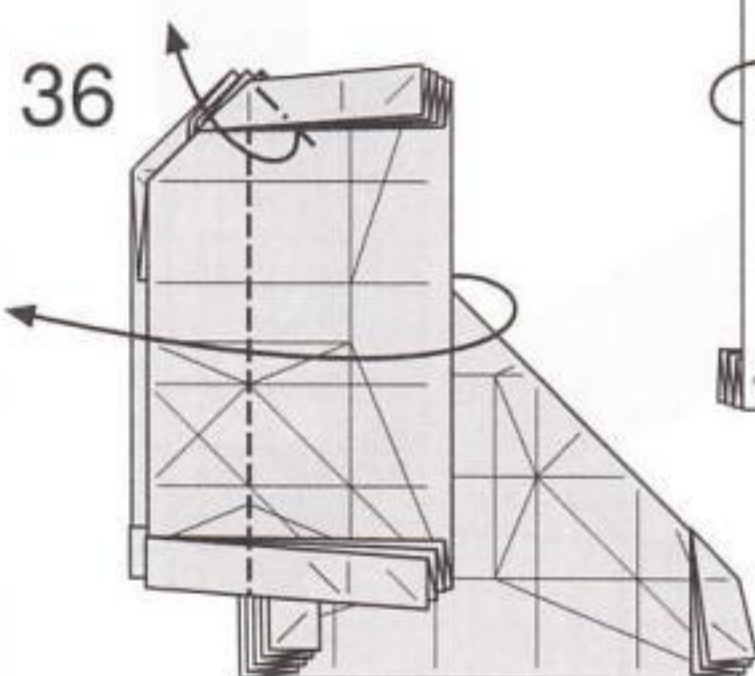
34
ついている折り筋で
ずらすように折る



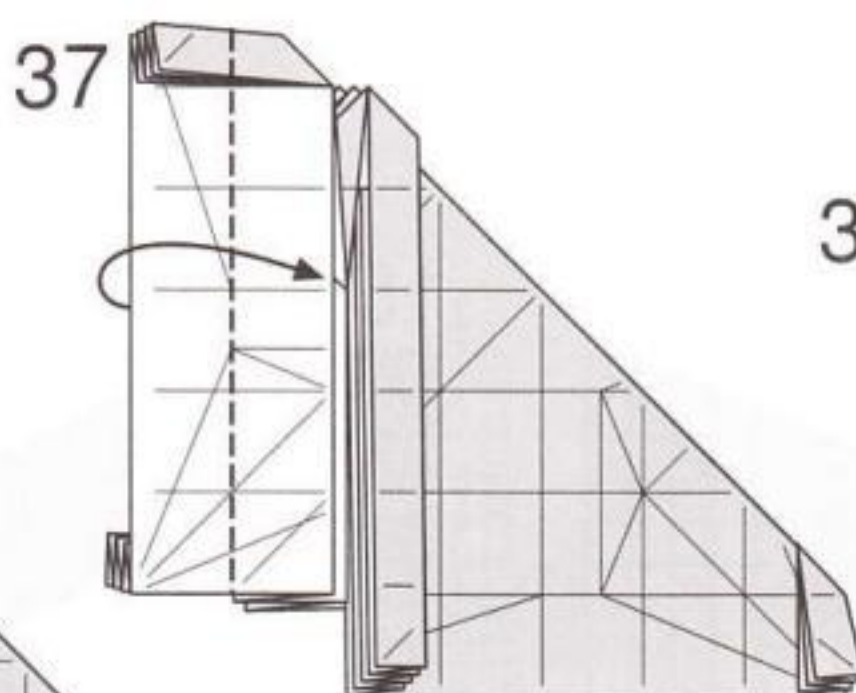
33



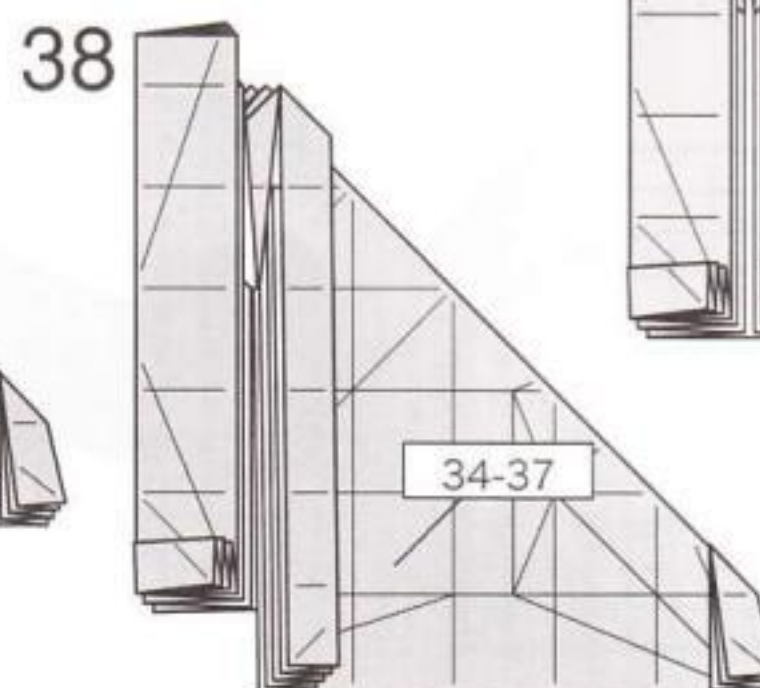
35
しずめ折り
(Open sink)



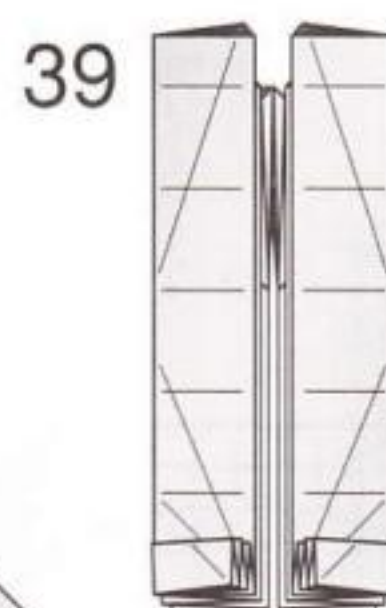
36
上のヒダを引き出しながら
フチを反対側へ折る



37
フチをついている
折り筋で折る



38
反対側も34-37と
同様に折る



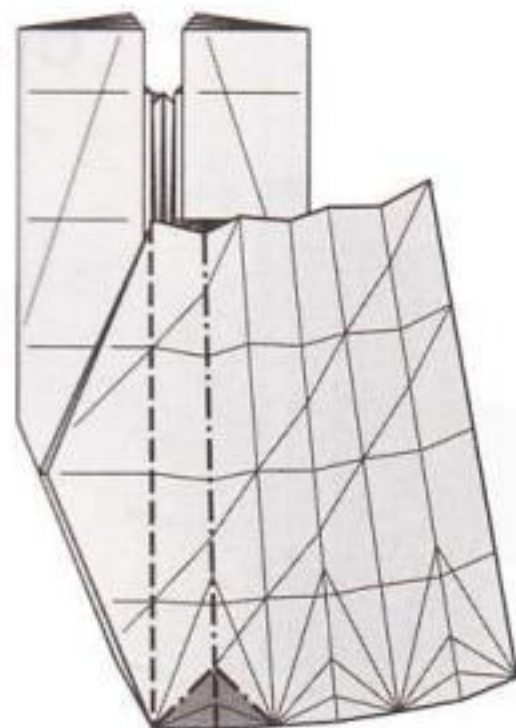
39

53

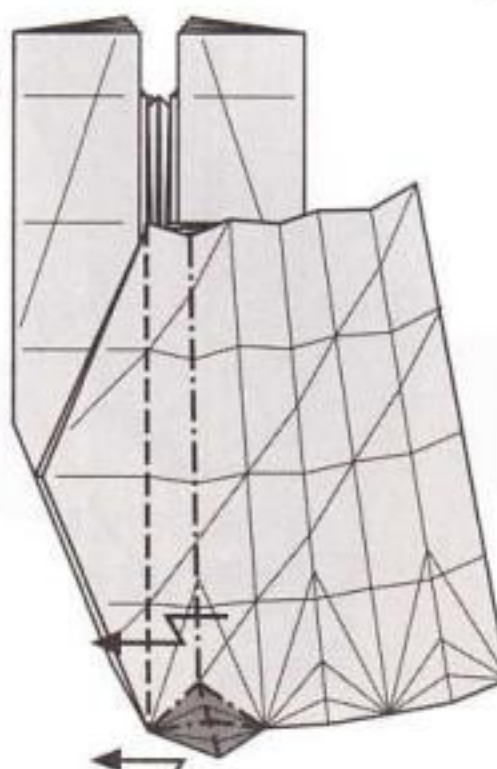


ヒダを広げる

54

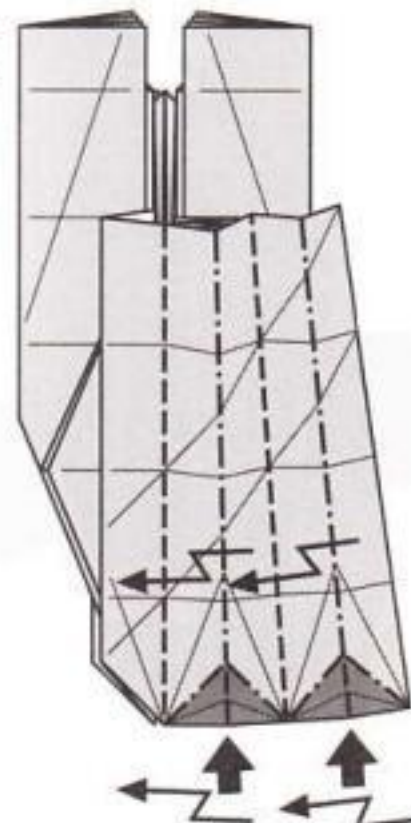
アミの部分をつぶして
両側にヒダを作る

55



両側で段折り

56

残りも54-55と
同じように折る

52

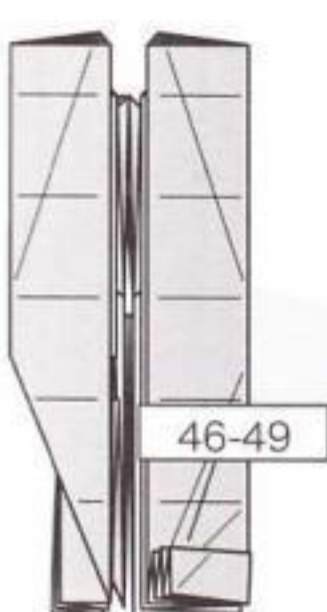
内側の紙を
引き出す

51

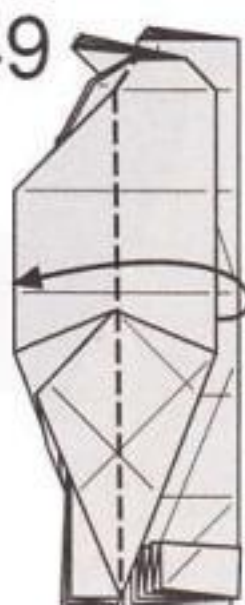


カドを上げげる

50

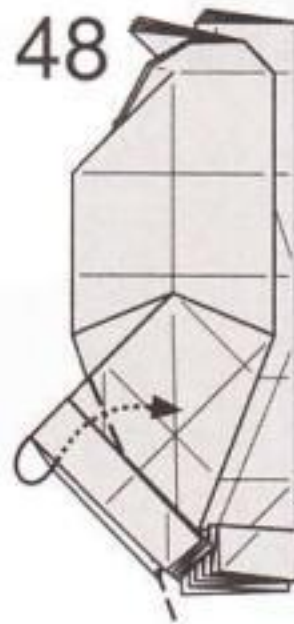
反対側も46-49と
同様に折る

49



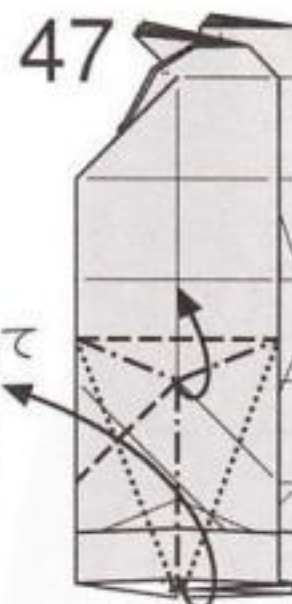
戻す

48

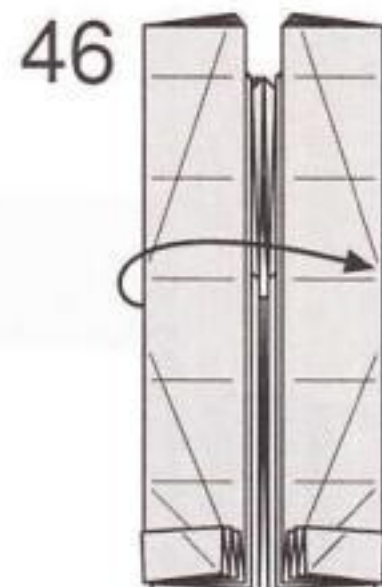


中わり折り

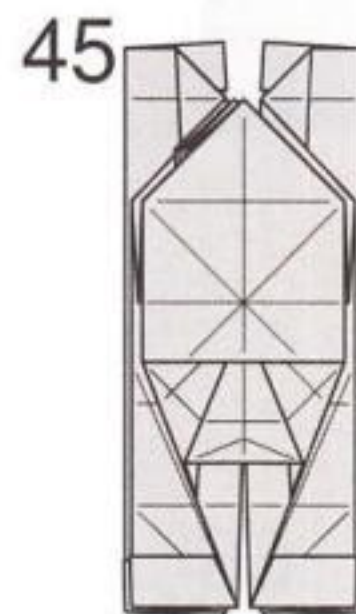
47

ついている
折り筋を使って
中心線をつまむように
折り畳む

46

手前の1枚を
反対側へひろげる

45

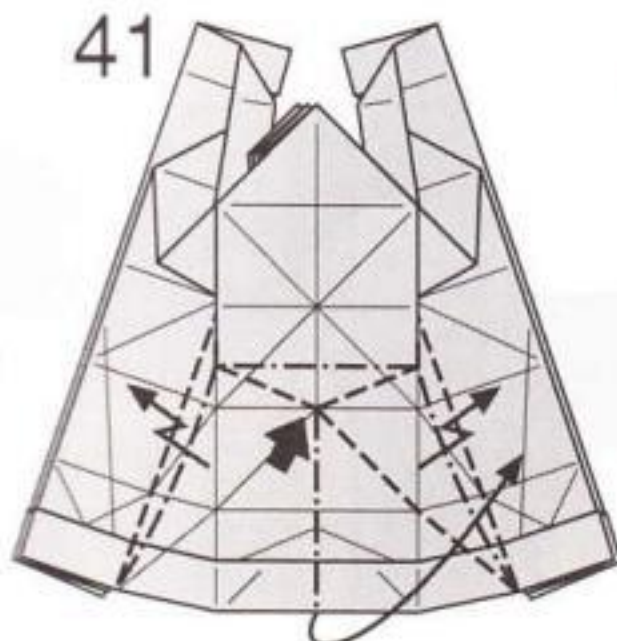


40

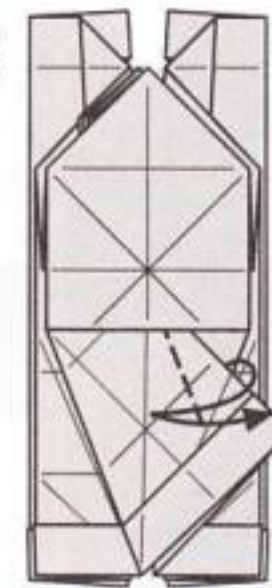


軽く広げる

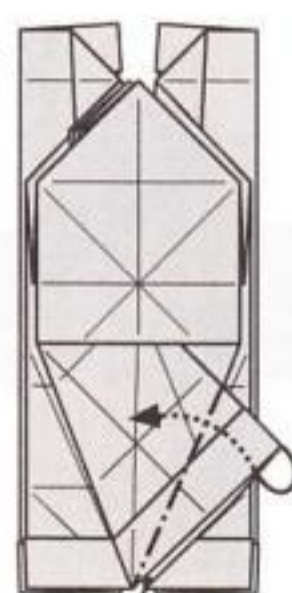
41

中心の部分を押し込みながら
中心線をつまむように折り畳む

42

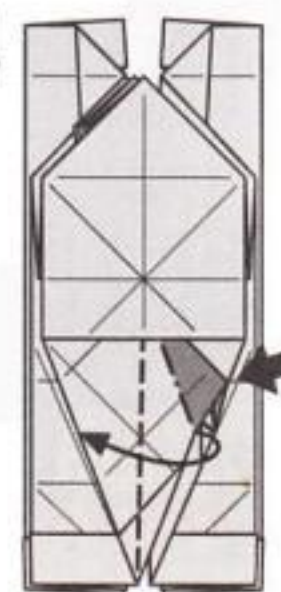
フチを中心に合わせて
折り筋をつける

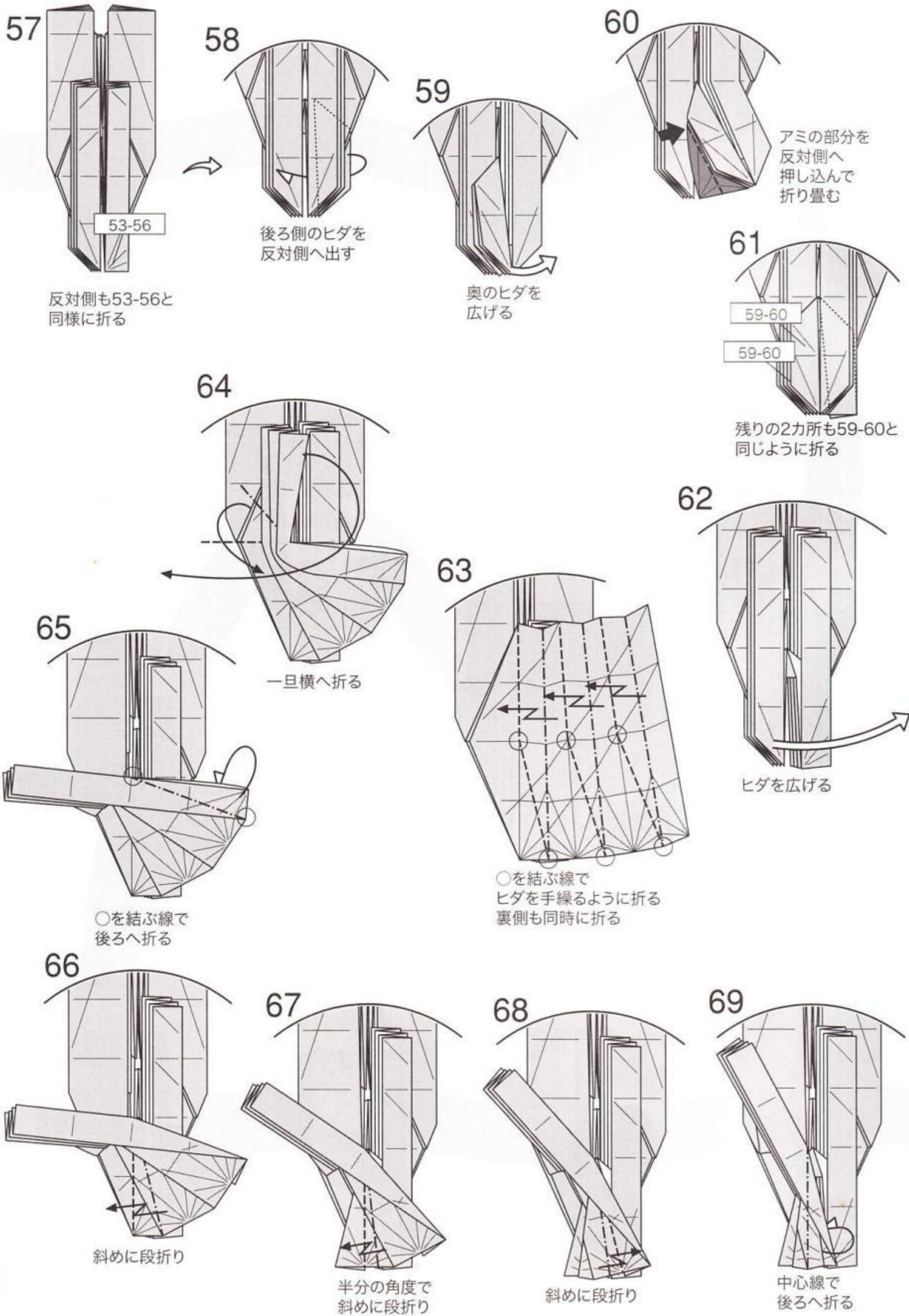
43

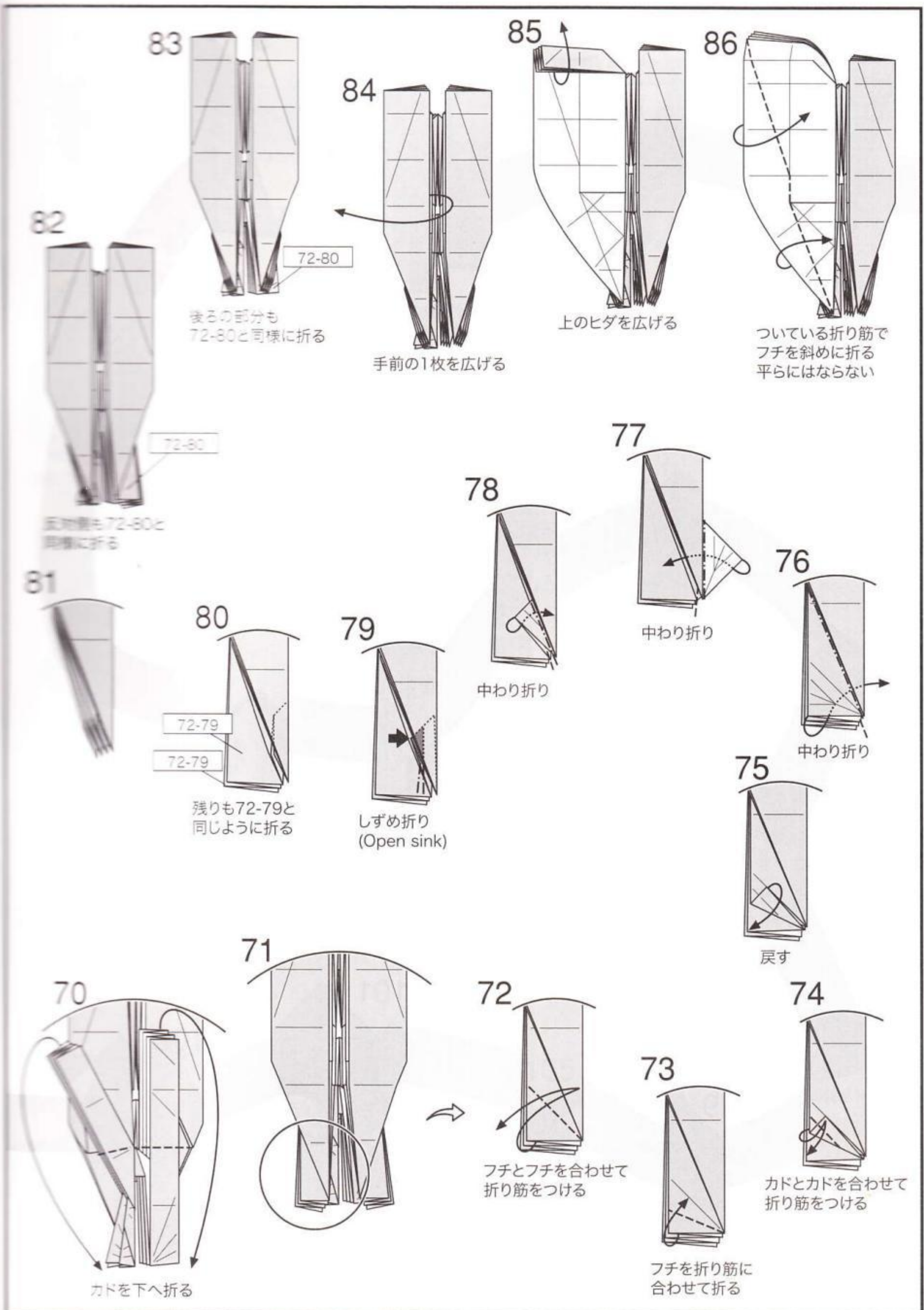


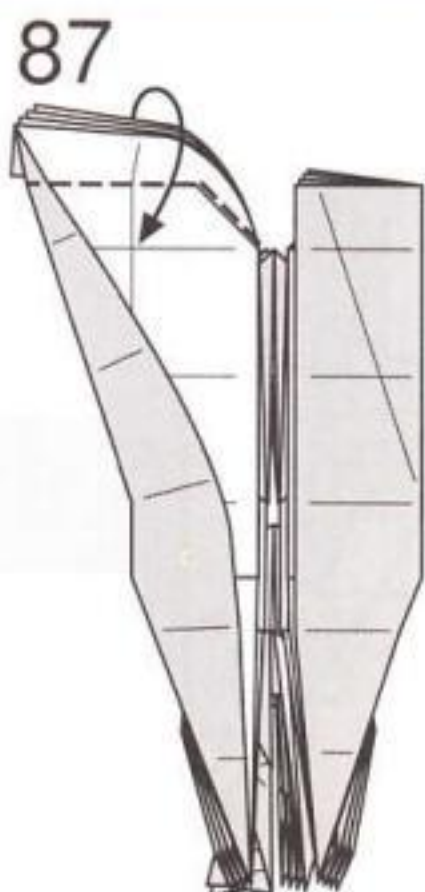
中わり折り

44

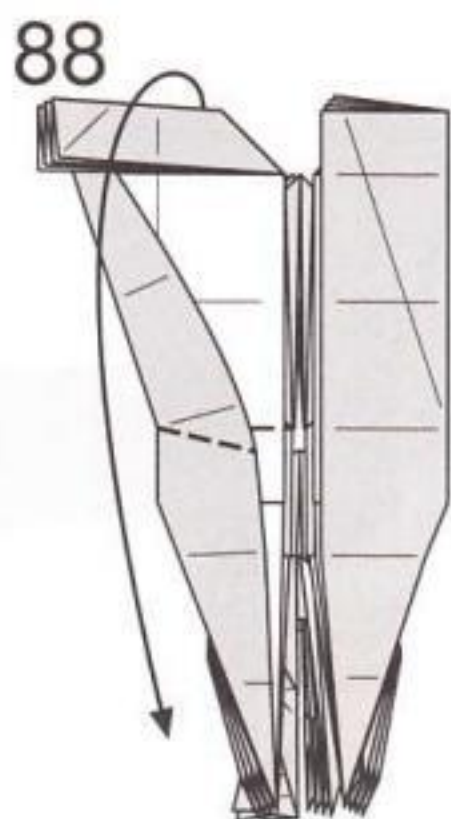
カドを広げて
つぶすように折る
(Spread sink)



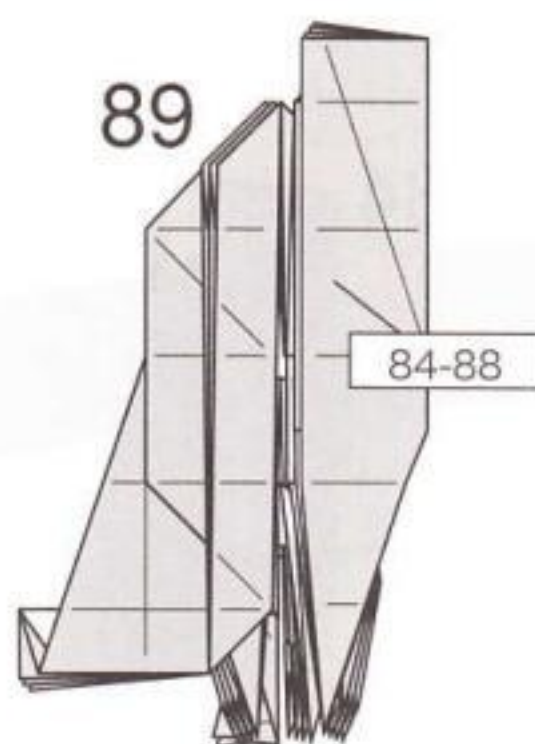




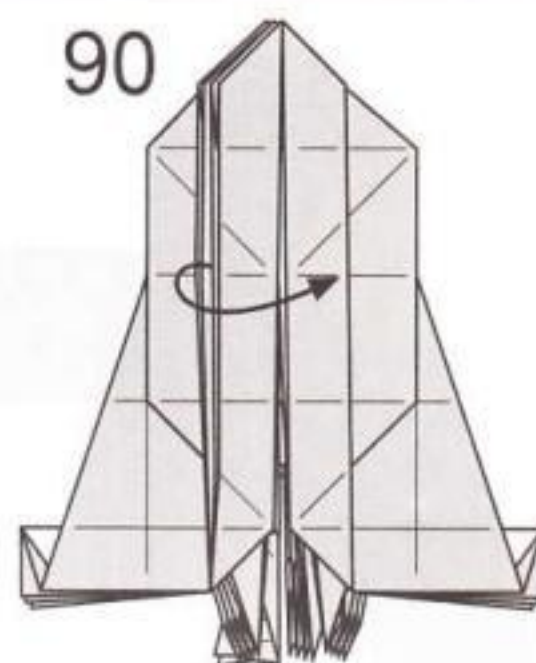
上のヒダを
閉じるように折る



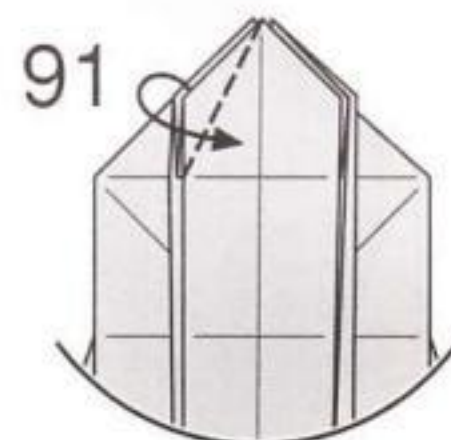
下へ折って
平らにする



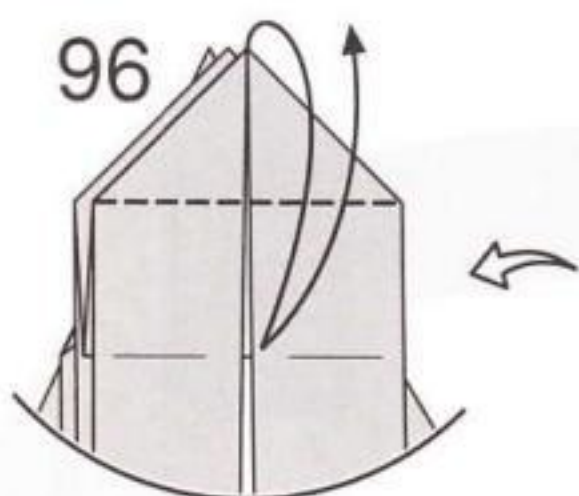
反対側も84-88と
同様に折る



2枚目のすき間を広げる



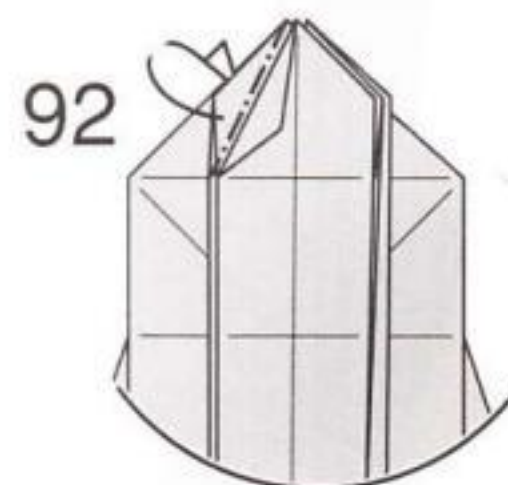
カドを斜めに折る



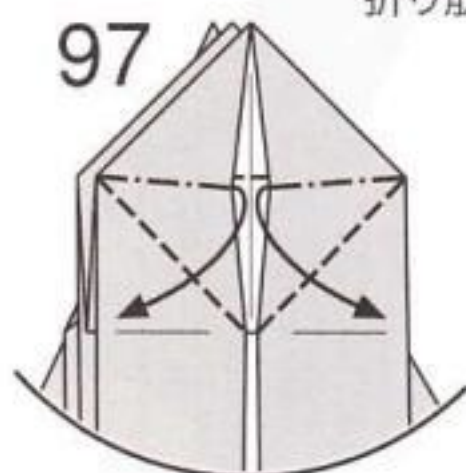
カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける



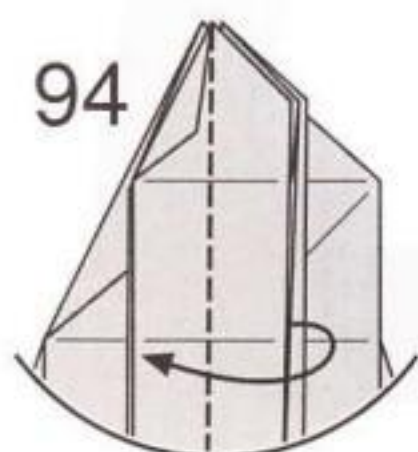
反対側も90-94と
同様に折る



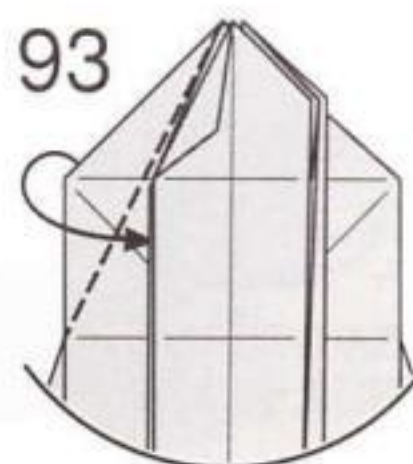
カドを後ろの
すき間へ折り込む



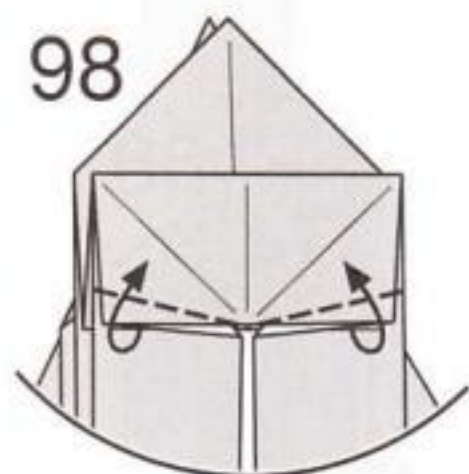
内側を広げて
つぶすように折る



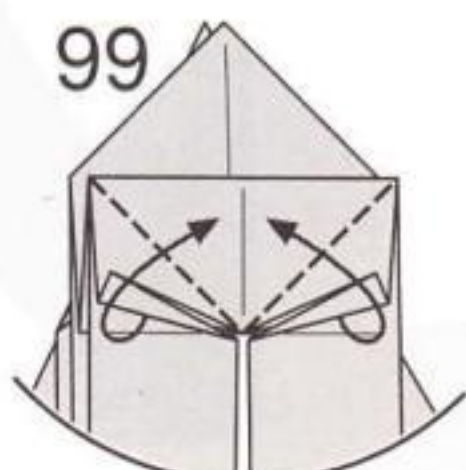
広げたヒダを戻す



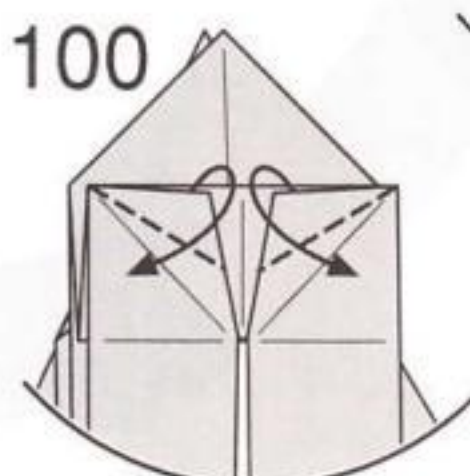
カドをすき間へ
折り込む



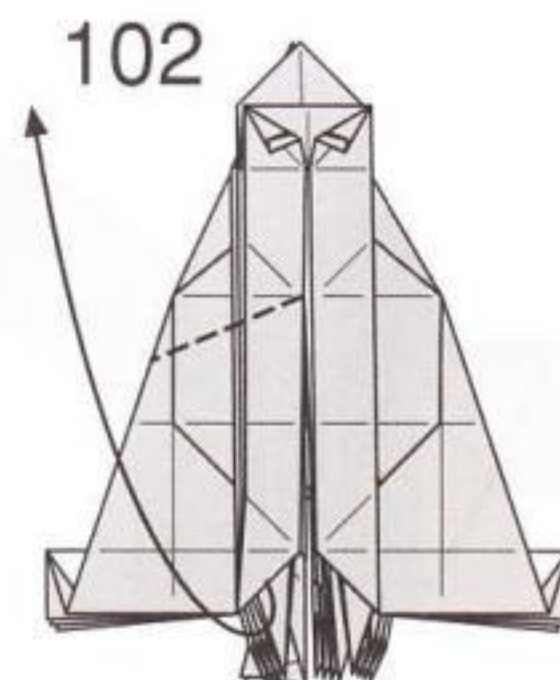
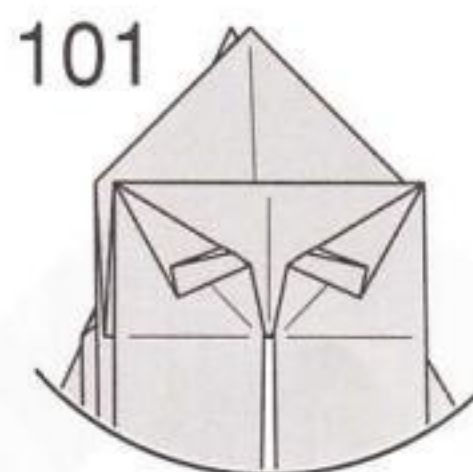
カドを斜めに折る



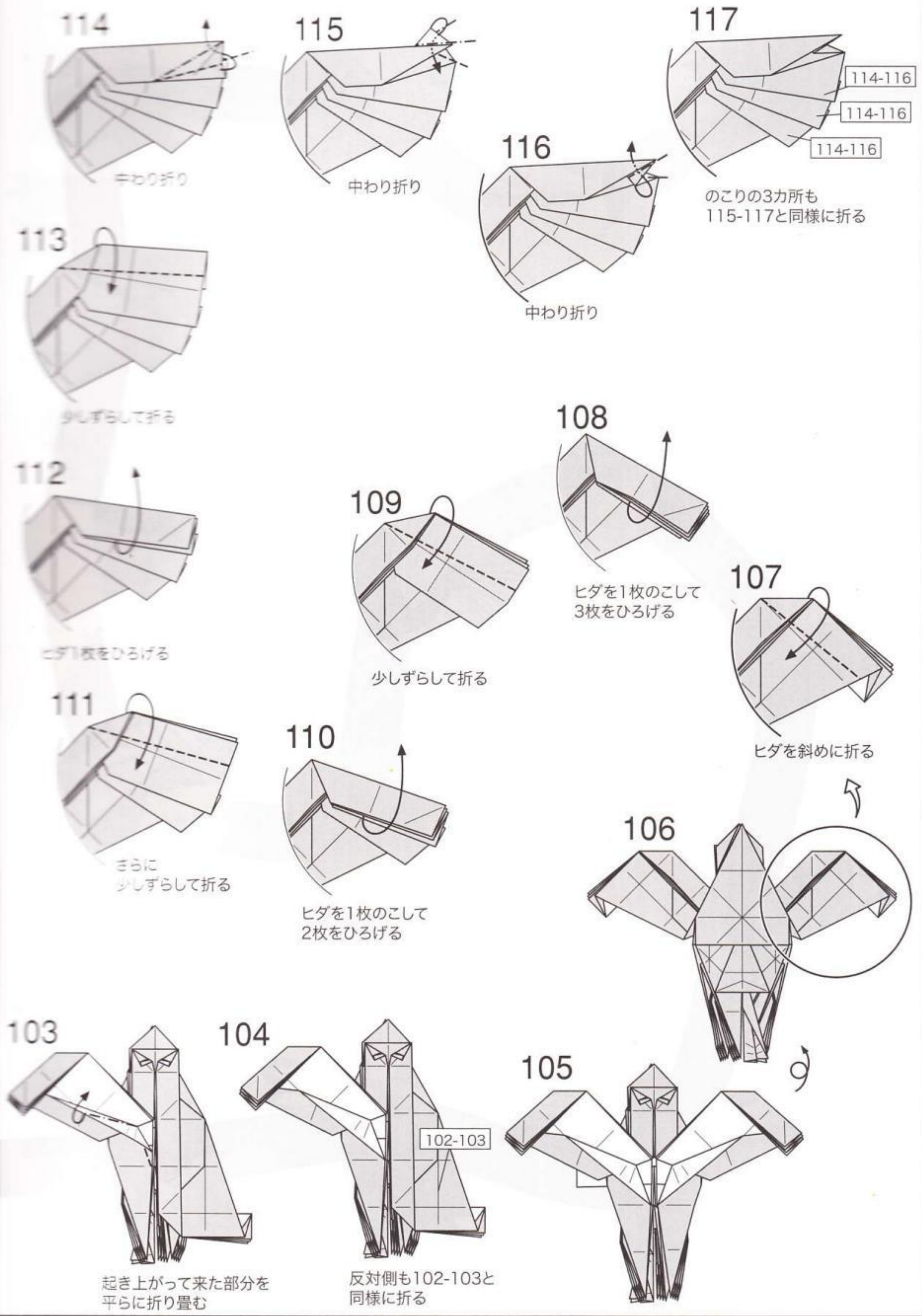
それぞれ
上へ戻すように折る



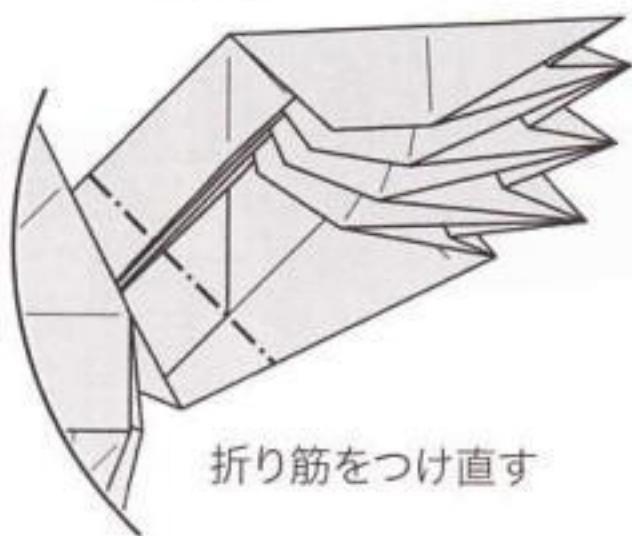
カドを斜めに折る



カドを斜めに折る

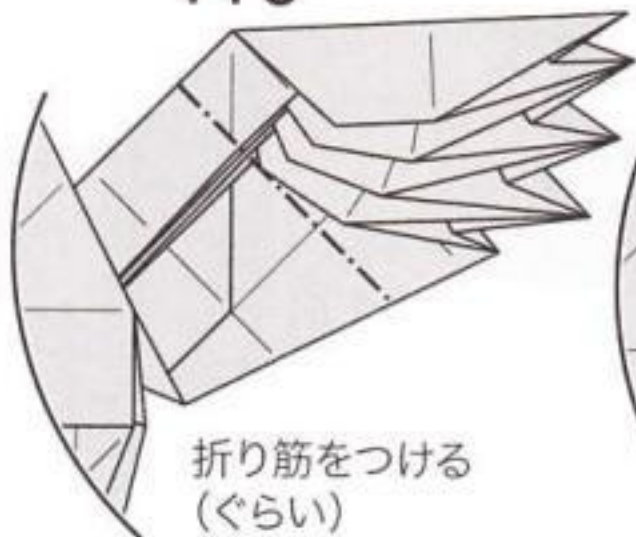


118

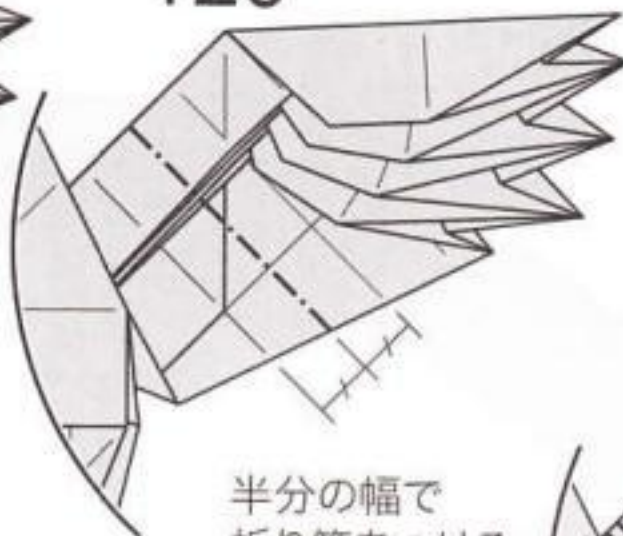


折り筋をつけ直す

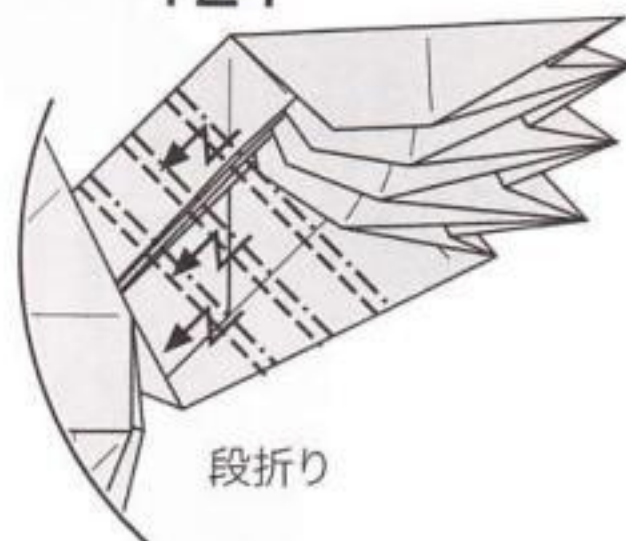
119

折り筋をつける
(ぐらい)

120

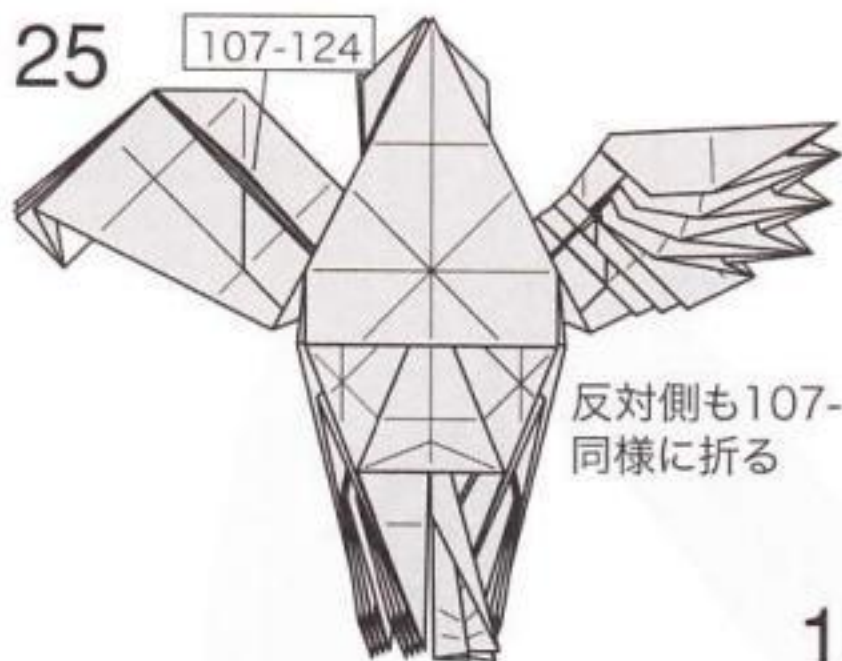
半分の幅で
折り筋をつける

121

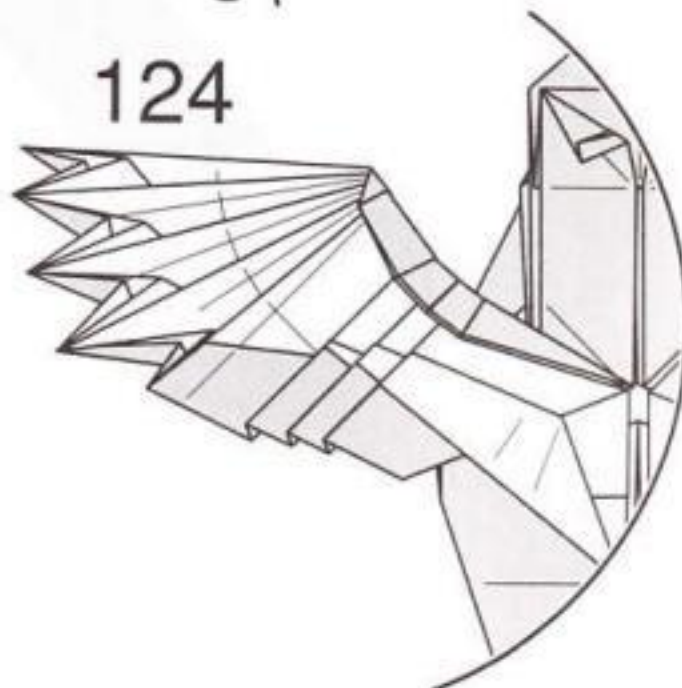


段折り

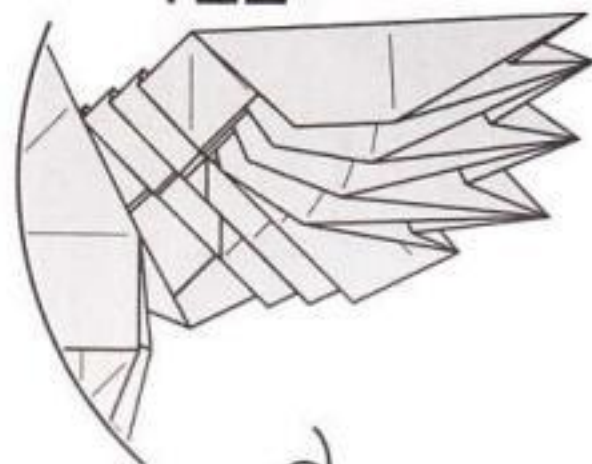
125

反対側も107-124と
同様に折る

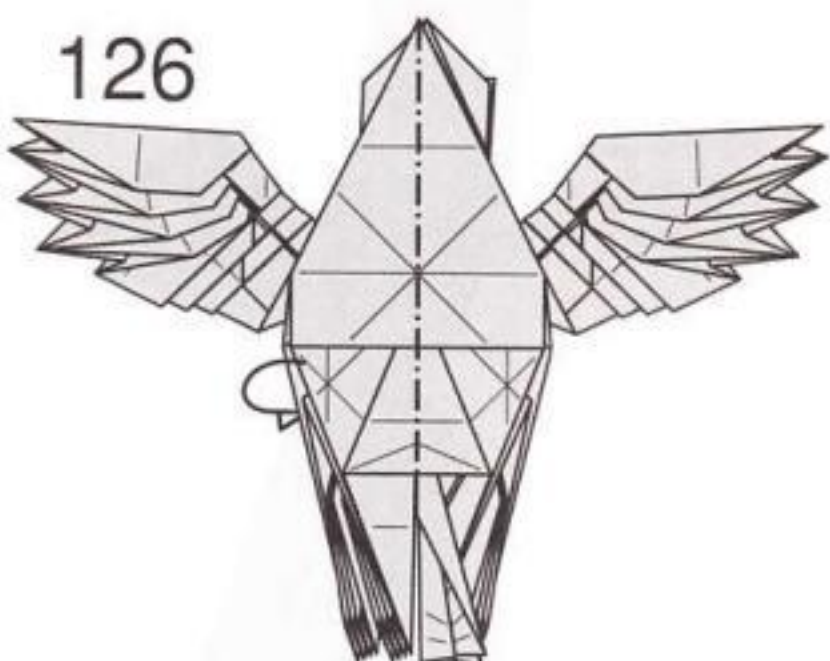
124



122

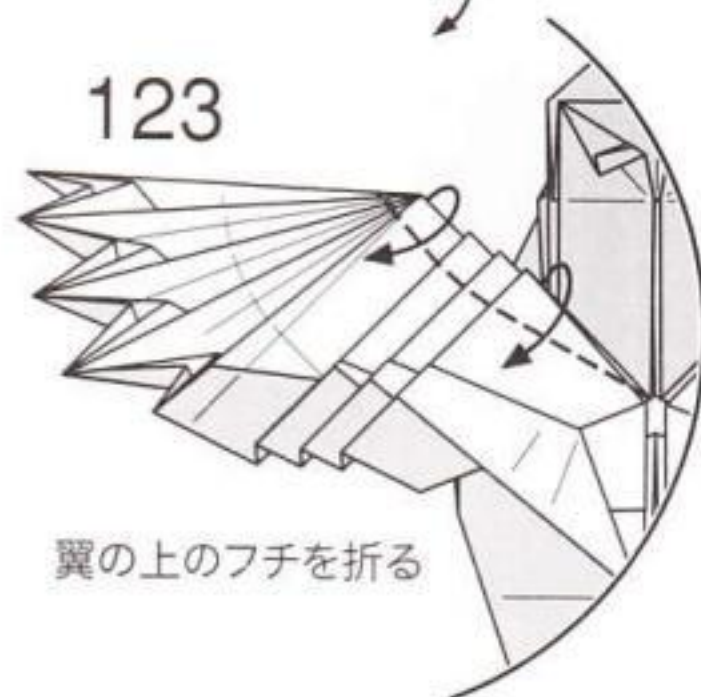


126



後ろへ半分に折る

123



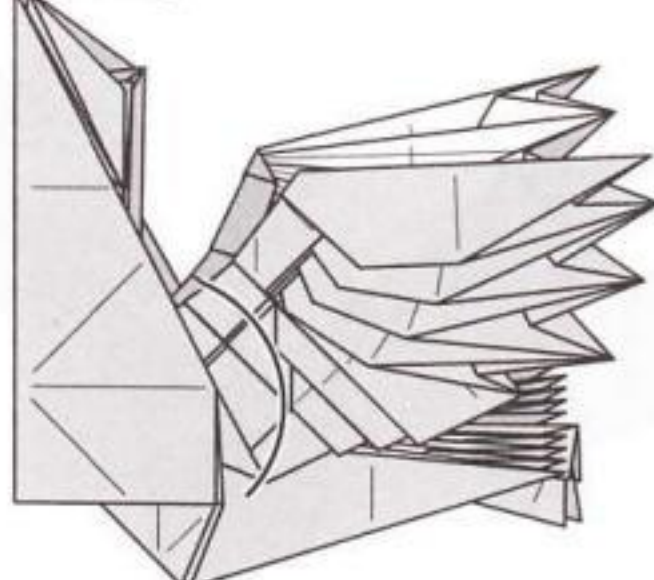
翼の上のフチを折る

127



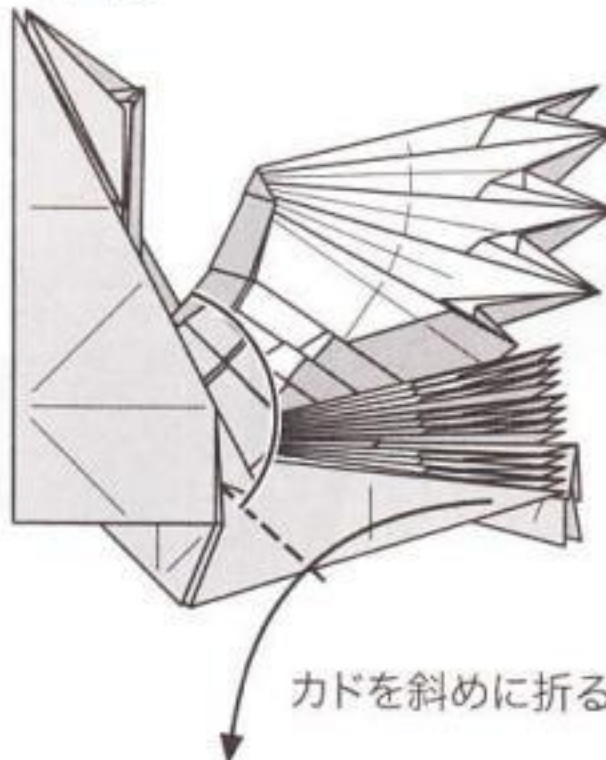
中わり折り

128



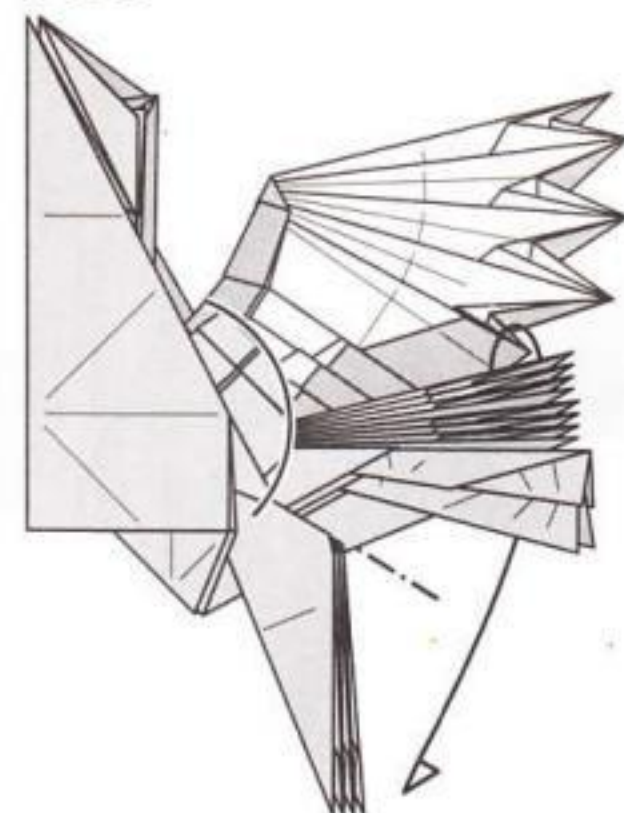
手前側の翼を透視

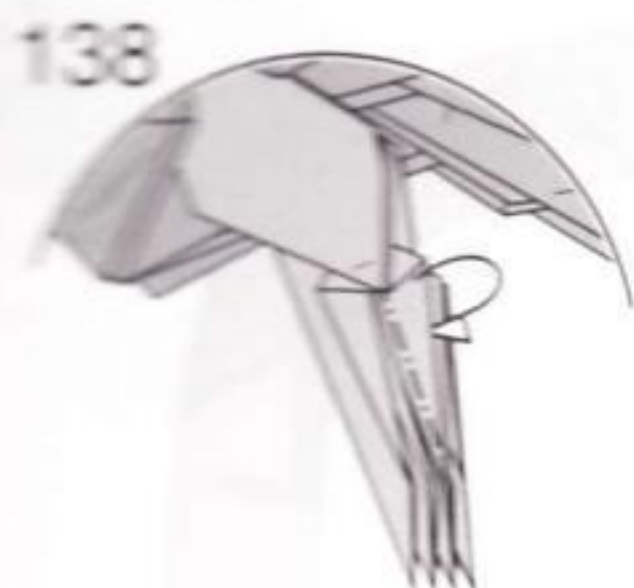
129



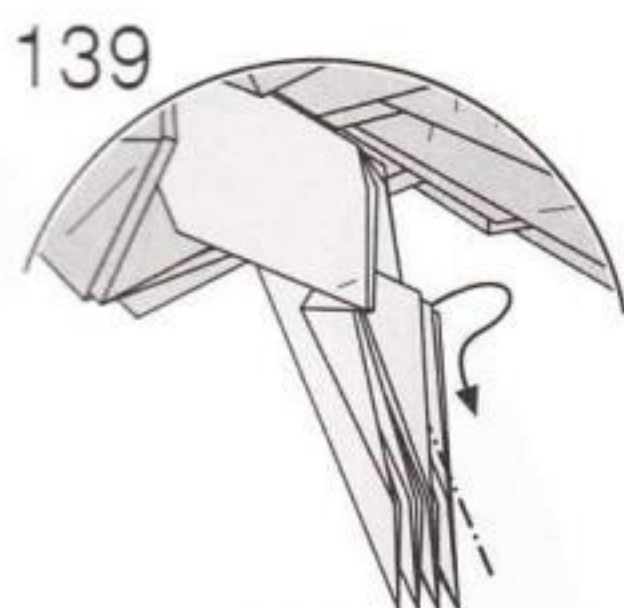
カドを斜めに折る

130

反対側のカドも
同じように折る



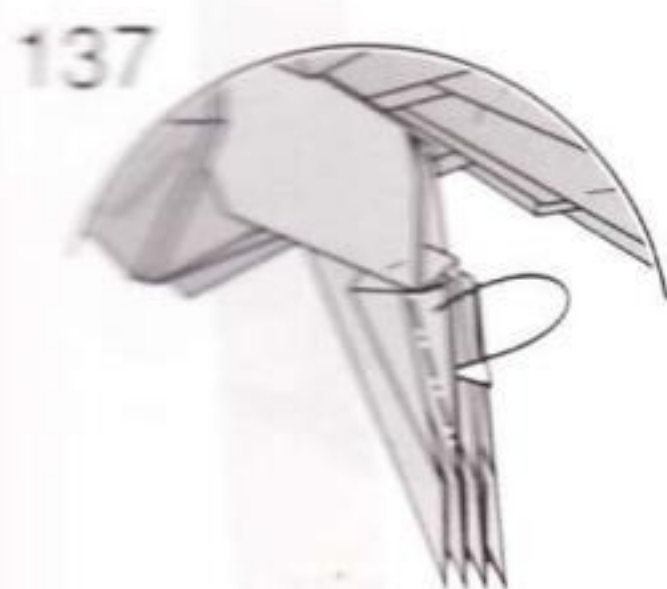
次の指のフチを
後ろへ折り込む



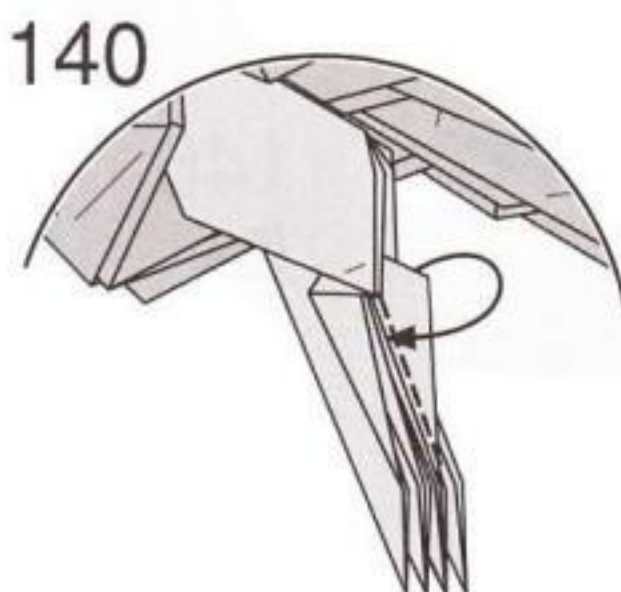
奥の指のフチを
中わり折り



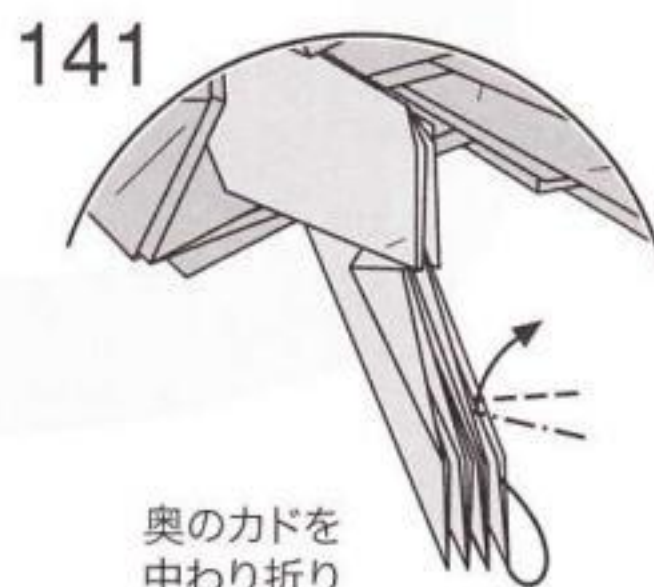
カドを細く折る



次の指のフチを
後ろへ折り込む



カドを内側に折り込む



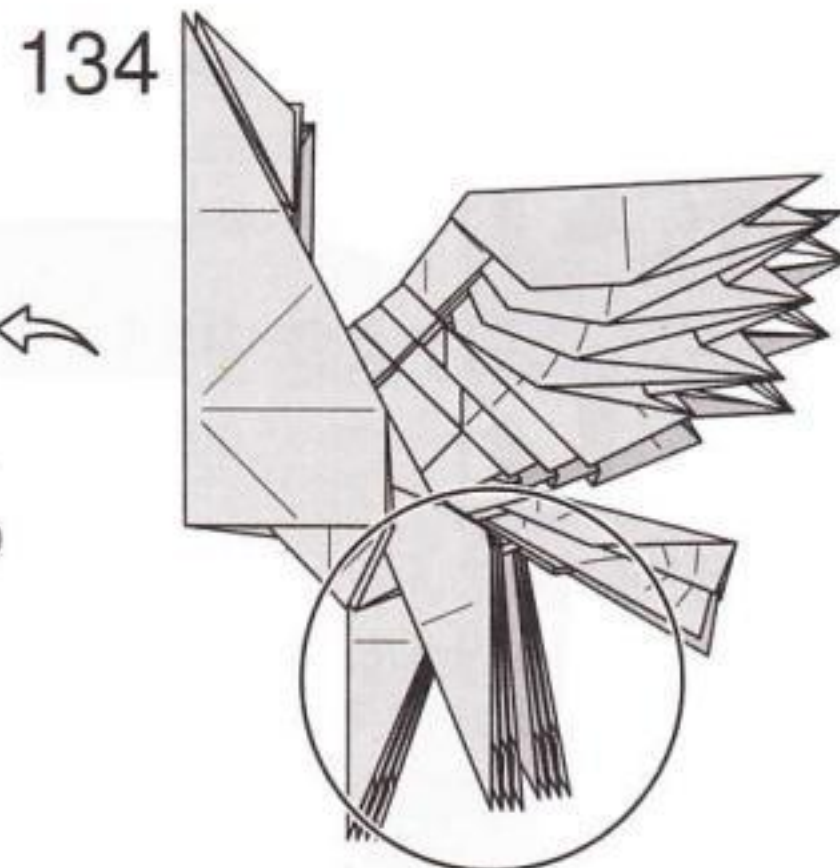
奥のカドを
中わり折り



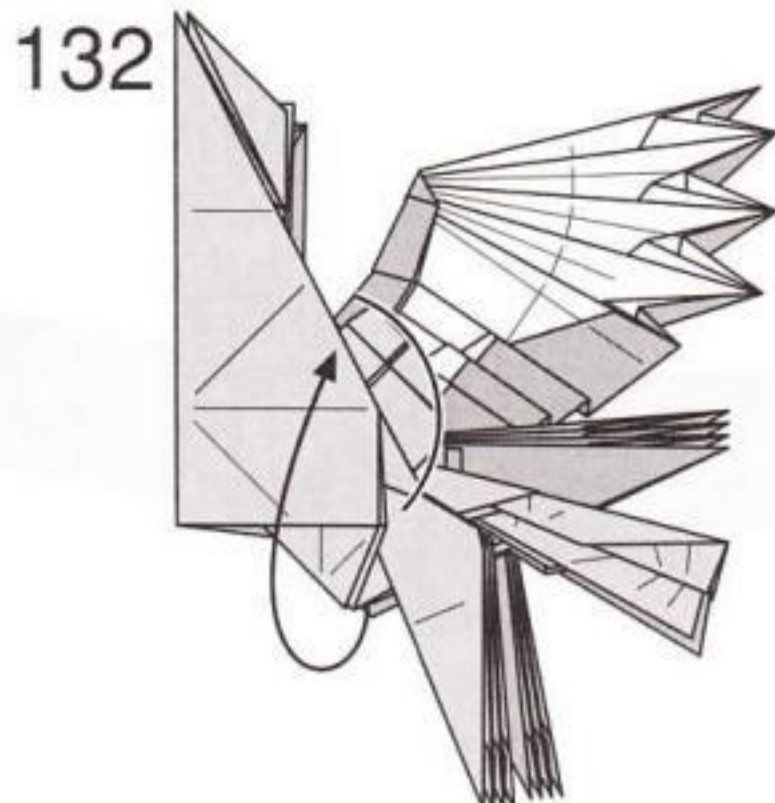
指の分岐より
手前のフチを中わり折り



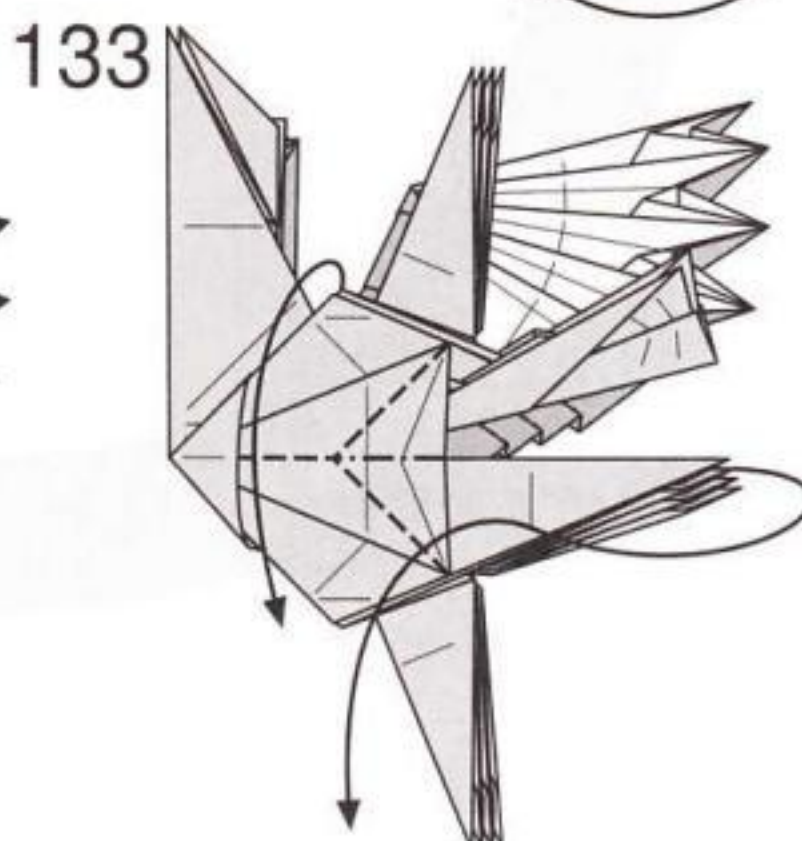
両側で段折り



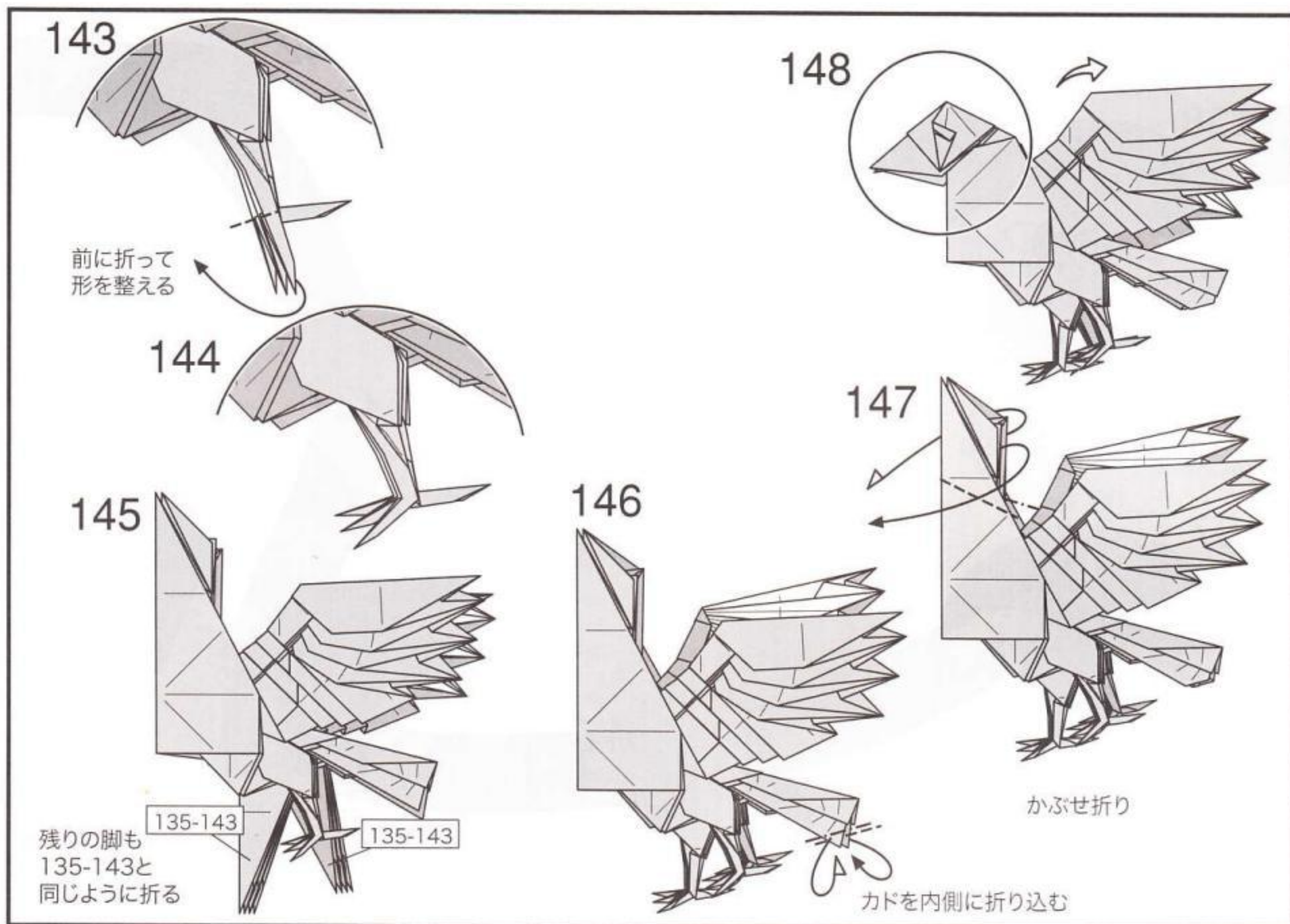
尾のカドを
両側で段折り



中心の隙間を広げる



3本目の脚のカドを
中わり折りしながら戻す



Orisuzi ("Fold-Creases")

僕のおりすじ

My Background in Origami

笹沼勇人

Sasanuma Hayato

幼稚園生のころ、「折り紙には極めがある」と思った記憶があります。私は物心ついた頃には折り紙にはまっていた部類の人間です。しかし、TVに出ていたような複雑な作品をどうやって作るのかはわかりませんでした。とりあえず日本折紙協会の月刊おりがみを購読し、小学生のころはひたすらシンプルな作品を作っていました。複雑な作品に飢えていた小学校高学年、早稲田中学の文化祭にて折紙同好会の教室で「折紙探偵団」と出会います。折紙探偵団の存在を知ってからは、バックナンバーを購入し、いろんな作品をガツガツ折りました。そこで技術がぐっと底上げされたように思います。

中学受験、折紙同好会がある早稲田中学に行きたかったのですが……早稲田はレベルが高いですね。茨城県南の中高一貫校に進学しました。折紙部がなかったので、入学してしばらくは折紙部を作ろうとしましたが、そもそも自分以外に折り紙をやりたい人がいなかったもので、結局個人的に図書室で折り紙をやっていました。また、折紙探偵団東京友の会に参加し始めたのも中学生の頃でした。しかし、前川悪魔と聞いてもピンとこないぐらい知識がなかったので、周りの人と交流する自信もなく、すぐに帰宅していました。

大学受験を終え、大学でも個人的に折り紙をやろうかと考えていましたが、進学先にまさかの折り紙サークル

(東工大折紙同好会FIT)がありました。FITという看板を持ってからは、FITの友達とコンベンションに参加するようになり、例会でも折紙愛好家の方々と交流できるようになりました。昨年の10月にはフィンランドで折り紙を教えるイベントにも参加しました。この大学3年間でかなり折り紙界に入っていけたかなと思います。また、Twitterも始め、ネット上の折り紙仲間との広いつながりも感じています。

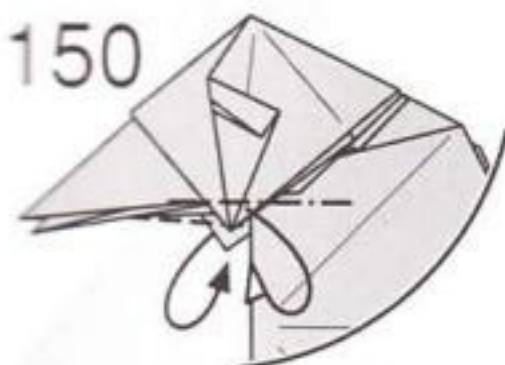
今では大学4年で研究室に配属され、ロボットの研究をしています。これからは折り紙の技術を生かしたロボットを研究したいと思っています。まだまだ様々な折り紙の側面を研究できることが楽しみです。

149



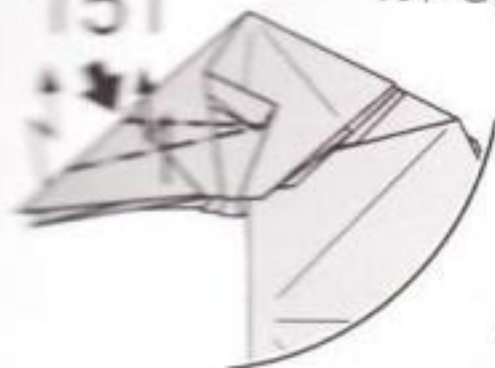
フチを内側に折り込む

150



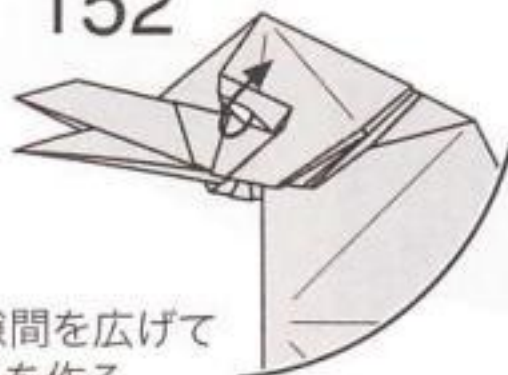
カドを内側へ折る

151

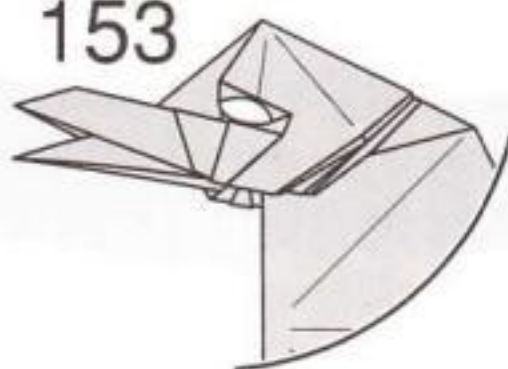


両側で段折り

152

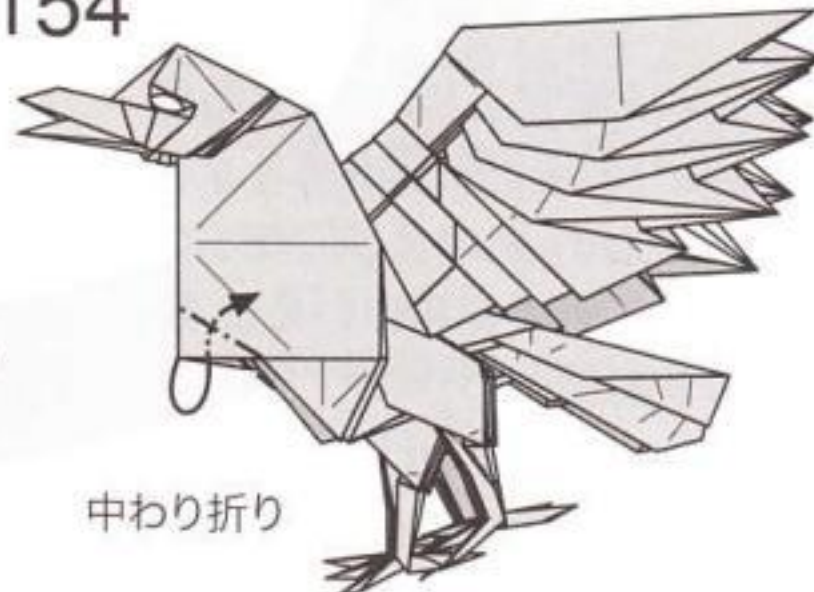
隙間を広げて
目を作る
反対側も同様に折る

153

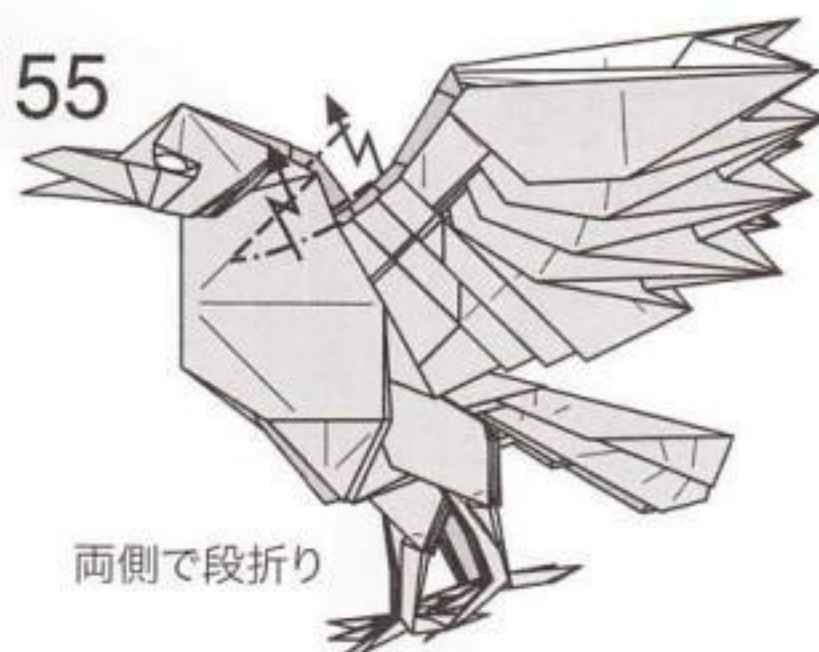


中わり折り

154

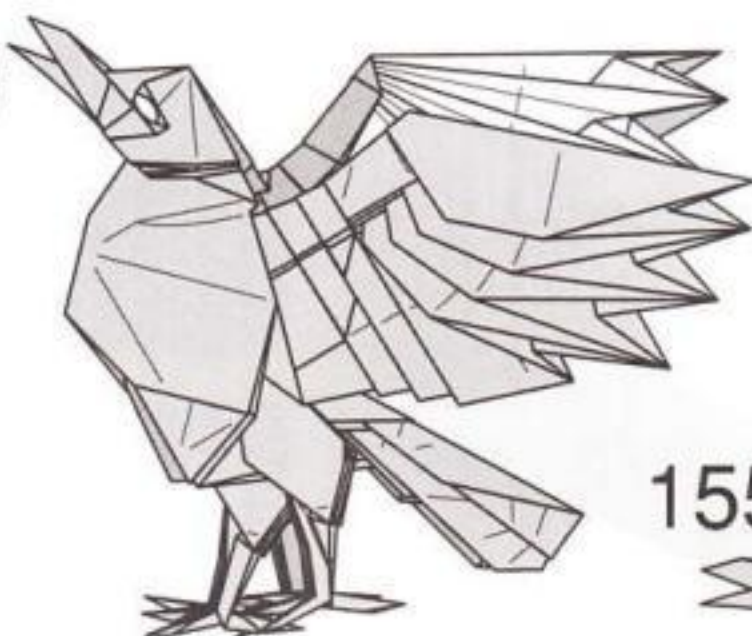


155



両側で段折り

156

完成
以下好きなように仕上げる

折紙三昧

80

Origami-Zanmai (This Origami and That)

折りプロセスの表現性を考えてみる

Expressive Features in Folding Processes

折り工程が鑑賞の対象になり得ることは、このコラムに限らず幾度となく言ってきましたし、多くの折り紙愛好家には共感いただけることでしょう。折り紙独特の幾何学的リズムや思いがけない形の変化や、初期につけたおりすじが絶妙な目安となったり、思わぬ折り易さを与えたり、取り得るルートを工夫することで同じ構造設計の折り紙作品の内容をより豊かにさせることが可能です。作品には最終形を表す名称を与えつつも、むしろこのプロセスこそが創作の本質と言いたくなることもあるものです。149号の本コラムで触れたコミュニケーションツールとしての折り紙の効能や

129号で述べた「思いを形にする作用」も、この折り紙の持つ（折り工程が持つ）言語に頼らない時間共有の機能の賜物です。このように折り工程は音楽のような時間芸術に比喻できる要素を数多く持っています。

音楽といえば、107号の本コラム「おりがみ カンタービレ^{*}」では、楽譜の演奏記号の中でもユニークな発想記号を模して折り図の表現にも“気まぐれに”とか“思い切って”とか“破れてもかまわないくらいに”とか“精神を込めて”とかの記号があったらどうかと少々面白がって書きました。ところが、最近の拙作「バラ3」をコンベンションで講習する

時に、本作のクライマックスで花芯を絞り上げるように整える工程で用いた表現は、まさに「破れるのではないかと心配になるくらい、キュッと音がしたかと思うところまで回す!」でしたから、折り図への発想記号の導入はあながち冗談ではないかと、講習後ひとり合点するのでした。折りのプロセスに潜む表現性を探して行くのも創作の醍醐味です。講習では、単に出来上がりの再現を目指すのではなく、折りのプロセスのこのような体験をできるだけ共有したいと望んでいます。

^{*}“カンタービレ”は「歌うように」

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第101回

騎馬像

Equestrian statue

各務 均

Kakami Hitoshi

Created: 2016/4

Paper Size: 64cm×64cm

Length: 17cm



基本形



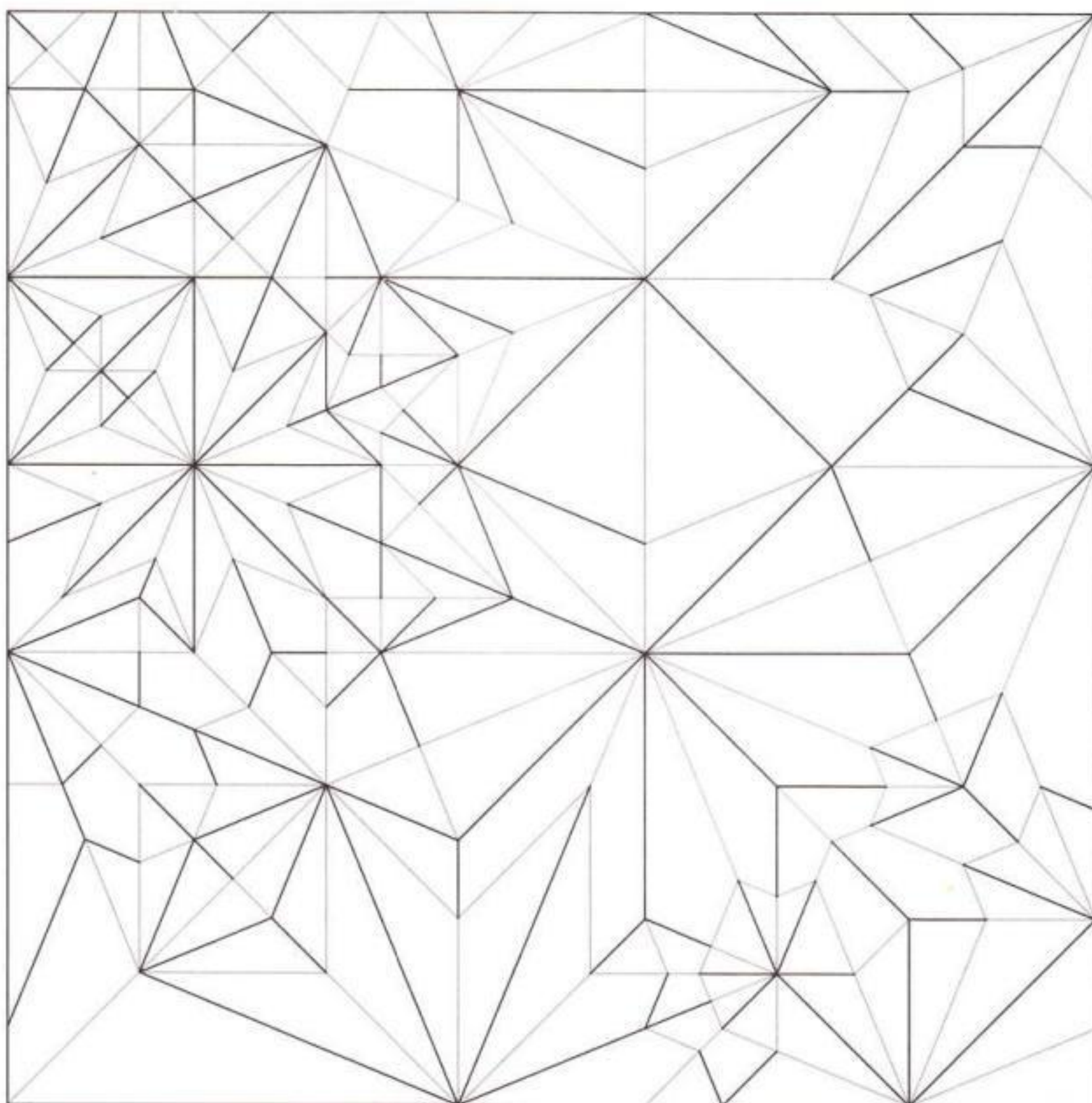
関係性を理解するということを展開図折りの場面で考えると、展開図上のカドが作品のどこになるのかを見つけることであるといえます。つまりはカド配置ということですが、このとき我々の理解を助けてくれる存在として「対称軸」というものがあります。対称軸は作品の背骨のようなもので、これを基準にして全体構造を把握することができます。創作の場面においては、紙の使い方を決めるガイドラインになるもので、対角線上にとったり、辺の二等分線上にとったりすることがあるのはご存じのとおりです。折り紙の対象となる題材は一般的に左右対称であることが多いため、日頃からお世話になっている方も多いのではないのでしょうか。

しかし創作をしていく中で、この存在が過剰な制約になっていると感じることがあります。対称軸を持った作品を作る時、考える必要があるのは紙の半分であって残りの半分は自動的に決まります。これはつまり半分だけ考えれば良いという捉え方と、半分しか考えることができないという捉え方ができます。対称軸の存在によって紙の半分もの領域が拘束されるということは、極端に言えば、1枚の紙が持っている可能性の半分が削られているということです。削られた残り半分の可能性を筆者なりに試行錯誤している中で、今回紹介する機会をい

ただいたのが本作品です。もちろん対称軸の存在を否定したいわけではなくて、少し変わったアプローチを試してみた結果としてご覧いただければと思います。

文章にするのは難しいですが、右足を内部から出したから、左足は辺から出そうといった感じで対称的な構造をできる限り避けて折り進めた結

果、このような自由配置的な構成になっています。実験的要素が多く含まれており、紙のバランスや効率といった面からの評価も必要ですが、まずは実際に畳んでみてください。図に示す基本形までが本作品の核心部分ですので、その後の造形は自由に行いましょう。



Rabbit Ear

つまみおり

Information

主な内容

●特別講演会(12日)

内容未定:詳細は次号にて。

●折り紙教室(13、14日)

当大会のメインイベント。各教室の定員は難易度、講師によって異なりますが、25~28名で、一度に12~14の教室が開催されます。

●懇親会(13日希望者のみ)

毎日100名を超す参加者で賑わう懇親会。堅苦しさの無い、折り紙好きのための親睦パーティー。参加費4,500円。

●一般作品展示(13、14日)

オリジナル作品を中心に、参加者皆さんの自慢の作品を展示。作品展示には、事前申し込みが必要です。

●COA作品展示(12~14日)

昨年、コンベンションと併催で開かれたCOA(国際大学折紙連盟)の作品展が、今年も開催されます。

●折り紙教室講師募集中

自信作、お気に入り、を、コンベンションで教えてみませんか。資格不要。易しい作品、難しい作品、初めての方もベテラン講師の方も大歓迎です。

●コンベンション参加費

大人	27期購読者・会員	5,000円
	27期非購読者・非会員	5,500円
学生	27期購読者・会員	3,000円
	27期非購読者・非会員	4,000円
親子(親子1組)	27期購読者・会員	2,000円
	27期非購読者・非会員	2,500円
大人が購読者・会員=5,000円+子ども2,500円×人数分		
子どもが購読者・会員=5,500円+子ども2,000円×1名		

※コンベンション参加費には、折り紙用紙、名札、記念バッジ、ボールペンなどの費用が含まれています。親子割引を適用の場合、折り紙用紙とボールペンは1人分の配布となります。

コンベンション 折り図集原稿大募集

折紙探偵団コンベンション開催に合わせて発行される折り図集への投稿作品を、広く募集しています。自慢の作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第22回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限りです。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法

ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能です。http://origami.gr.jp/Convention/22nd/

◆応募締め切り:2016年6月末日

第10回JOAS 創作折り紙コンテスト 作品募集

10回目となるJOAS創作折り紙コンテスト。力作・自信作をお待ちしています。

■JOAS賞 特別テーマ部門:「ロボット」

■JOAS賞 干支部門:「とり」

■おりがみはうす賞:テーマ無し(自由題)

第22回折紙探偵団 コンベンション 参加申し込み受付開始

2016年8月12日(金)、13日(土)、14日(日)

会場:東洋大学1号館(東京都文京区)

今年の吉野一生基金招待者は、ロベルト・モラッシー氏(写真左:イタリア)、ミッシェル・ファン氏(写真右:USA)に決定!



▶1つの賞に1人1作品まで応募可▶いずれの賞でも複合は可▶切り込みは原則不可▶平面・立体作品のいずれでも可▶未発表の創作作品に限る。

募集条件等の詳しい内容はウェブサイトをご覧ください。http://origami.gr.jp/Convention/22nd/index.html#competition

◆申込用紙入手方法:

折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」よりダウンロードしてください。

◆応募締め切り:2016年7月末日

◆審査と表彰式:第22回折紙探偵団コンベンション開催中に行われます。

22nd Origami Tanteidan Convention Call for Diagrams and Models

We will be holding the 22nd Origami Tanteidan Convention from August 12th to 14th, 2016. We are currently accepting diagrams for the annual convention book. You will receive a complimentary copy if your diagrams are included. Templates are available on the JOAS website. The deadline for submission is June 30th. During the convention, we will also hold the 10th JOAS Origami Model Competition with three categories: two JOAS awards themed on "Robot" and "Chicken", and the Origami House award with no theme set. For more details, please visit the JOAS website. http://www.origami.gr.jp/Convention/22nd/index-e.html

◆吉野一生作品コーナー設置企画

吉野一生氏が1996年に32歳で亡くなって、早くも20年が経ちます。

吉野氏は折紙探偵団(現・日本折紙学会)の創立メンバーの一人であり、類まれなる才能で次々と作品を生み出し、当時の若手愛好家を牽引する存在でした。亡くなった年、には「吉野一生基金」が設立され、海外の若手作家や有名作家をコンベンションへ招待するなど、生前彼がそうであったように、若手作家への良い刺激となっています。そんな氏を偲ぶ作品展示が企画されています。

「第22回折紙探偵団コンベンション」の一般展示において、吉野一生氏の作品を折ったものを募集し、吉野氏が遺したオリジナル作品と共に展示します。20年の間、ほとんど展示されてこなかった吉野氏の名作が並ぶこの機会に、吉野作品を折ってみませんか。奮ってご参加

ください。

▶参加資格:「第22回折紙探偵団コンベンション」の参加者であることが必要です。▶作品について:出品は1人1点、30×30×30cm以内の大きさで作り、自立するように予め加工しておいてください。▶キャプションについて:各自で作成してください。作品名と折った本人の名前を明記。▶搬入について:当日、直接展示会場へ作品を持ち込み、係員の指示に従ってください。

故・吉野一生氏
お手折りの「馬」
おりがみはうす蔵



◆第20回折り紙の科学・数学・教育研究集会

第20回折り紙の科学・数学・教育研究集会を行います。今回は、試験的に九州をサテライト会場として、映像を配信する予定です。聴講において資格などの制限はありませんので、ぜひご参加ください。詳細はウェブでお知らせします。なお、発表者を募集しています。

◇日時:6月25日(土)

◇会場:JOASホール(東京都文京区白

山1-33-8-217)

◇発表者応募要項

以下の内容を、6月12日までに、メールで送付してください。

氏名、連絡先、発表タイトル、発表概要(200文字まで)、発表予定時間(30分以下としますが、交渉に応じます)

連絡先:webman@origami.gr.jp

(担当 前川)

◆「折りネット」展示会レポート

堀口直人／京大いまじろ〜・中田恭輔

折り紙サークルネットワーク(折りネット)は、全国の大学折り紙サークルが作る団体である。サークル間の交流会と一般向け展示講習会を年1回ずつ、東日本と西日本の持ち回りで隔年開催している。昨年3月には大阪で展示会があった。

その「折りネット」が3月に東京で展示講習会を行った。東日本での一般向け展示会は初の試みだ。展示講習の他、巨大折り紙の実演や参加型イベント、折り比べコンテストが行われた。今回は、展示会に参加した部員によるレポートを紹介する。

◆ ◆ ◆

去る3月20~21日、「折り紙サークルネットワーク」の展示会を、品川区のスクエア荏原で開催した。「折りネット」は昨年春の定期展示会をスタートし、今回が第2回となる。会場が都内であったこ

と、また一部の展示予定作品がSNSで話題になったこともあってか、昨年と比べて非常に多くの来場者に恵まれた。

今回参加したのは10サークル、展示作品は100点を超えた。技巧が光る力作から、新たな表現方法に挑戦したものまで、作品の表情も様々。特に今回は、作品の魅力を引き出すためのレイアウトを事前に吟味し、より洗練された展示会を目指した。

別階では、恒例となった折り紙教室と巨大作品制作に加え、来場者が折った鶴に学生が点数をつけるという一風変わったパフォーマンスも行われた。会場の一角に設けた交流スペースでは、学生と来場者が思い思いに紙を折り、創作について情報交換をする姿も見られた。学生ならではのカジュアルな雰囲気も、「折りネット」の展示会の大きな魅力の

◆若手科学者賞で「折研究」2件受賞

科学技術分野の文部科学大臣表彰が4月20日に文部科学省で行われました。そのうち、若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者に表彰されます。

平成28年度の若手科学者賞に選ばれた99名の中には、折紙工学が専門の石田祥子氏(明治大学)と日本折紙学会評議員の館 知宏氏(東京大学)が入っており、「折り紙」のテーマが2件受賞したことになります。

石田氏は「数値折紙を用いた展開収縮構造の設計と工学応用に関する研究」の業績で、等角写像変換による折り線の設計や展開収縮構造の双安定性を活かした防振機構などが評価されました。館氏は「計算折紙に基づく空間構造デザインシステムの研究」の業績で、立体形状やメカニズムを解析・設計するためのソフトウェアや剛性と折り畳みの柔軟性を両立する折紙構造などが評価されています。

文部科学省プレスリリース

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/1369460.htm

一つだ。

まだ設立して間もないものが多い大学折り紙サークルだが、各々が日々の活動で経験を重ね、頼もしい存在へと成長している。団体も今年で結成3年目を迎え、運営のノウハウが蓄積されてきた。新年度に入り、新たな大学サークル設立の噂も聞こえ始めている。来年春の第3回展示会では、また新たな風が吹くかもしれない。(編注: P.23に関連写真掲載)



▲交流スペースで親睦を深める参加者達

◆国際大学折紙連盟 (ICOA) 展示作品募集

国際大学折紙連盟 (ICOA: International Collegiate Origami Association) とは、大学の折り紙サークルの恒常的な継続と、グローバルな発展を目指すことを目的とする、日本折紙学会の下部団体です。現在の具体的な活動としては、国内外の大学サークル・学生による折り紙作品の展示会を各地で行っています。

昨年設立後初の試みとして「第21回折紙探偵団コンベンション」と併催で展示会を開催しました。31校(海外16校)の大学から48名(海外18名)の作品161点(海外50点)が集まり、盛況のうちに終了しました。その後、11月上旬には金沢市で、下旬には名古屋芸術大学で展示会が開かれました。

今年度は、現在のところ8月に東京とソウルで、秋に佐賀での展示を予定しています。

◆東京展示会:

＜場所＞東洋大学(第22回折紙探偵団コンベンションと同時開催)

＜会期＞8月12日(金)～8月14日(日)
＊入場無料(コンベンションに参加せずとも見学可能)

◆韓国展示会:

＜場所＞韓国コンテンツ振興院コンテンツ・メディア・ラボ

＜会期＞8月23日(火)～25日(木)

◆佐賀展示会(予定):

＜場所＞佐賀大学美術館

＜会期＞11月

今回は、8月の東京とソウルでの展示会に出品する作品を募集します。

◆参加資格: 現役の大学生であること。

◆応募方法:

創作作品と習作作品の2部門があります。創作作品は応募者本人が考案したもの、習作作品は他者が考案した作品を、展開図や折り図などを見て折ったものです。出品希望の方は、以下の項目を、7月23日までに icoa@origami.gr.jp へお送りください。

A. 創作作品:

1. 作品の創作者名(漢字と読みがな)と

その連絡先

2. 学年
3. 作品のタイトル(日本語と英語両方)
4. 作品サイズ(30×30×30cmを超えるものについては要事前相談)
5. 搬入方法(直接搬入、事前持込、郵送)事前持込か郵送の場合は、展示した状態を撮影した写真を添付のこと。
6. 作品返却の有無
7. 様式(不折正方形一枚折り、ユニット、複合など使用枚数や用紙形について)
8. 作品のコメント(あれば50文字以内)

B. 創作作品以外:

Aの項目に加えて2項目が必要。

9. 原作者名と出典(原作者名は日本語と英語の両方必要)
10. 審査用の写真^{*}(作品の全形がわかるもの。ファイル名は「名前+作品名」)
※習作作品のみ写真審査有り。
詳細な説明(日本語のみ)と応募シート(excelファイル)を用意しています。ご希望の方は icoa@origami.gr.jp までお問い合わせください。

International Collegiate Origami Association (ICOA) is a branch organization of JOAS established to support long-standing international activities of college-level origami groups all over the world. Currently we are holding exhibition events with models created/folded by our members and other college students.

Last year, we held an event at the time of the 21st Origami Tanteidan Convention as our first activity. The exhibition had 161 models created/folded by 48 students of 31 colleges (50 models by 18 students of 16 colleges abroad). After that, we had exhibition events in Kanazawa, and another event at the time of the Origami Tanteidan Nagoya Convention, both in November.

◆ This year, we are planning exhibition events in August at the time of the 22nd Origami Tanteidan International Convention in Tokyo and in Seoul two weeks after that, and we are also planning another event in Saga in November.

◆ The Tokyo Exhibition Event

Place: Toyo University (at the time of the 22nd Origami Tanteidan Convention)

Date: August 12 (Fri.) – 14 (Sun.),

2016

◆ The Seoul Event

Place: Korea Creative Content Agency Contents Media Laboratory
Date: August 23 (Tue.) – 25 (Thu.), 2016

◆ The Saga Event (subject to change)

Place: The Saga University Art Museum
Date: November, 2016

We are calling for models for the Tokyo and Seoul events in August.

◆ Qualification: The applicant must be a college student at present.

◆ Application will be done in two categories: A. The Original Models Section and B. The Etude Section (i.e., Folding Models Created by Somebody Else). The applicants must send the following pieces of information to icoa@origami.gr.jp by July 23rd, 2016.

A. The Original Models Section

Name of the Applicant and Contact Address (possibly electronic)

Name of the college and grade (Fresher, Sophomore, Junior, Senior)

Title of the model

Size of the model

The way to carry in the model to

the exhibition site (In person (on the day of the event), In person (in advance), Mail, Other Carrier)

Please attach the photo of the model to be exhibited to your e-mail so that we can see the look of it when it is exhibited.

Do you want the model to be returned after the event? Yes/No
Paper (From an uncut square sheet (size of the sheet), modular (number of modules), composite model, others (the shape of the sheet and the size))

Comments (less than 30 words)

B. The Etude Section

In addition to the information above, the following should be specified in your e-mail.

The creator of the model, and the resource from which you came to know it

The photo of the model (Must be clear enough so that we can see the whole picture of the model. The file name should be "(Your Name) + (Model)".)

The Etude Section models will go through the previous screening procedure. For details, send an e-mail to icoa@origami.or.jp.

◆第9回折紙探偵団 静岡コンベンション開催

今秋の東海地区コンベンションは静岡にて開催です。

期日は11月26日(土)・27日(日)の2日間、場所は第8回と同じく東海大学社会教育センター三保研修館です。富士山を望む三保ノ松原にあり宿泊も併設の便利な施設です。前回好評をいただいた、三保水族館大水槽前での懇親会も企画しています。詳しい参加案内・募集開始は9月末頃予定です。皆さまのご参加お待ちしております。(静岡友の会)

◆吉野一生基金へ寄付について

第27期、5月14日現在、吉野一生基金には86名の方から396,290円の寄付をいただいております。ご協力ありがとうございます。皆様のお陰で、海外から将来を期待される優秀な若手作家や著名な作家を招くことができ、折り紙愛好家から好評を得ています。ご協力くださった方々のお名前(非公開1名)を、感謝の気持ちを込めて掲載させていただきます。

(50音順、敬称略)秋 裕美、阿部文子、安西 豊、石井妙子、石川忠昭、石田佳数、磯野昌子、板橋清美、伊藤風詞、伊藤記美代、伊藤 緑、稲山良子、猪ノ口洋子、Namiko Uyemoto、江先和也、榎本京子、大谷 貢、大野依子、岡田歩久登、小川富佐代、長田貴子、笠松 望、勝田恭平、加藤和子、神谷哲史、神谷誠一、川畑文昭、川村みゆき、切

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール／参加費=大人500円(非購読・非会員700円)、中学生以下300円(非購読・非会員500円)／時間=14:00~16:00／研究会=16:00~(開場は13:45、満員の場合は、先着順とします)

●6月4日(土)／講師:板垣悠一／作品:変身メガネ

●7月2日(土)／講師:井上岳哉／作品:10式戦車、講師:中村 楓／KV-2

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F)／参加費=500円(中学生以下200円)／時間=10:30~15:00 折り紙用紙・昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参下さい。

●6月5日(日)／講師:山梨明子／作品:二枚貝(作:津田良夫)

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室／参加費=大人500円(中学生以

◆前川淳氏一般向け講演

「宇宙観測とコンピュータ」と題した講演ですが、折り紙の科学についても触れる予定とのことです。興味深い講演となりそうです。

6月4日(土)15時~17時／東京農工大学小金井キャンパス科学博物館／募集人数:20名(要・予約／先着順)お申し込みは下記へお願いします。

農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター 水谷哲也

電話:042-367-5742

E-mail:tmizutan@cc.tuat.ac.jp

通泰子、北橋邦子、木村良寿、吉良さおり、久慈暁子、黒川禎三、小笹径一、小花光広、齊藤 隆、齊藤智美、左方文子、櫻井明美、笹出晋司、塩崎照世、島村麗子、鈴木雅江、鈴木美恵子、千田則子、武井純二、竹内 啓、立石浩一、立石吉枝、田中稔憲、田中正彦、田中泰子、津田真理子、富野泰子、豊村高志、中村淑子、西川誠司、西川直子、羽田清子、初音みね子、花岡真由美、林 郁雄、藤塗装工業(株)、藤原 具、北條高史、本位田那穂美、松浦英子、松浦宣子、松下節子、丸山克己、三浦明美、三浦公亮、三浦順子、三谷 純、宮本直子、宮本真理子、森谷登喜男、山川幸代、山北克彦、山口 真、山口之彦、横手俊哉、吉岡岳延、渡部國明以上

◆読者プレゼント当選者発表

『オリガミ・ボックス かわいい使える!不思議な箱がいっぱい』の当選者(敬称略)／阿部道子(東京都)、鈴木雅江(埼玉県)、保坂あけみ(千葉県)、馬田信子(福岡県)、素 敏江(千葉県)以上5名

下は200円)／時間=13:00~15:30

●6月18日(土)／講師:竹内 啓／作品:ハイカラキューブ、講師:田中幹人／作品:ホイップクリーム

●7月16日(土)／講師:未定／作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●6月12日(日)／時間=10:00~16:00／会場=高槻市立総合市民交流センター3階第2会議室／定員=40名／参加費=500円(中学生以下無料)

講師:小森近子／作品:四角窓+四つ葉(布施知子・作)、講師:黒川紀男／作品:Swan(Patricia Crawford・作)、講師:山口之彦／作品:民芸品風うし

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ 4階／参加費=500円(中学生以下は100円)／時間=13:00~16:00

●6月26日(日)第5研修室／講師:未定／作品:未定

●7月31日(日)第3研修室B／講師:未定／作品:未定

◆折り紙の世界 with ステンドグラス

4月30日から5月8日、山梨県北杜市のギャラリー「花のワルツ」で、「前川淳・折り紙の世界 with ステンドグラス」と題した企画展があった。同ギャラリーは、八ヶ岳山麓の大泉高原にあり、連休中の開催だったこともあり、約250人の入場者があった。展示した作品は、前川淳氏の代表作の「悪魔」や幾何モデルなどである。近年の折り紙造形を知らない入場者も多かったのも、見学者は感心して見入っていた。ギャラリーに灯るステンドグラス・スタンドの優しい光も、繊細な折り紙の展示にぴったりだった。(ステンドグラス製作/前川純子、他)

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「OrigamiATC研究会」

6月27日(月)／参加費=1,000円(材料費別)／11:00~16:00／講習内容=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折り紙の情報交換等／講師=松浦英子／定員=20名／初心者歓迎。ATC交換会は、郵送参加も受け付けています。6月27日のATC交換会のテーマは、「夢」です。郵送参加も受付中。詳しくはおりがみほうす公式サイトをご覧ください。

<http://www.origamihouse.jp/>

編集後記

■気がつけば何と27期。■私もそれなりに老いてきているという事だ。■今年は6回目の年男。■引退も考えなければならない歳だ。■OUSA NY-Conventionも今年が最後かも。■行けても来年が最後だろうと思う。■今までは個人的な作品ばかりを展示してきたが、ここで『千羽鶴折形』の魅力を知ってもらおうと『千羽鶴折形』展をNYコンベンションで開催することになった。■展示もしっかりしたものにしたとそれぞれアクリルのスタンドを作りディスプレイする。■皆さんに興味を持って頂けたら最後となるか分からないNYConventionも良い思い出になるかと思う。■私の発想ではじまった一生基金も今年で20回を迎えます。■皆様の協力で多くのスペシャルゲストを迎えることができ、国際交流に役立っています。■うれしいですね。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2016年5月25日発行 第27巻1号 通巻157号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみほうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.157 / Published on 25, May 2016 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Yatagarasu" Produced by Kamiya Satoshi / Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはずべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第21回折紙探偵団コンベンション

折り図集vol.21

日本折紙学会 編 / 2,480円 / 送料430円
B5判 / 全288頁 / 57作品収録

収録作品: エキドナ: 川村みゆき / ステゴサウルス: 川畑文昭 / ヒツジ: 神谷哲史 / ドラゴン: 小松英夫 / 飛ぶカブトムシ: シュウキ・カトウ / HJ Rex: ジェイソン・クー / ネズミ: ロナルド・コウ / ヤギ: グエン・フン・クオン / クジャク: マーク・カーシェンバウムほか

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込)	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判/全232頁/カラー口絵8頁/16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判/全232頁/カラー口絵8頁/20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折り図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 —折り紙のマジシャン— 立石浩一 訳	5,180円		B5判ハードカバー全144頁/カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第20回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.20 日本折紙学会 編	2,480円	書籍2冊の 送料は 540円です	B5判/全288頁 国内・外から集まった秀作 61 作品を収録
第19回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判/全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円		B5判/全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1～2セット 450円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
折紙探偵団マガジン専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

CLICK!

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月～金 12時～15時 土・日・祝 10時～18時

TANT
タント

12 COLOR PAPER

¥600
(税抜き)

両面同色でコシがある紙なので、
しっかりした作品に仕上がります。

35.0×35.0cm
12枚入(12色)



赤系の色を集めた 12色



青系の色を集めた 12色



黄系の色を集めた 12色



緑系の色を集めた 12色